

5 意思決定の過程への女性の参画について

1. 各分野における女性の意見の反映状況

問 16 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。(それぞれ1つに○)

女性の意見は【政治】や【行政】、【職場】では『反映されていない』の割合が『反映されている』より高く、【地域】では『反映されている』の割合が『反映されていない』より高い。

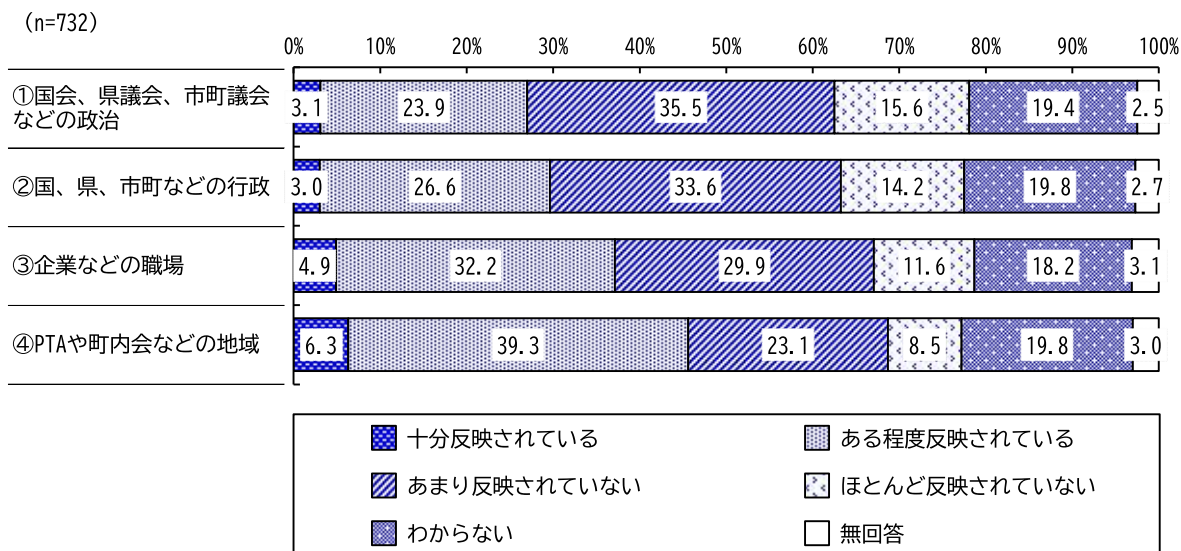
様々な分野において女性の意見がどの程度反映されていると思うかについてたずねたところ、【①国会、県議会、市町議会などの政治】では「十分反映されている」が3.1%、「ある程度反映されている」が23.9%、「あまり反映されていない」が35.5%、「ほとんど反映されていない」が15.6%、「わからない」が19.4%となっています。「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた『反映されていない』が51.1%となっています。

【②国、県、市町などの行政】では「十分反映されている」が3.0%、「ある程度反映されている」が26.6%、「あまり反映されていない」が33.6%、「ほとんど反映されていない」が14.2%、「わからない」が19.8%となっています。「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた『反映されていない』が47.8%となっています。

【③企業などの職場】では「十分反映されている」が4.9%、「ある程度反映されている」が32.2%、「あまり反映されていない」が29.9%、「ほとんど反映されていない」が11.6%、「わからない」が18.2%となっています。「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた『反映されていない』が41.5%となっています。

【④PTA や町内会などの地域】では「十分反映されている」が6.3%、「ある程度反映されている」が39.3%、「あまり反映されていない」が23.1%、「ほとんど反映されていない」が8.5%、「わからない」が19.8%となっています。「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた『反映されている』が45.6%となっています。

【全体】



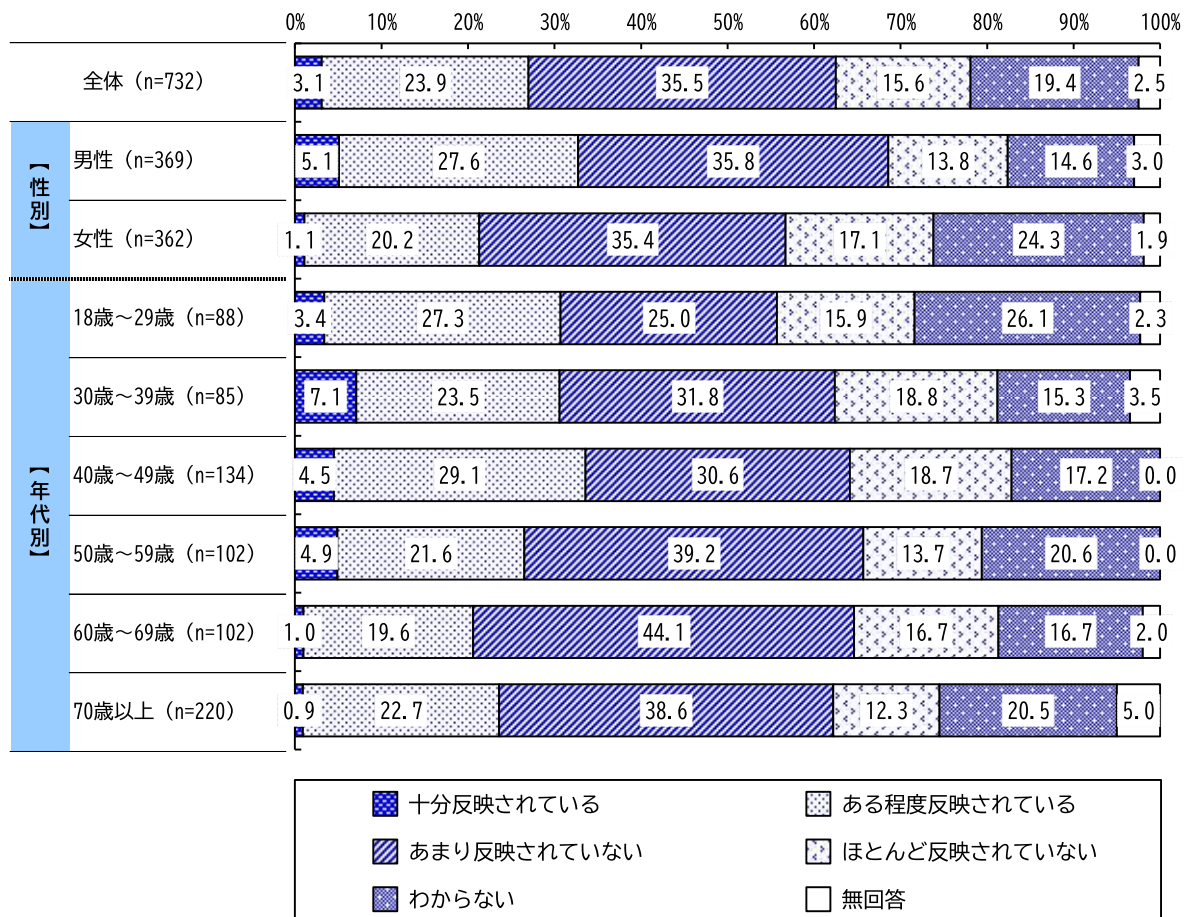
①国会、県議会、市町議会などの政治

＜国会、県議会、市町議会などの政治＞で女性の意見は『反映されていない』が
男性、女性ともに5割程度。

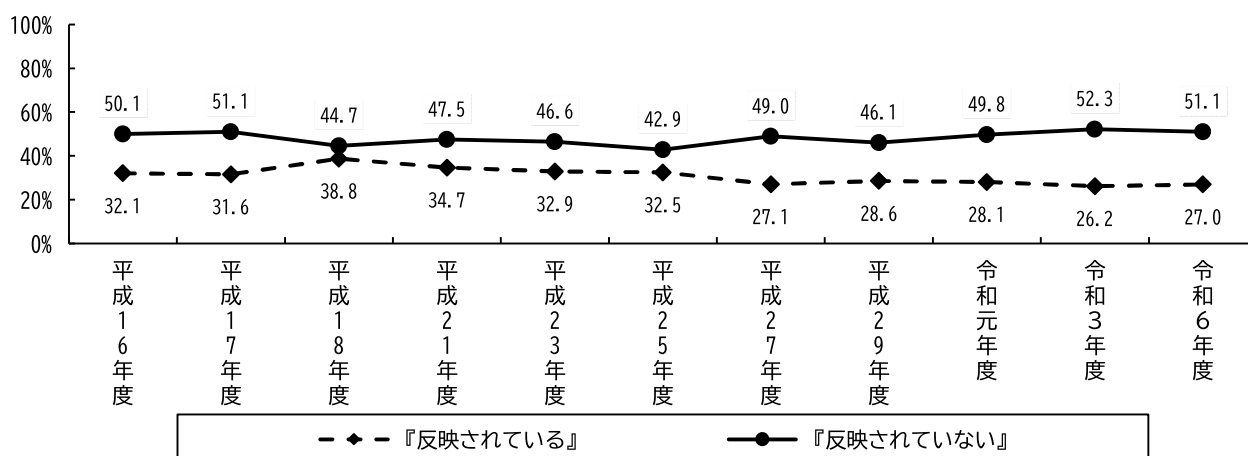
【①国会、県議会、市町議会などの政治】を性別で見ると、『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）が男性は49.6%、女性は52.5%となっています。『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）で男性（32.7%）と女性（21.3%）の差は11.4ポイントとなっており、男女間で差がみられます。

年代別で見ると、60歳～69歳で『反映されていない』の割合が他の年代に比べて高くなっています。経年比較で見ると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）

	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	2.6%	29.5%	34.5%	15.6%	14.9%	2.9%
平成17年度	836	3.1%	28.5%	37.2%	13.9%	15.3%	2.0%
平成18年度	570	4.6%	34.2%	32.6%	12.1%	13.3%	3.2%
平成21年度	653	1.8%	32.9%	35.2%	12.3%	16.5%	1.2%
平成23年度	577	2.9%	30.0%	32.6%	14.0%	18.0%	2.4%
平成25年度	793	2.1%	30.4%	31.8%	11.1%	21.2%	3.4%
平成27年度	899	1.8%	25.3%	34.4%	14.6%	20.0%	4.0%
平成29年度	782	2.9%	25.7%	34.0%	12.1%	23.8%	1.4%
令和元年度	744	1.2%	26.9%	36.0%	13.8%	20.0%	2.0%
令和3年度	826	2.1%	24.1%	36.2%	16.1%	18.6%	2.9%
令和6年度	732	3.1%	23.9%	35.5%	15.6%	19.4%	2.5%

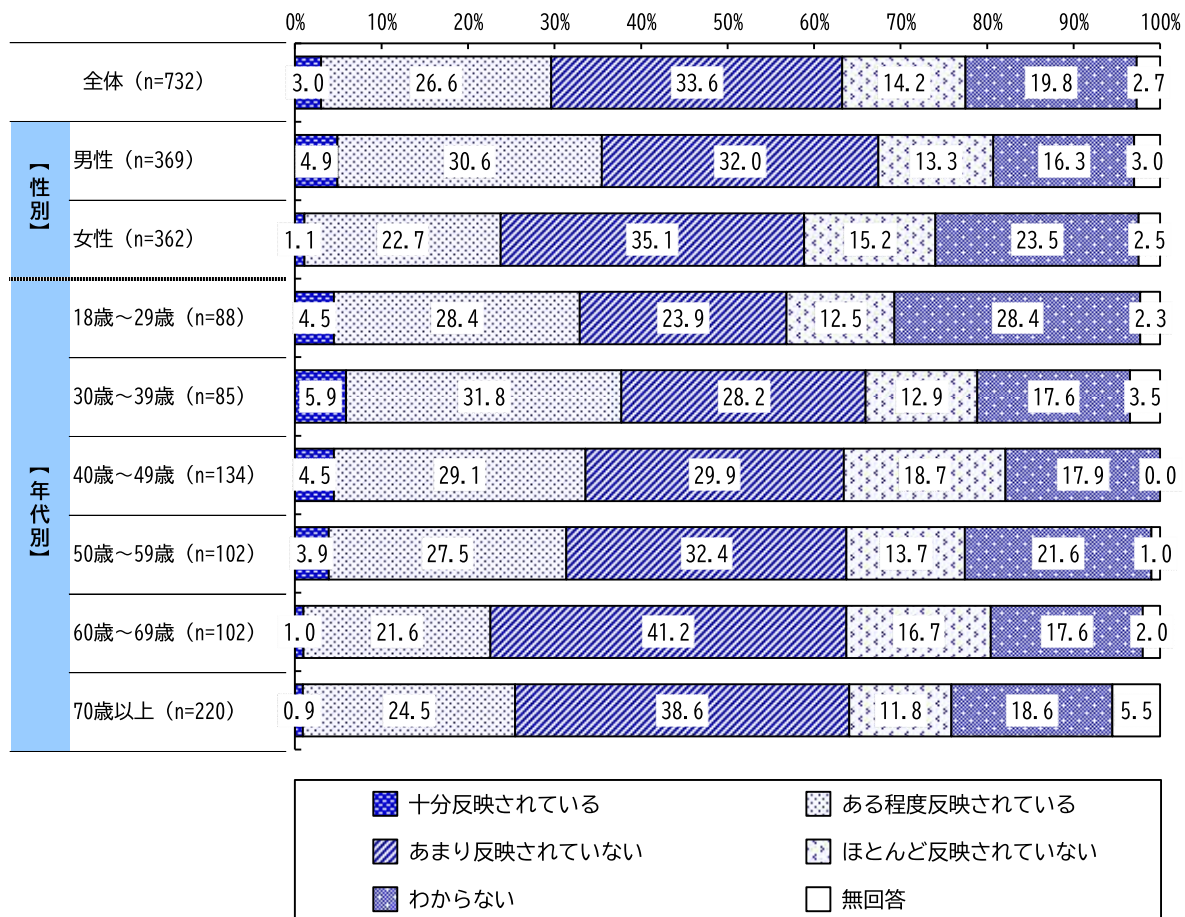
②国、県、市町などの行政

＜国、県、市町などの行政＞で女性の意見は『反映されていない』が
男性 45.3%、女性 50.3%。

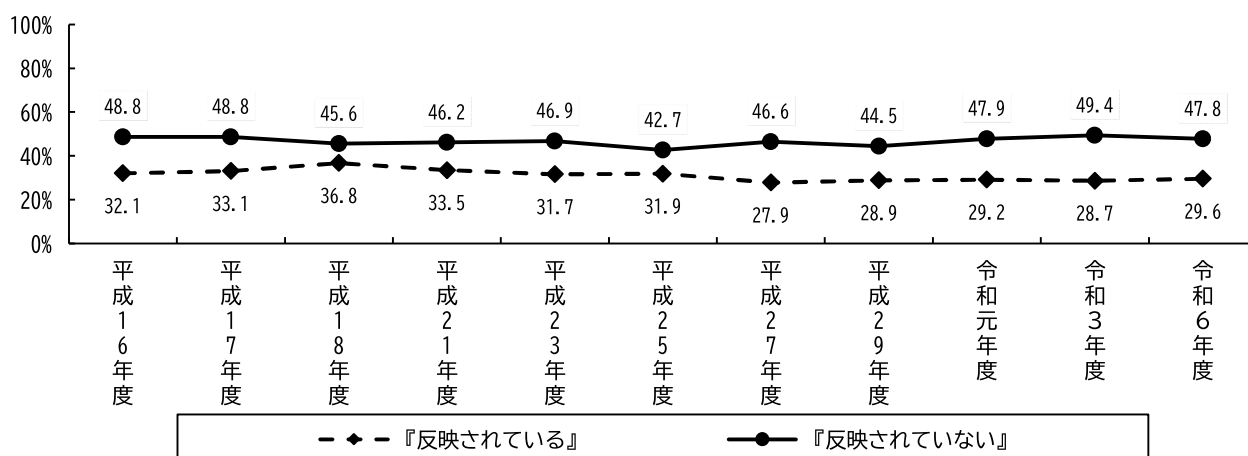
【②国、県、市町などの行政】を性別でみると、『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）が男性は45.3%、女性は50.3%となっています。『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）で男性（35.5%）と女性（23.8%）の差は11.7ポイントとなっており、男女間で差がみられます。

年代別でみると、60歳～69歳で『反映されていない』の割合が他の年代に比べて高くなっています。経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）

	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	1.8%	30.3%	37.0%	11.8%	15.4%	3.9%
平成17年度	836	2.8%	30.3%	37.4%	11.4%	15.8%	2.4%
平成18年度	570	4.2%	32.6%	34.2%	11.4%	14.0%	3.5%
平成21年度	653	2.1%	31.4%	34.6%	11.6%	17.8%	2.5%
平成23年度	577	2.8%	28.9%	32.9%	14.0%	19.1%	2.3%
平成25年度	793	1.9%	30.0%	32.5%	10.2%	21.3%	4.0%
平成27年度	899	1.2%	26.7%	32.7%	13.9%	21.5%	4.0%
平成29年度	782	2.6%	26.3%	33.8%	10.7%	25.1%	1.5%
令和元年度	744	1.5%	27.7%	35.1%	12.8%	21.0%	2.0%
令和3年度	826	2.4%	26.3%	35.0%	14.4%	18.6%	3.3%
令和6年度	732	3.0%	26.6%	33.6%	14.2%	19.8%	2.7%

③企業などの職場

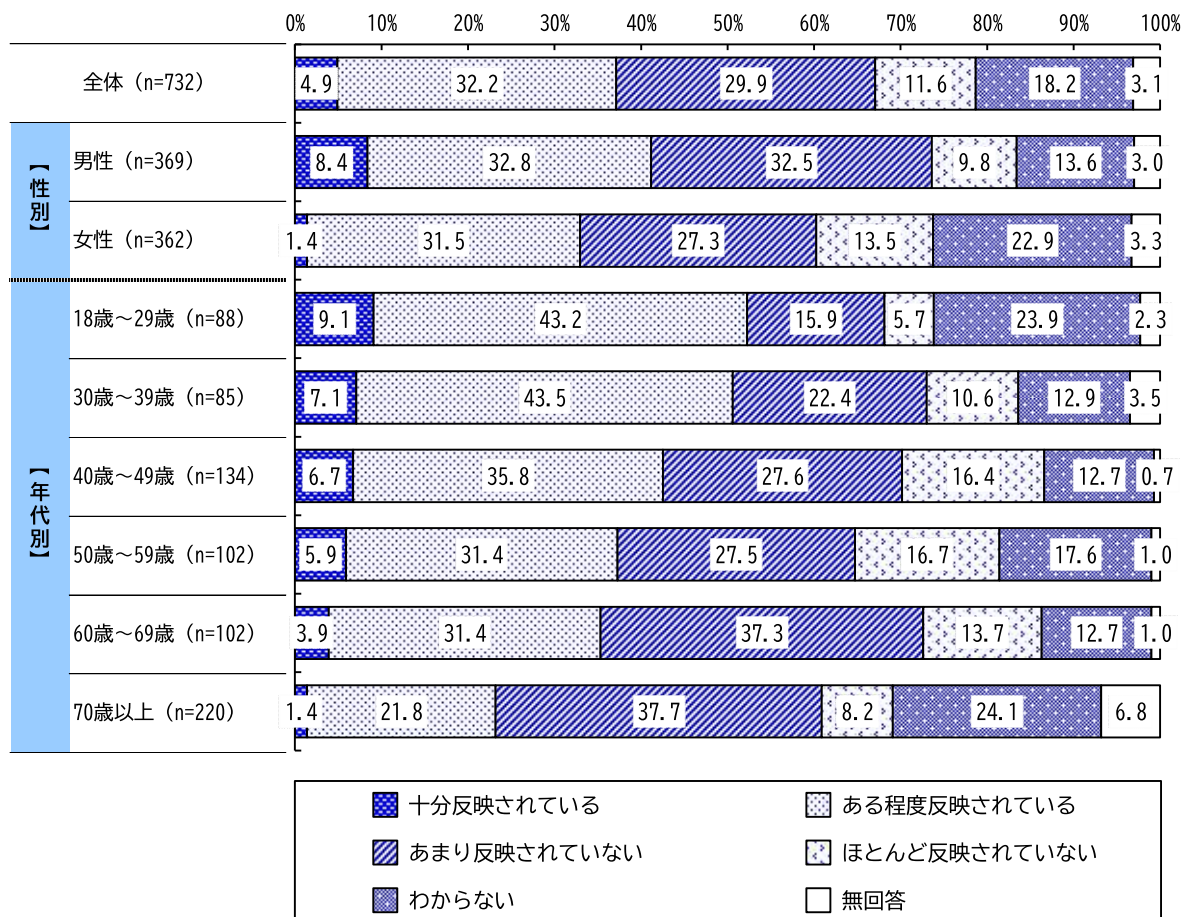
＜企業などの職場＞で女性の意見は『反映されていない』が男性、女性ともに4割以上、
『反映されている』は男性 41.2%、女性 32.9%。

【③企業などの職場】を性別でみると、『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）が男性は42.3%、女性は40.8%となっています。『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）で男性（41.2%）と女性（32.9%）の差は8.3ポイントとなっており、男女間で差がややみられます。

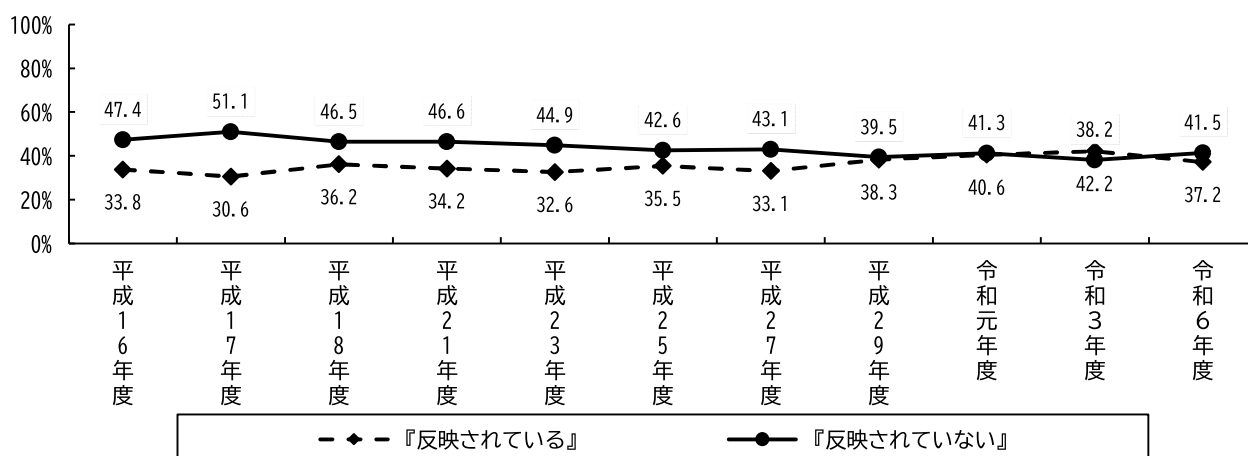
年代別でみると、30歳～39歳以下では『反映されている』の割合が5割以上、40歳～49歳以上では『反映されていない』の割合が『反映されている』より高くなっています。

経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）

	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	2.4%	31.4%	35.5%	11.9%	14.9%	4.0%
平成17年度	836	1.9%	28.7%	37.3%	13.8%	15.4%	2.9%
平成18年度	570	3.2%	33.0%	35.8%	10.7%	12.8%	4.6%
平成21年度	653	2.8%	31.4%	35.4%	11.2%	16.4%	2.9%
平成23年度	577	2.4%	30.2%	34.8%	10.1%	18.4%	4.2%
平成25年度	793	3.0%	32.5%	29.9%	12.7%	16.5%	5.3%
平成27年度	899	2.3%	30.8%	32.0%	11.1%	18.4%	5.3%
平成29年度	782	3.8%	34.5%	30.2%	9.3%	19.6%	2.6%
令和元年度	744	3.5%	37.1%	31.9%	9.4%	15.7%	2.4%
令和3年度	826	3.9%	38.3%	29.1%	9.1%	16.3%	3.4%
令和6年度	732	4.9%	32.2%	29.9%	11.6%	18.2%	3.1%

④PTA や町内会などの地域

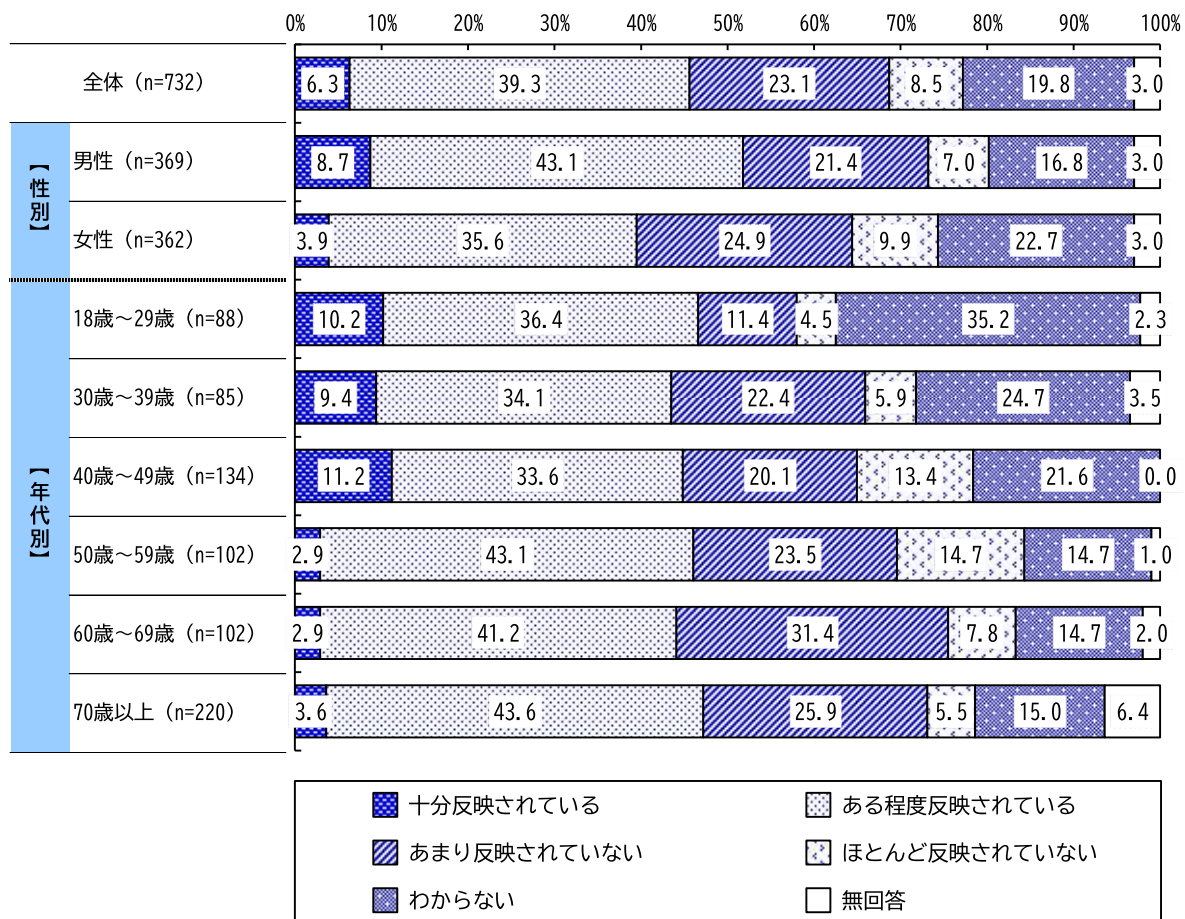
＜PTA や町内会などの地域＞で女性の意見は『反映されている』は男性 51.8%、女性 39.5%、
経年比較では『反映されている』が 9.6 ポイント減少(55.2%→45.6%)。

【④PTA や町内会などの地域】を性別でみると、『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）が男性は 51.8%、女性は 39.5%となっています。男性と女性の差は 12.3 ポイントの差となっており、男女間で差がみられます。

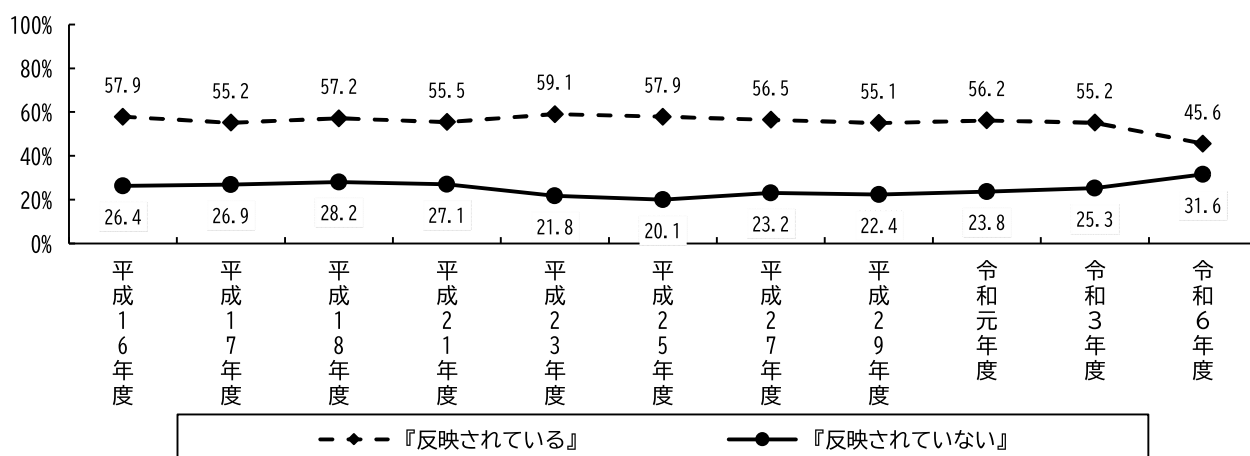
年代別でみると、全ての年代で『反映されている』の割合が『反映されていない』より高くなっていますが、60 歳～69 歳で「あまり反映されていない」の割合が他の年代に比べて高くなっています。

経年比較でみると、『反映されている』が前回調査より 9.6 ポイント低くなり、『反映されていない』が前回調査より 6.3 ポイント高くなっています。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）、『反映されていない』（「ほとんど反映されていない」＋「あまり反映されていない」）

	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	6.6%	51.3%	20.4%	6.0%	12.0%	3.8%
平成17年度	836	8.5%	46.7%	22.1%	4.8%	15.2%	2.8%
平成18年度	570	9.8%	47.4%	22.8%	5.4%	11.1%	3.5%
平成21年度	653	7.7%	47.8%	21.6%	5.5%	15.5%	2.0%
平成23年度	577	8.0%	51.1%	17.5%	4.3%	15.1%	4.0%
平成25年度	793	9.6%	48.3%	16.4%	3.7%	16.8%	5.3%
平成27年度	899	7.7%	48.8%	17.7%	5.5%	15.8%	4.6%
平成29年度	782	9.1%	46.0%	17.3%	5.1%	20.6%	1.9%
令和元年度	744	8.2%	48.0%	19.2%	4.6%	17.9%	2.2%
令和3年度	826	8.2%	47.0%	19.6%	5.7%	15.9%	3.6%
令和6年度	732	6.3%	39.3%	23.1%	8.5%	19.8%	3.0%

2. 意思決定の場に女性が参画すること

問 17 あなたは、意思決定の場に女性が参画することについて、どのように考えますか。(1つに○)

意思決定の場に参画する女性の望ましい水準は
「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」が 45.8%。

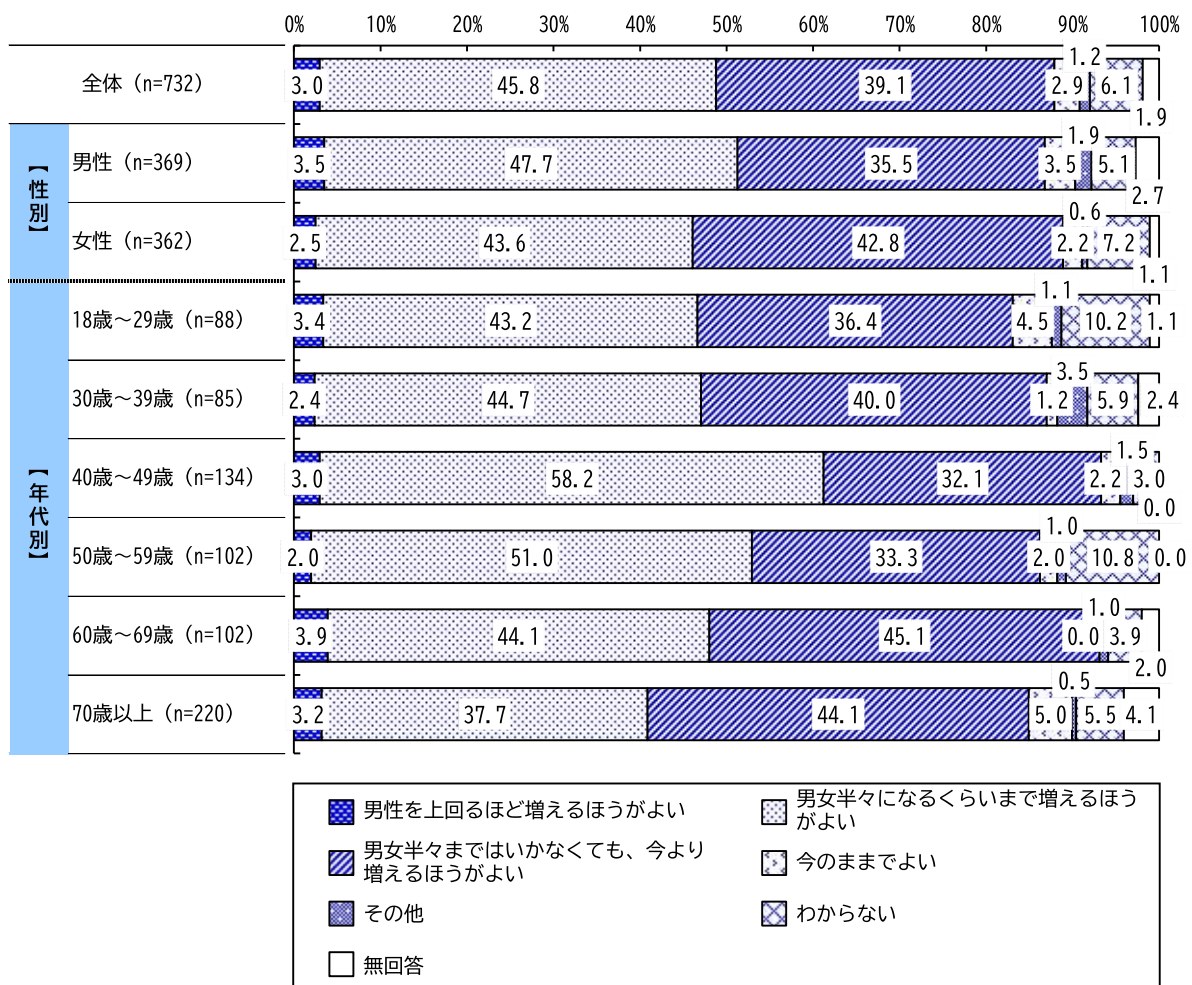
意思決定の場に女性が参画することについて、望ましい水準をたずねたところ、「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」が 45.8%と最も高く、次に「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」が 39.1%となっています。

性別でみると、「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」が男性は 47.7%、女性は 43.6%となっています。男性と女性の差は 4.1 ポイントの差となっており、男女間で差がややみられます。

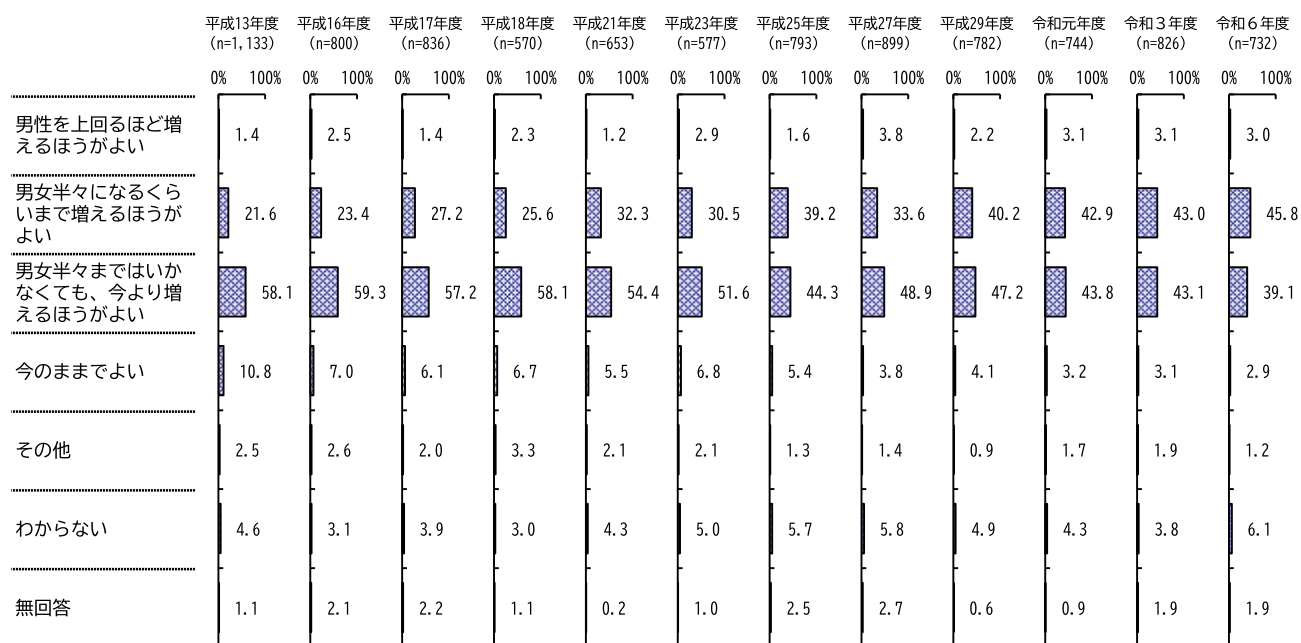
年代別でみると、40 歳～49 歳で「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」の割合が他の年代に比べて高くなっています。

経年比較でみると、「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」の割合が増加する一方で、「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」の割合は減少傾向にあります。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



3. 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由

問 18 現状では、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない状況にあります。あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。(3つまでに○)

「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が 51.4%。

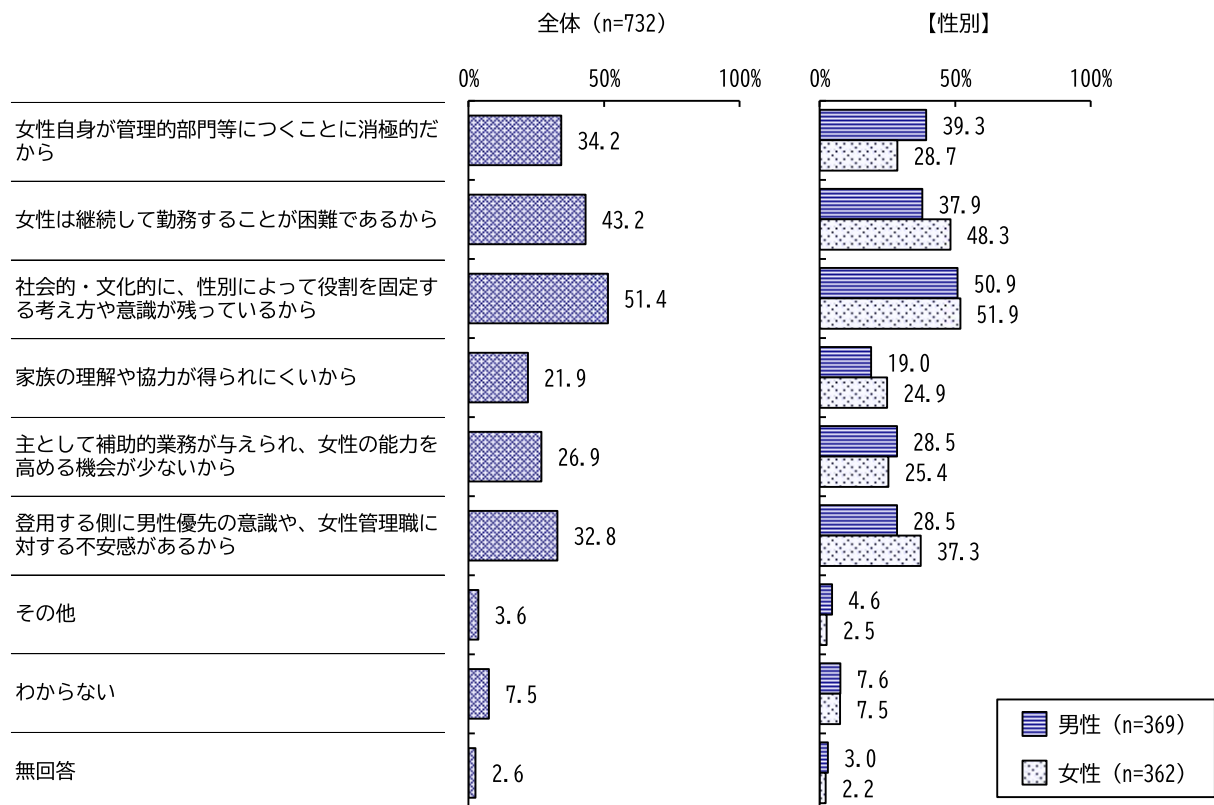
管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由についてたずねたところ、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が 51.4%と最も高く、次に「女性は継続して勤務することが困難であるから」が 43.2%、「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」が 34.2%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が最も高く、それぞれ 50.9%、51.9%で差もみられません。一方、男性が女性より高い割合となっている項目は「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」(10.6 ポイント差)、女性が男性より高い割合となっている項目は「女性は継続して勤務することが困難であるから」(10.4 ポイント差)などとなっており、これらの項目では男女間で差がみられます。

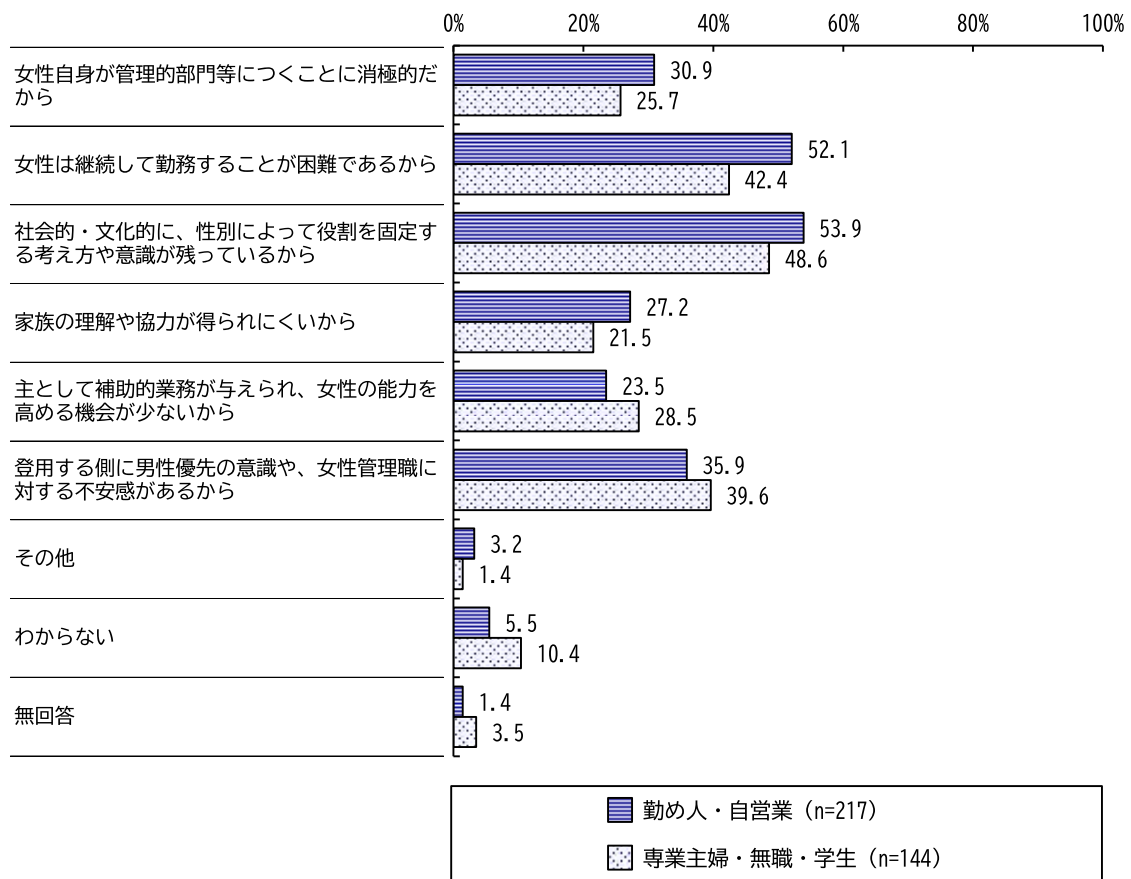
女性の職業の有無別でみると、「女性は継続して勤務することが困難であるから」の割合で 9.7 ポイントの差があります。

経年比較でみると、今年度調査で「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」の割合が過去最高、「女性は継続して勤務することが困難であるから」、「家族の理解や協力が得られにくいから」、「主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから」、「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」の割合が過去最低となっています。

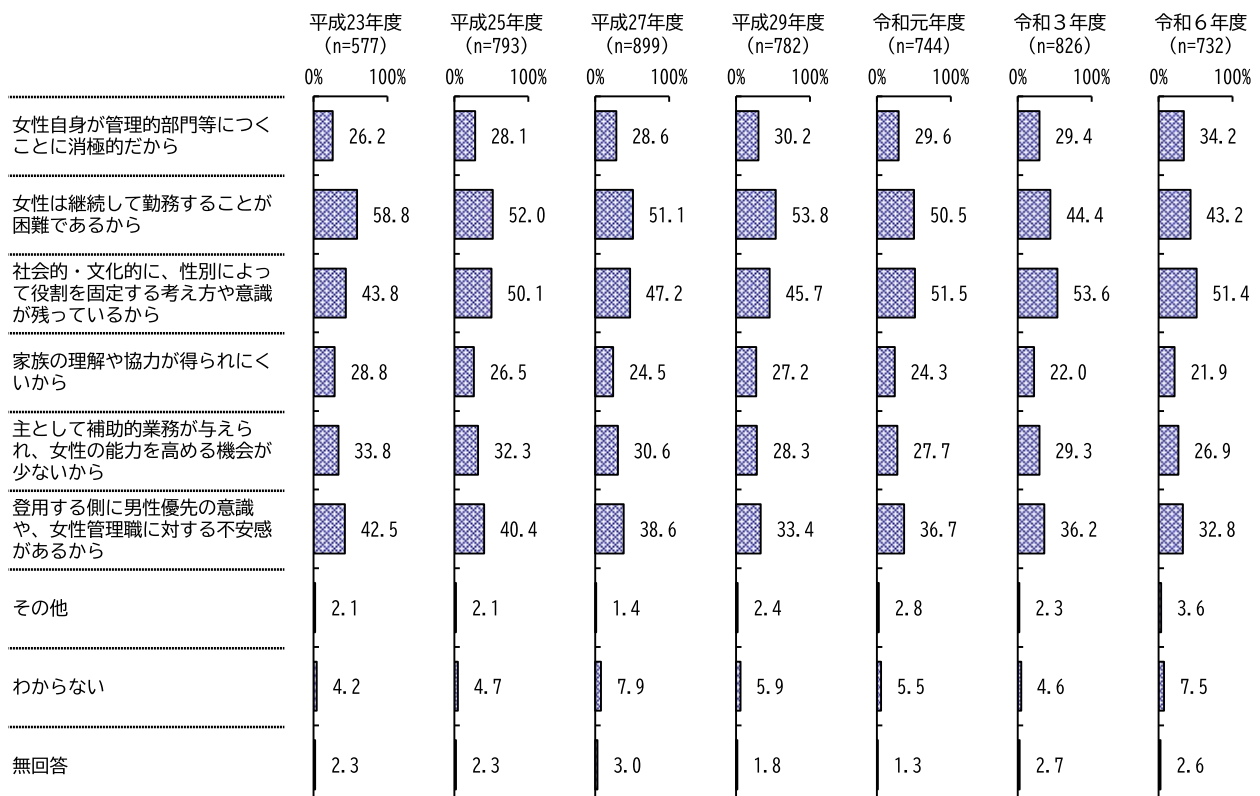
【全体・性別】



【女性の職業の有無別】



【経年比較】



6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

1. 女性が職業を持つことについて

問 19 一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。(1つに○)

「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が 55.5%。

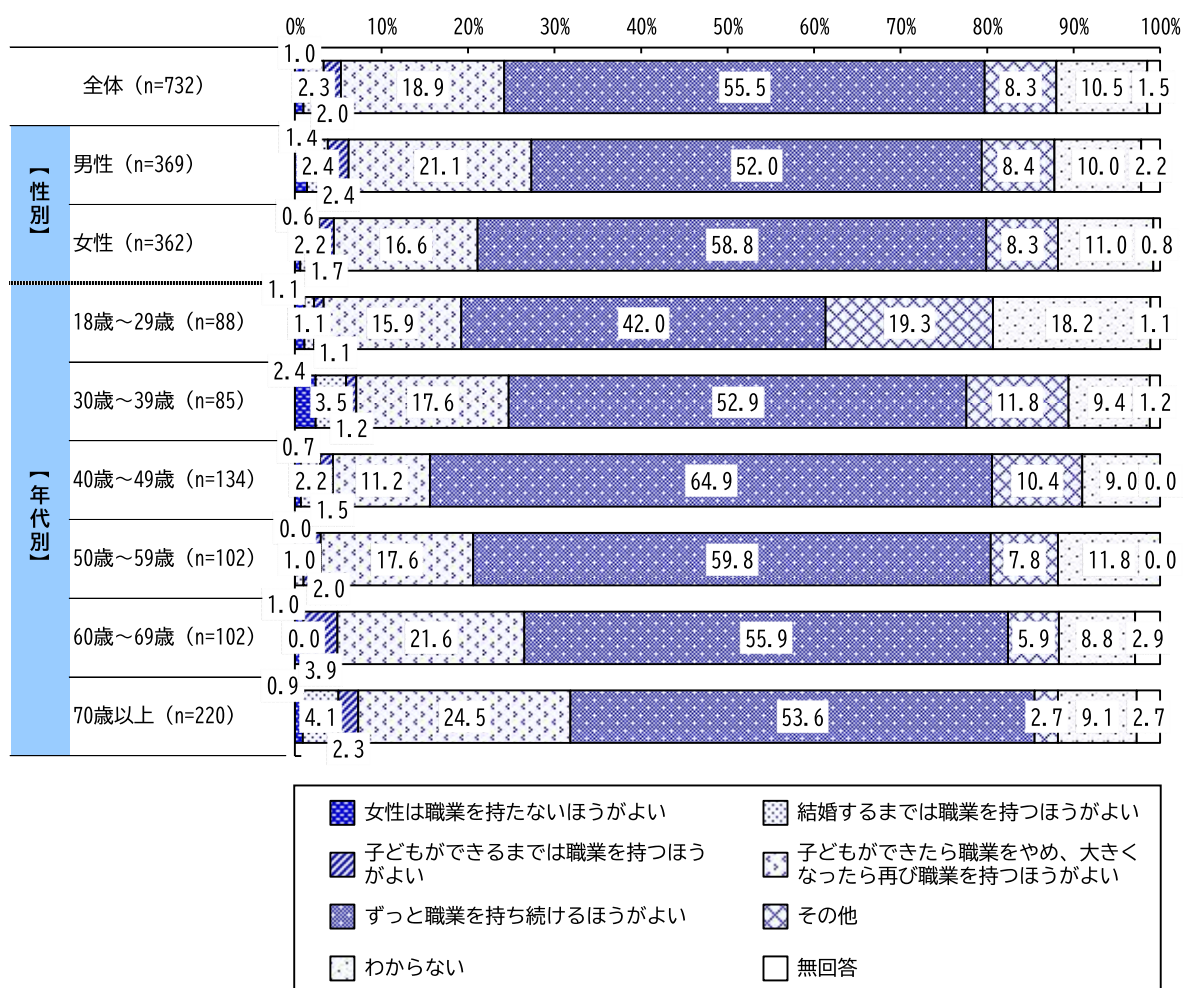
女性が職業を持つことについて、どう考えるかたずねたところ、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が 55.5%と最も高く、次に「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が 18.9%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が最も高くなっています。

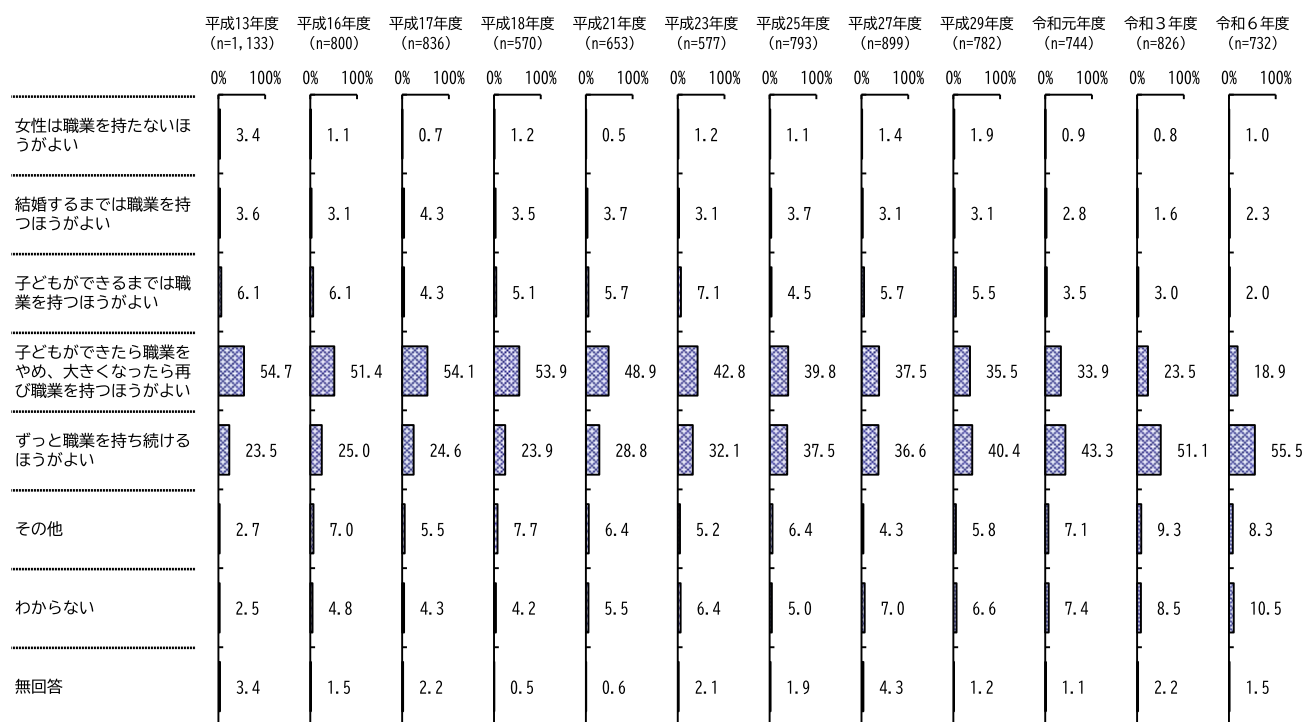
年代別でみると、40歳～49歳で「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合が他の年代に比べて高くなっています。

経年比較でみると、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が増加傾向にあります。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



2. 女性が職業を持つことについて現実に当てはまるもの

問 19 - 2 女性が職業を持つことについて、あなたの現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)はどれですか。(1つに○)

※男性の方は、配偶者の働き方など、ご家庭での状況で現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)をお答えください。

「ずっと職業を持ち続ける」が 41.5%。

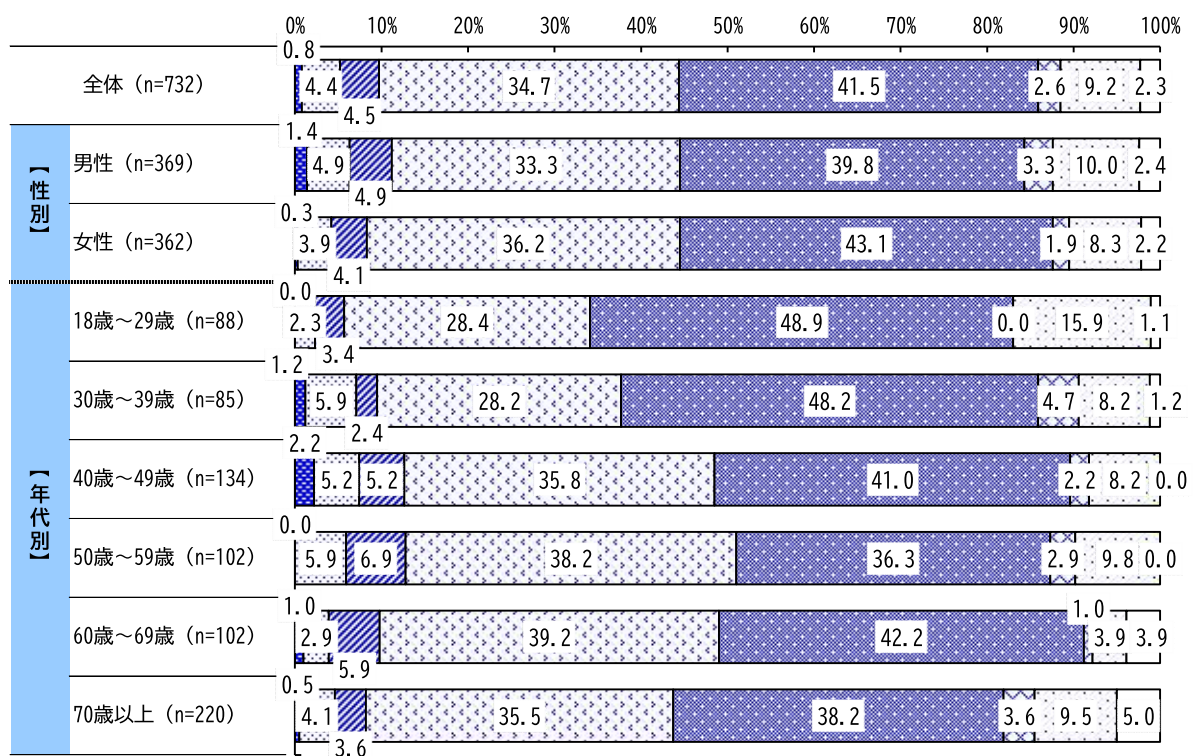
女性が職業を持つことについて、現実に当てはまるものをたずねたところ、「ずっと職業を持ち続ける」が 41.5%と最も高く、次に「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」が 34.7%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「ずっと職業を持ち続ける」が最も高くなっています。

年代別でみると、50歳～59歳では「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」、他の年代では「ずっと職業を持ち続ける」が最も高くなっています。

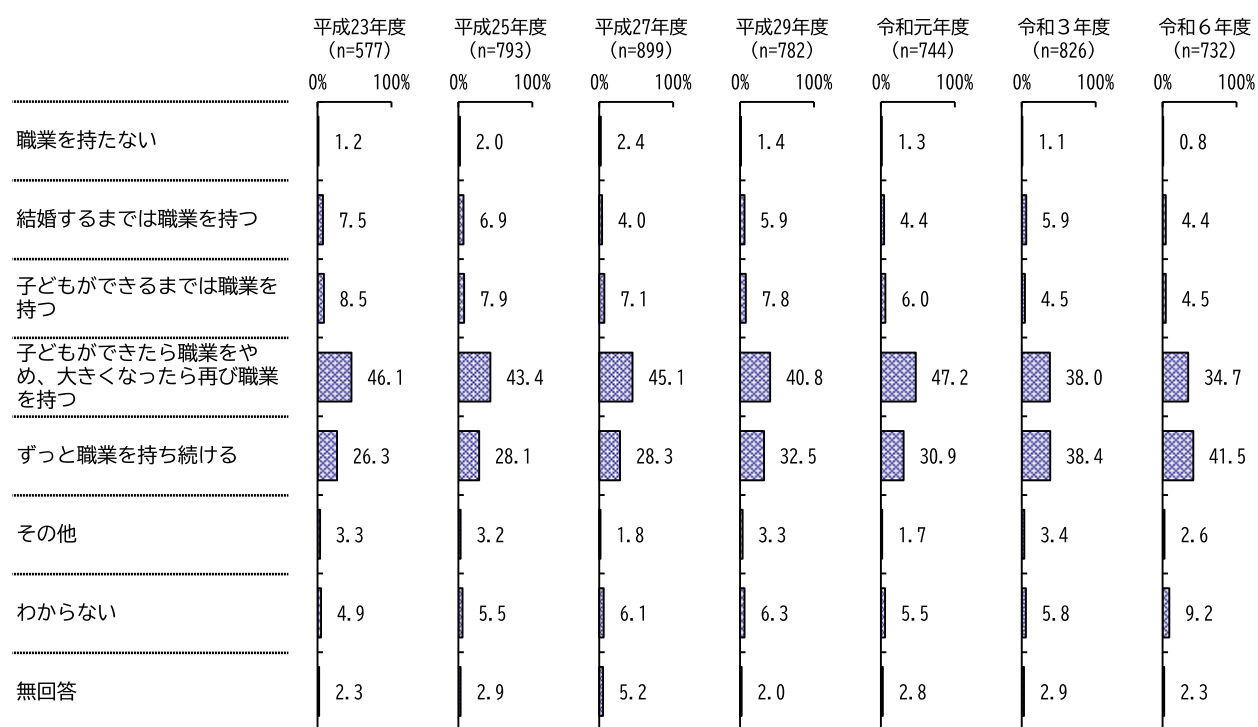
経年比較でみると、「ずっと職業を持ち続ける」が増加傾向にあります。

【全体・性別・年代別】



■ 職業を持たない
 ■ 子どもができるまでは職業を持つ
 ■ ずっと職業を持ち続ける
 ■ わからない
 ■ 結婚するまでは職業を持つ
 ■ 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ
 ■ その他
 ■ 無回答

【経年比較】



3. 女性が働く上で障害となること

問 19 - 3 問 19 - 2 で「2」「3」「4」又は「5」と答えた方に伺います。
 継続して女性が働く上での障害は何だと思われますか。（あてはまるもの全てに○）

「長時間労働や残業」が 48.6%、
 他には育児休業・介護休業の取得や制度、施設の不足など、育児や介護に関連する項目が上位。

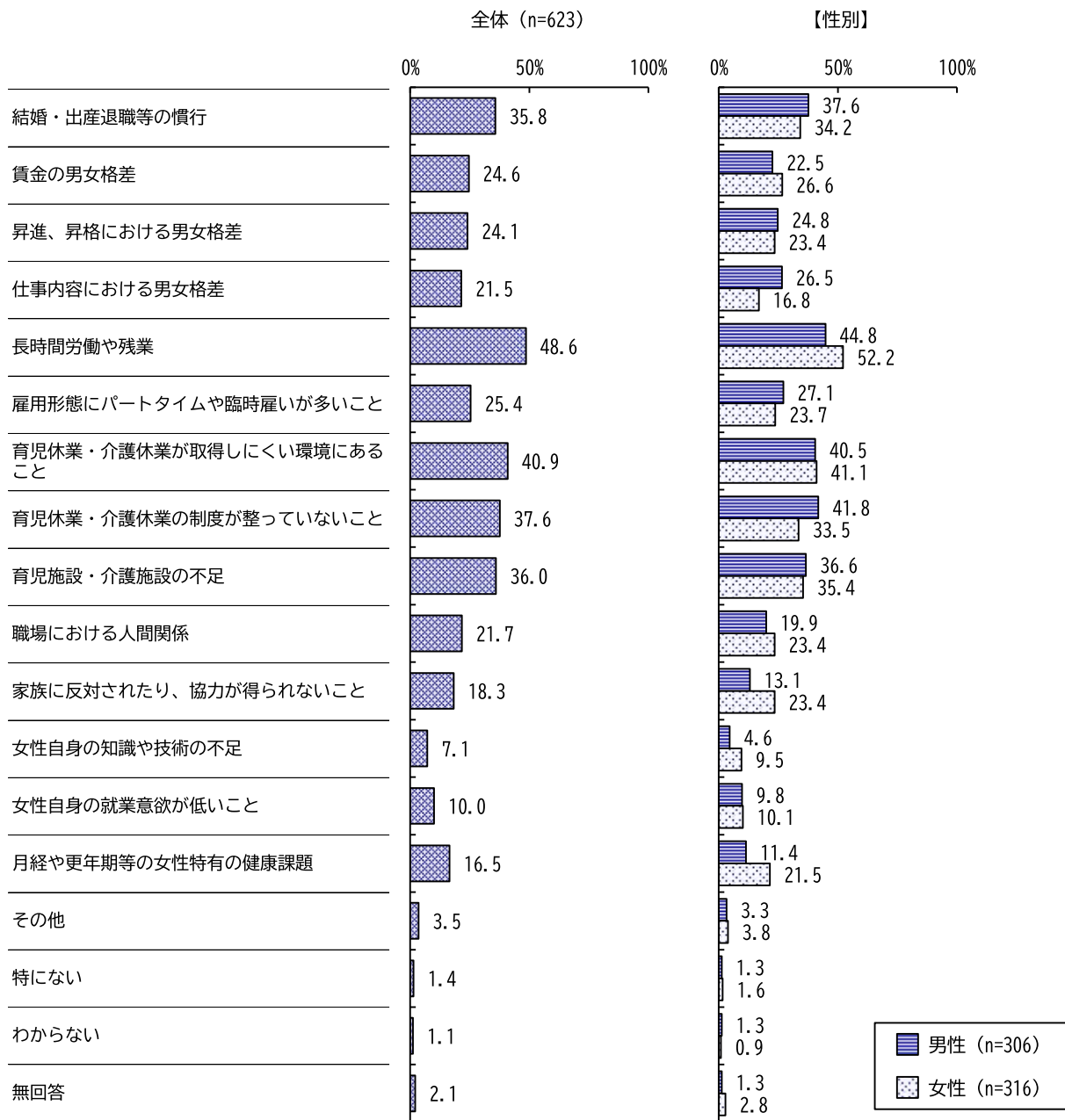
継続して女性が働く上での障害についてたずねたところ、「長時間労働や残業」が 48.6%と最も高く、次に「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」が 40.9%、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」が 37.6%となっています。

性別でみると、男性が女性より高い割合となっている項目は「仕事内容における男女格差」（9.7 ポイント差）、女性が男性より高い割合となっている項目は「家族に反対されたり、協力が得られないこと」（10.3 ポイント差）、「月経や更年期等の女性特有の健康課題」（10.1 ポイント差）などとなっており、これらの項目では男女間で差がみられます。

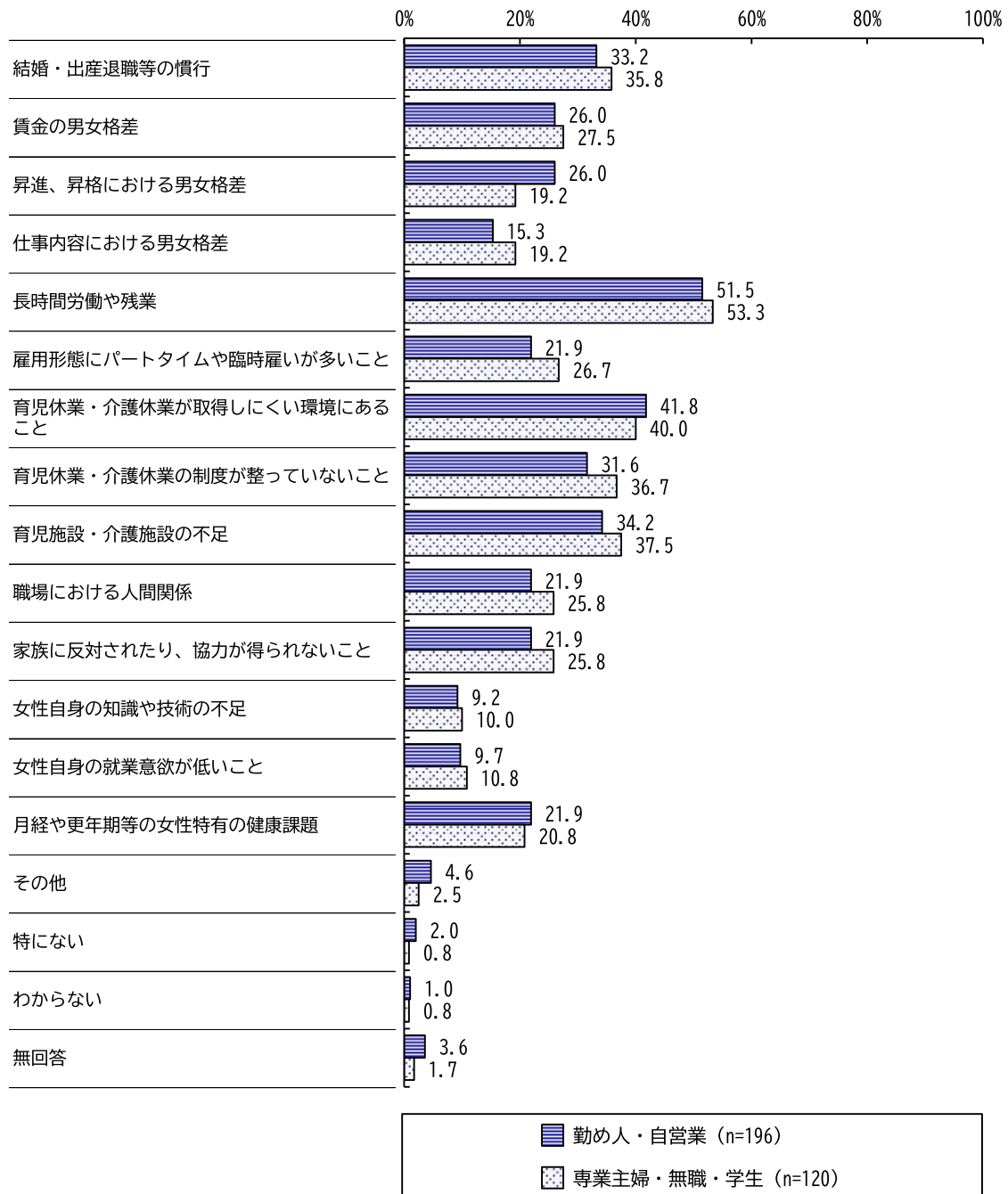
女性の職業の有無別でみると、職業の有無にかかわらず、「長時間労働や残業」が最も高くなっています。

経年比較でみると、「昇進、昇格における男女の格差」が前回調査よりやや高く、「雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと」が前回調査よりやや低くなっています。

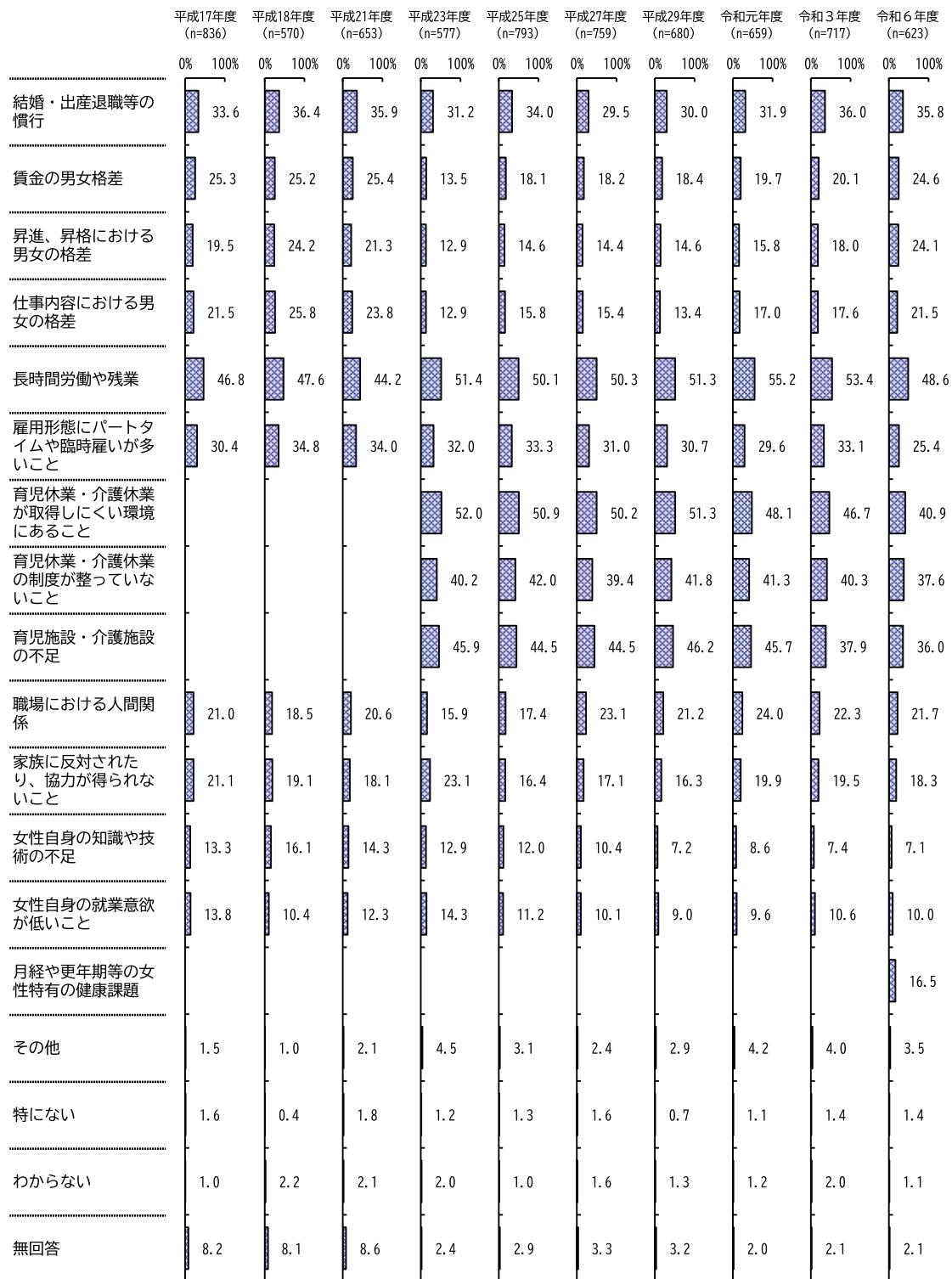
【全体・性別】



【女性の職業の有無別】



【経年比較】



※「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」、「育児施設・介護施設の不足」は平成23年度より、「月経や更年期等の女性特有の健康課題」は令和6年度より追加

4. 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組

問 20 女性の社会参画を進めるため、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。
(あてはまるもの全てに○)

「育児・介護の支援」が7割以上、
男性は「企業等への女性参画についての意識啓発」が4割。

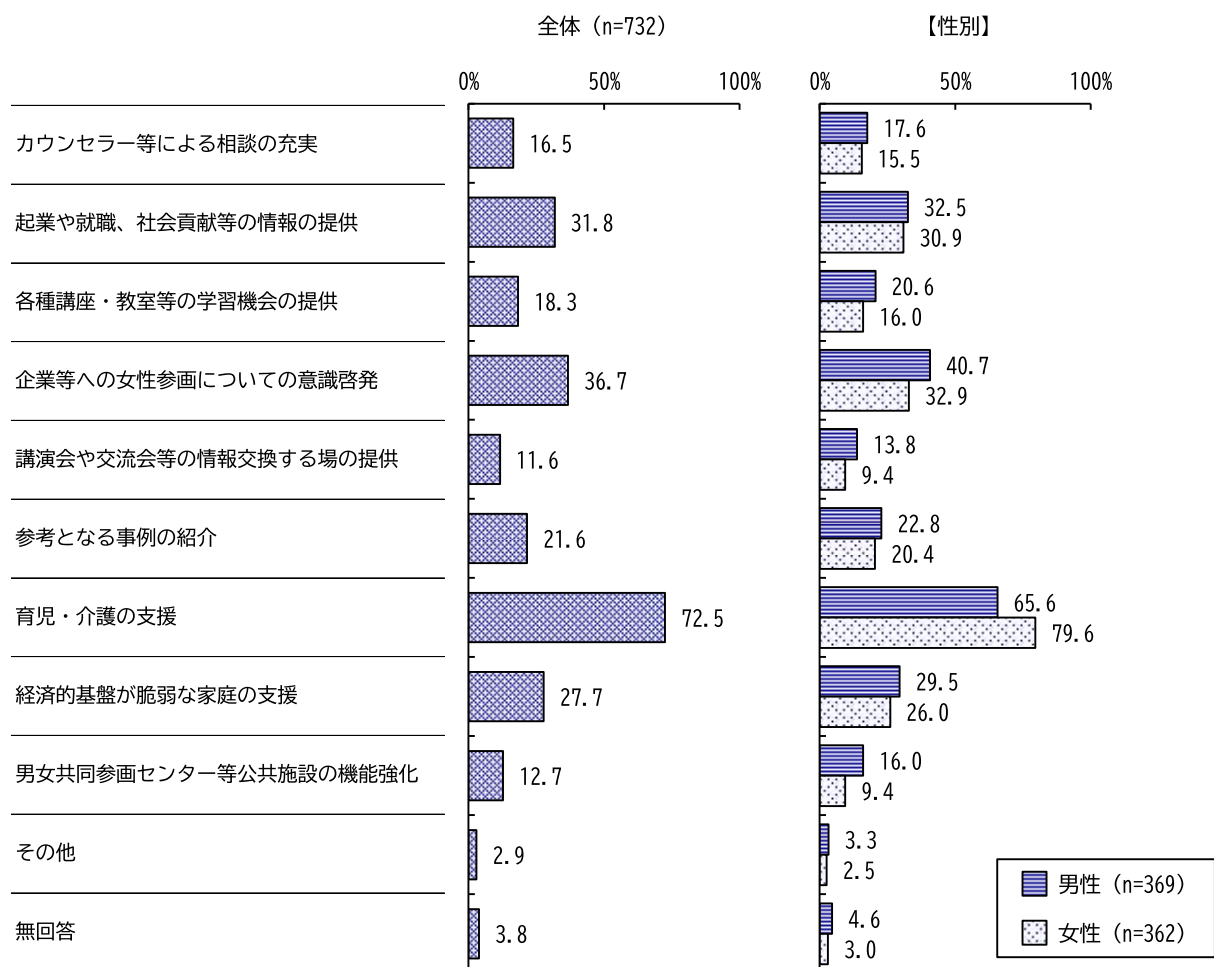
女性の社会参画を進めるため、行政としてどのような取組が必要だと思うかたずねたところ、「育児・介護の支援」が72.5%と最も高く、次に「企業等への女性参画についての意識啓発」が36.7%、「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」が31.8%となっています。

性別でみると、男性が女性より高い割合となっている項目は「企業等への女性参画についての意識啓発」(7.8ポイント差)、女性が男性より高い割合となっている項目は「育児・介護の支援」(14.0ポイント差)となっており、これらの項目では男女間で差がみられます。

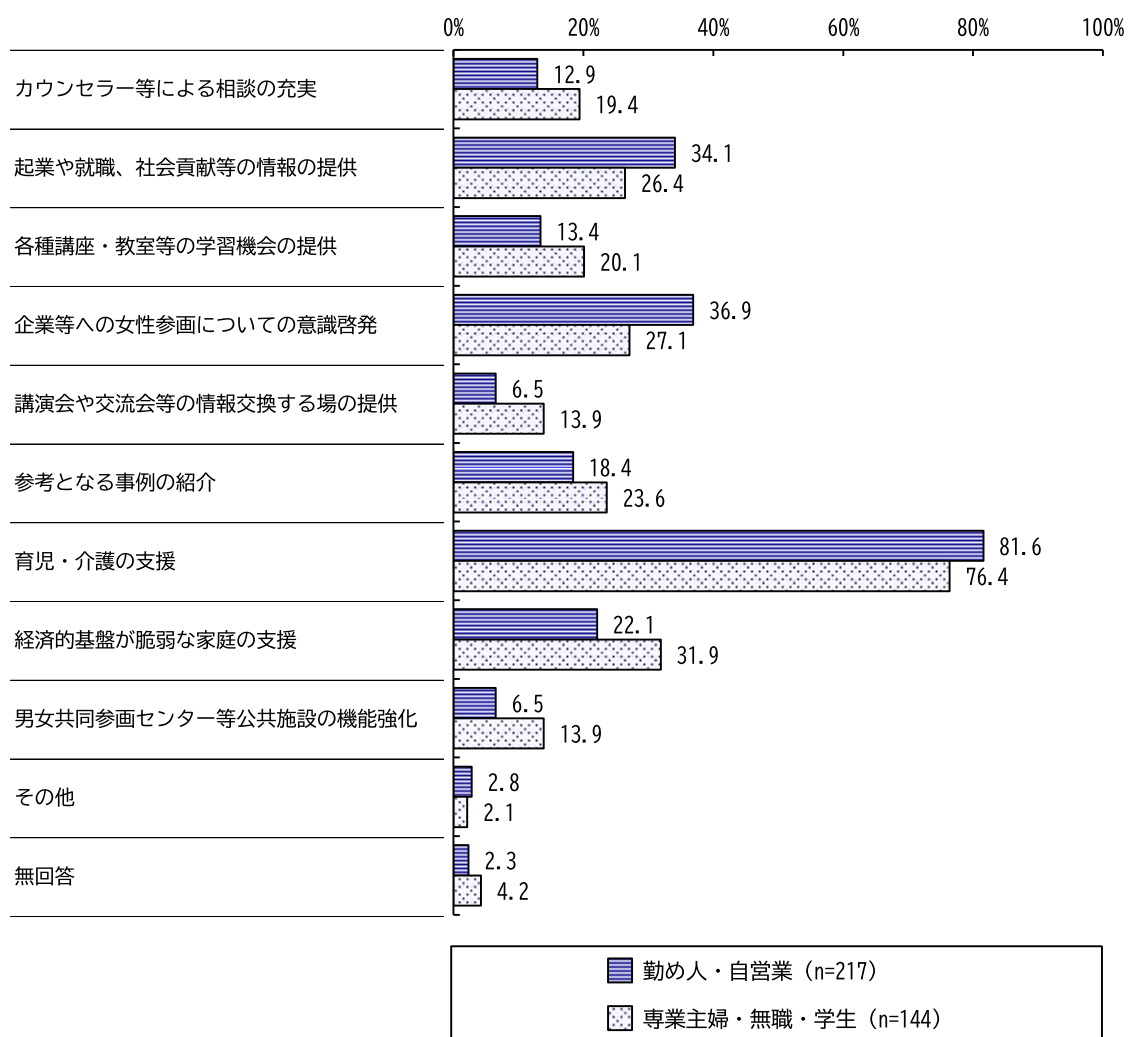
女性の職業の有無別でみると、職業の有無にかかわらず、「育児・介護の支援」が最も高くなっています。

経年比較でみると、「育児・介護の支援」が7割以上で推移しています。

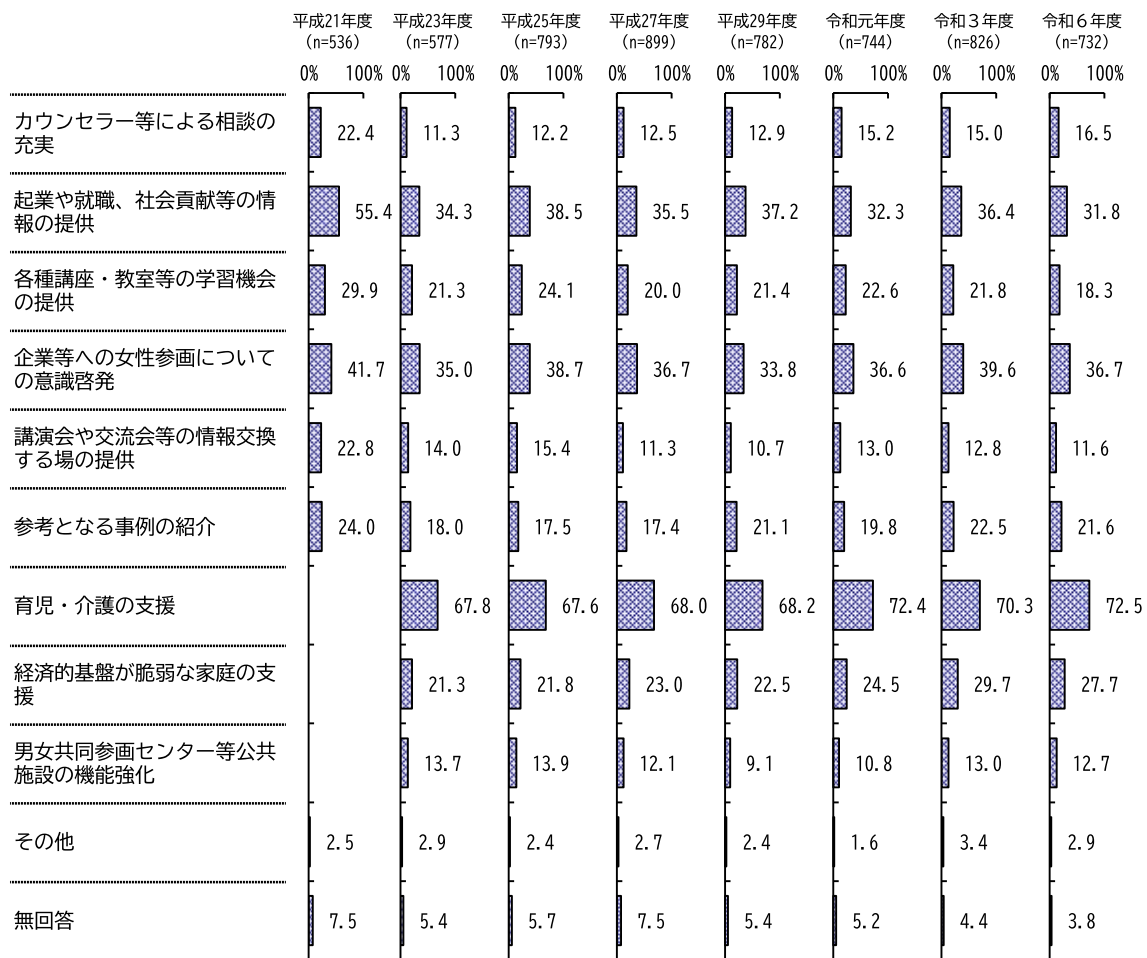
【全体・性別】



【女性の職業の有無別】



【経年比較】



※「育児・介護の支援」、「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加

7 地域社会の一員としての活動について

1. 仕事と家庭生活、地域・個人の生活の希望優先度

問 21 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い）の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（1つに○）

生活の希望優先度は“「仕事」と「家庭生活」の優先”が3割、
“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の優先”、“「家庭生活」の優先”がそれぞれ2割程度。

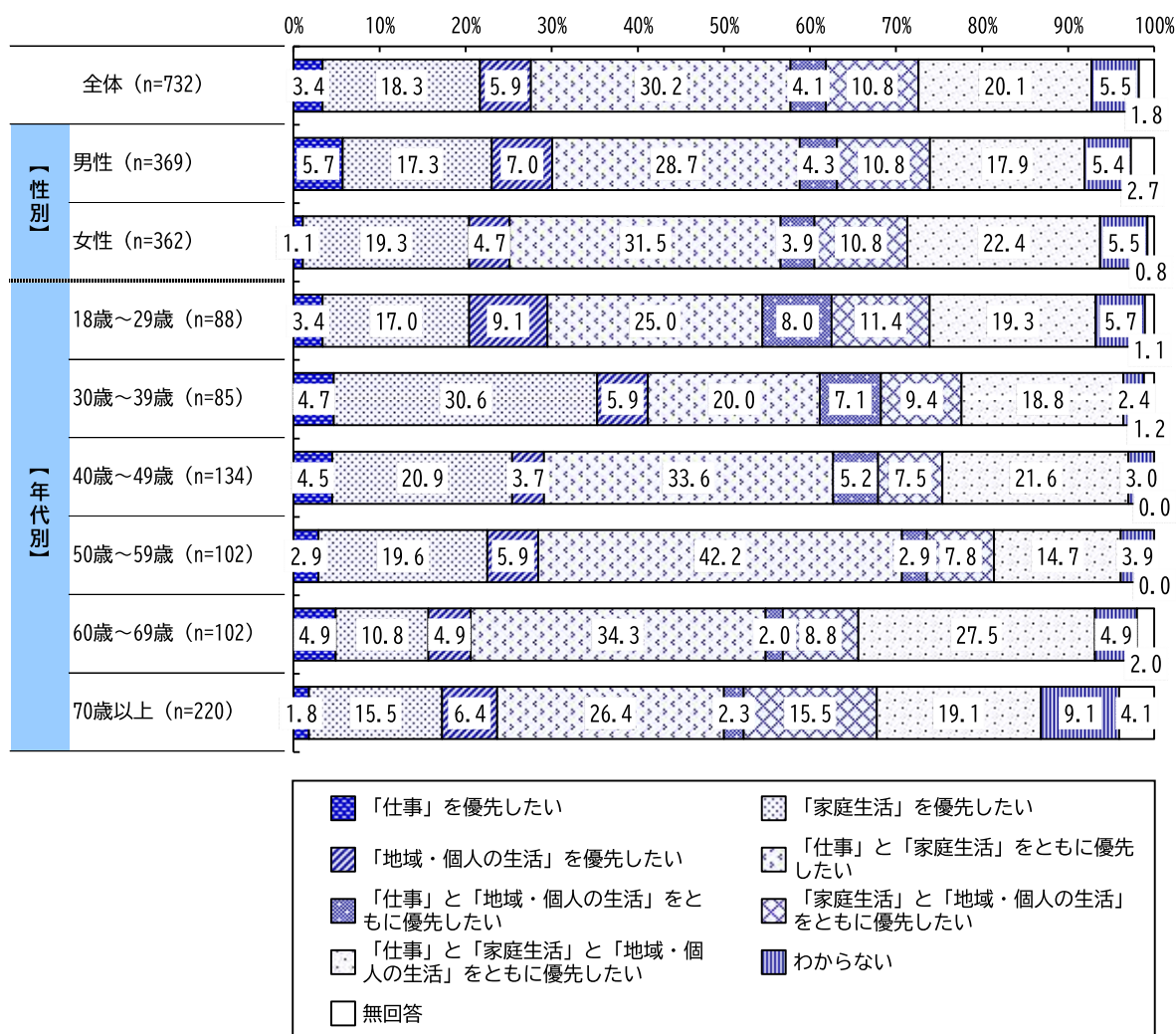
生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望についてたずねたところ、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が30.2%と最も高く、次に「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が20.1%、「家庭生活」を優先したい」が18.3%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高くなっています。

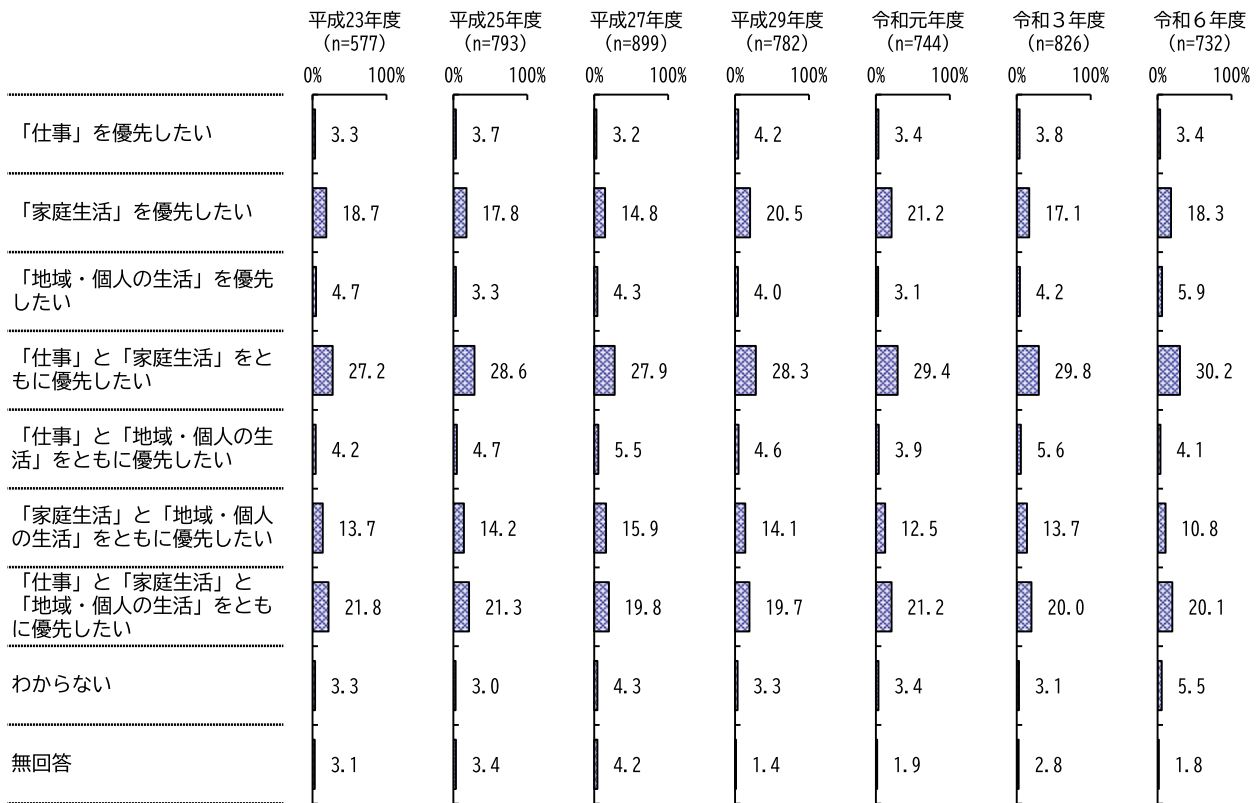
年代別でみると、30歳～39歳では「家庭生活」を優先したい」、他の年代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高くなっています。

経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



2. 仕事と家庭生活、地域・個人の生活の優先度の現実

問 21 - 2 あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（1つに○）

男性は「仕事」を優先が 28.2%、女性は「家庭生活」を優先が 33.1%。

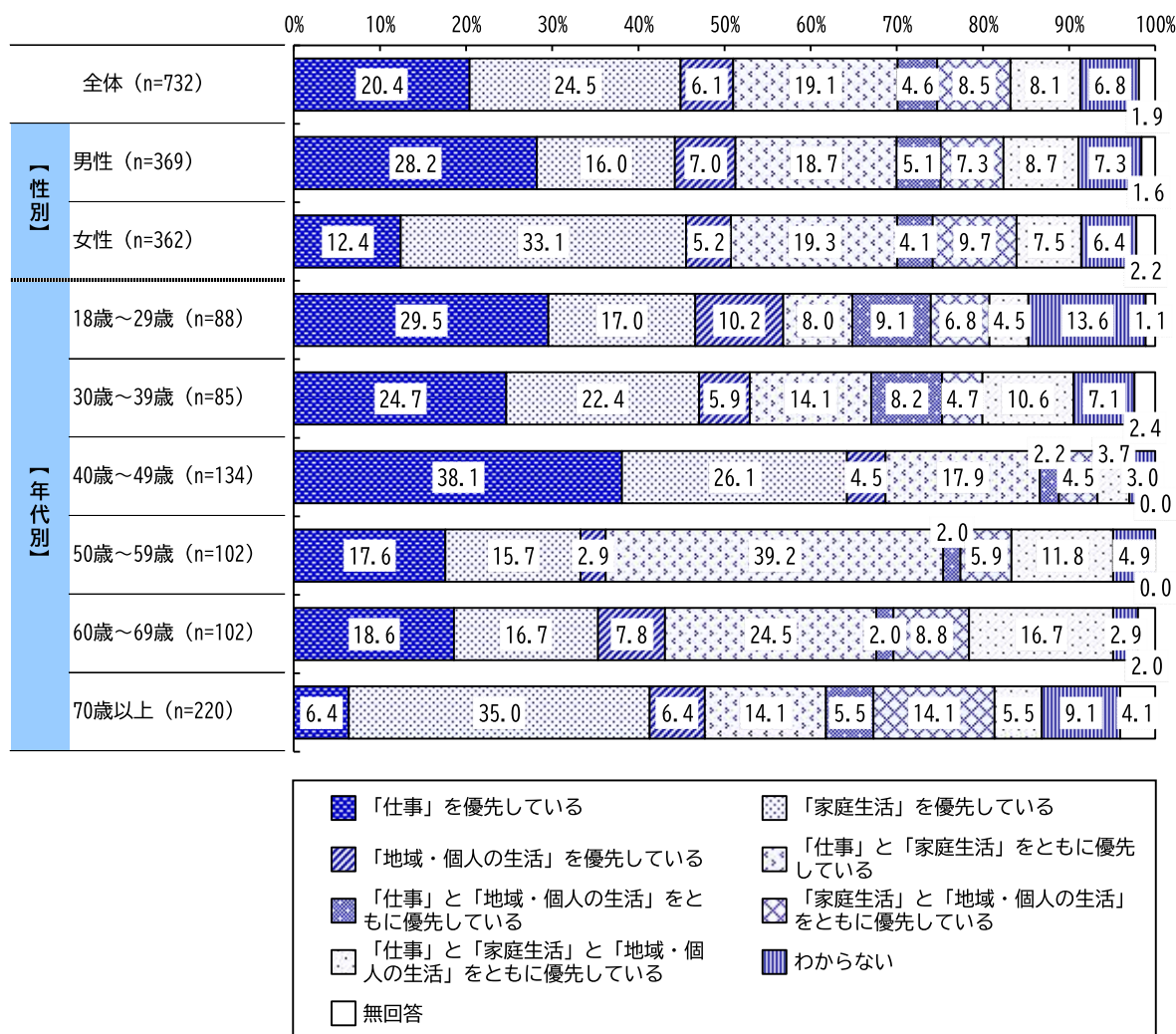
生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の現実についてたずねたところ、「家庭生活」を優先しているが 24.5%と最も高く、次に「仕事」を優先しているが 20.4%、「仕事」と「家庭生活」をとともに優先しているが 19.1%となっています。

性別でみると、男性は「仕事」を優先しているが 28.2%で最も高く、次に「仕事」と「家庭生活」をとともに優先しているが 18.7%、女性は「家庭生活」を優先しているが 33.1%で最も高く、次に「仕事」と「家庭生活」をとともに優先しているが 19.3%となっています。また、「仕事」を優先しているは男性が女性より高い割合となり（15.8 ポイント差）、「家庭生活」を優先しているは女性が男性より高い割合（17.1 ポイント差）となっています。

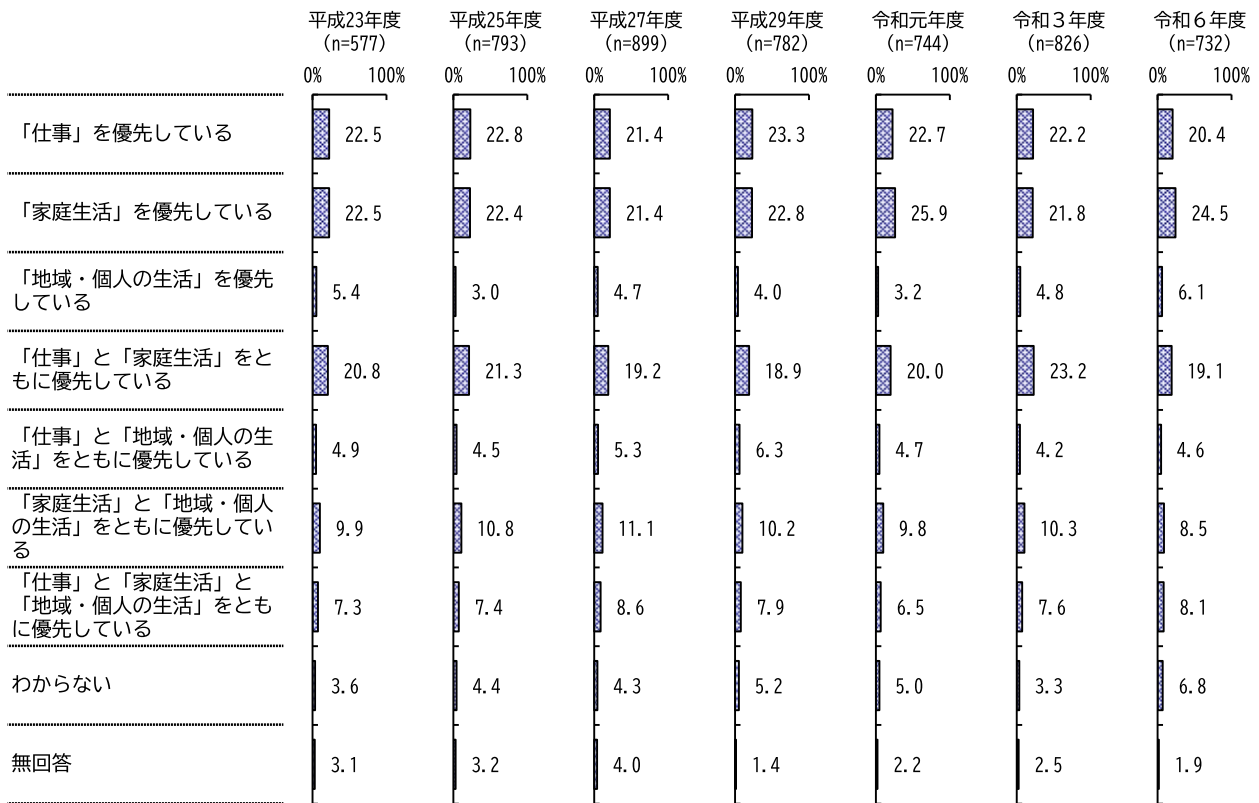
年代別でみると、40 歳～49 歳以下では「仕事」を優先している、50 歳～59 歳、60 歳～69 歳では「仕事」と「家庭生活」をとともに優先している、70 歳以上では「家庭生活」を優先しているが最も高くなっています。

経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



3. 地域活動に参加しようとするときに障害となること

問 22 あなたが現在（あるいは今後）、地域活動に参加しようとする時、何か障害になるようなことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

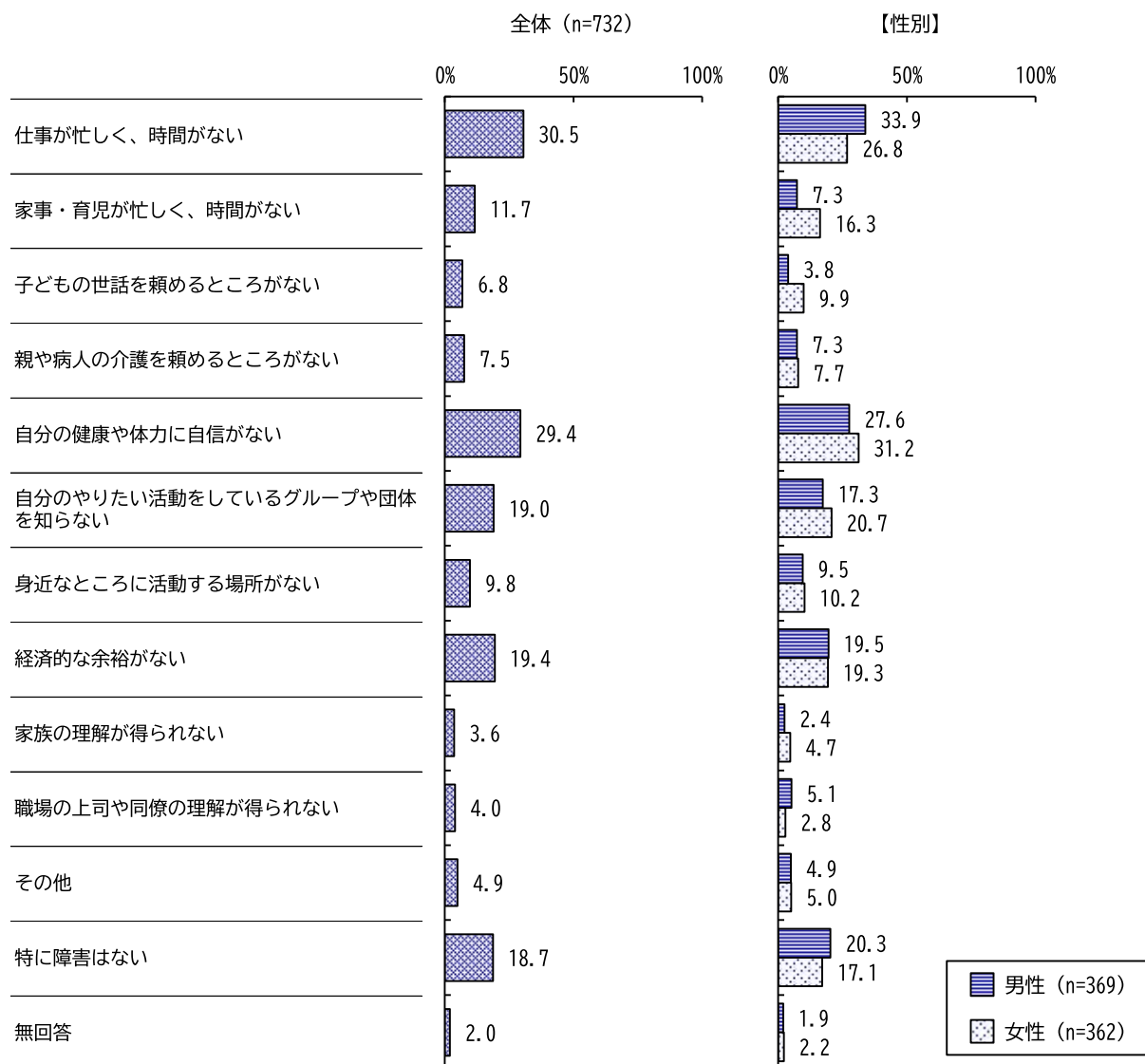
「仕事が忙しく、時間がない」、「自分の健康や体力に自信がない」が3割程度。

現在（あるいは今後）、地域活動に参加しようとするときに障害となることについてたずねたところ、「仕事が忙しく、時間がない」が30.5%と最も高く、次に「自分の健康や体力に自信がない」が29.4%、「経済的な余裕がない」が19.4%、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が19.0%となっています。また、「特に障害はない」は18.7%となっています。

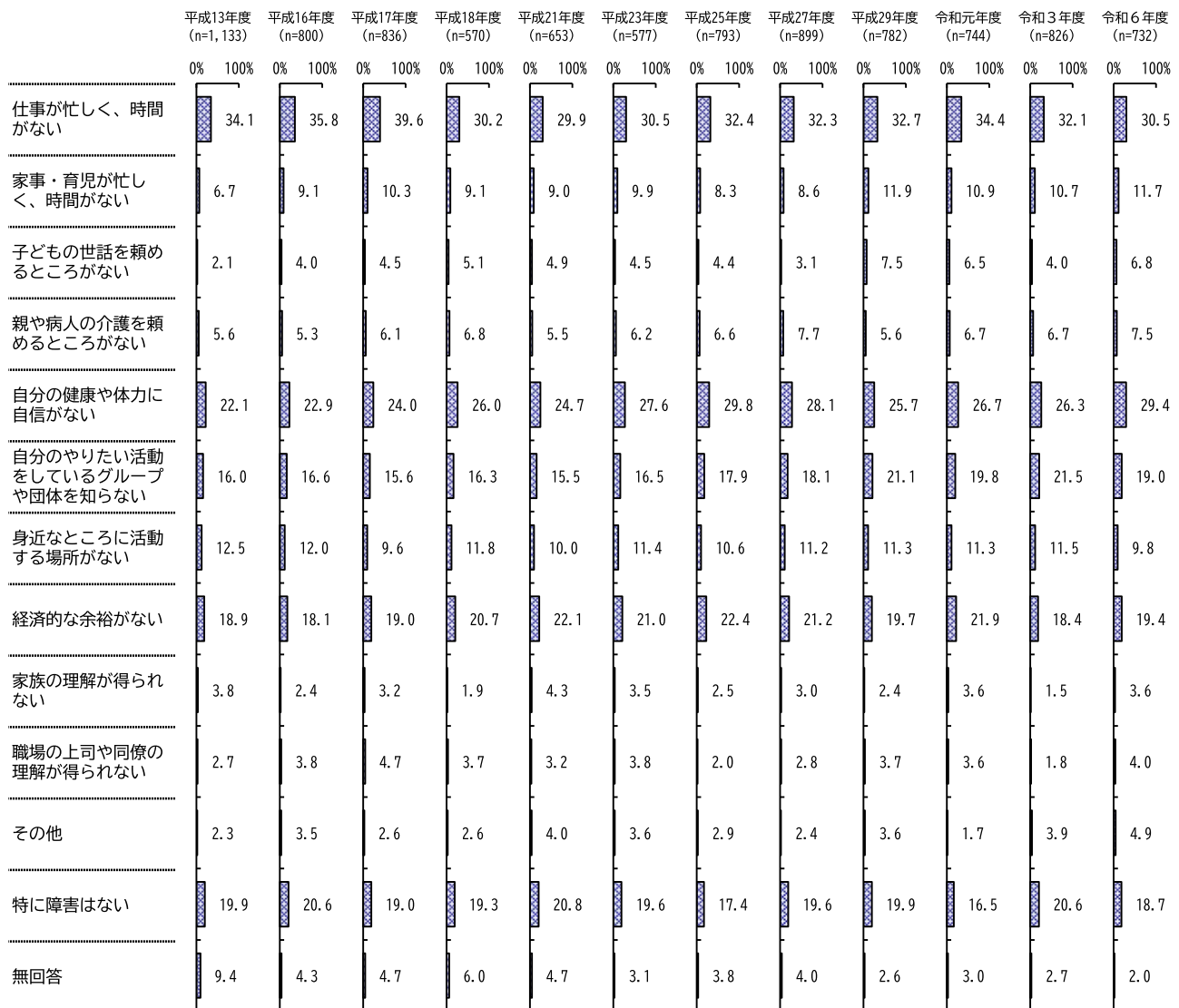
性別でみると、「仕事が忙しく、時間がない」は男性が女性より高い割合となり（7.1ポイント差）、「家事・育児が忙しく、時間がない」は女性が男性より高い割合（9.0ポイント差）となっています。

経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別】



【経年比較】



4. 女性が自治会の長などの役職につくことが少ない理由

問 23 地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ないのが現状です。この主な理由は何だと思いますか。（3つまでに○）

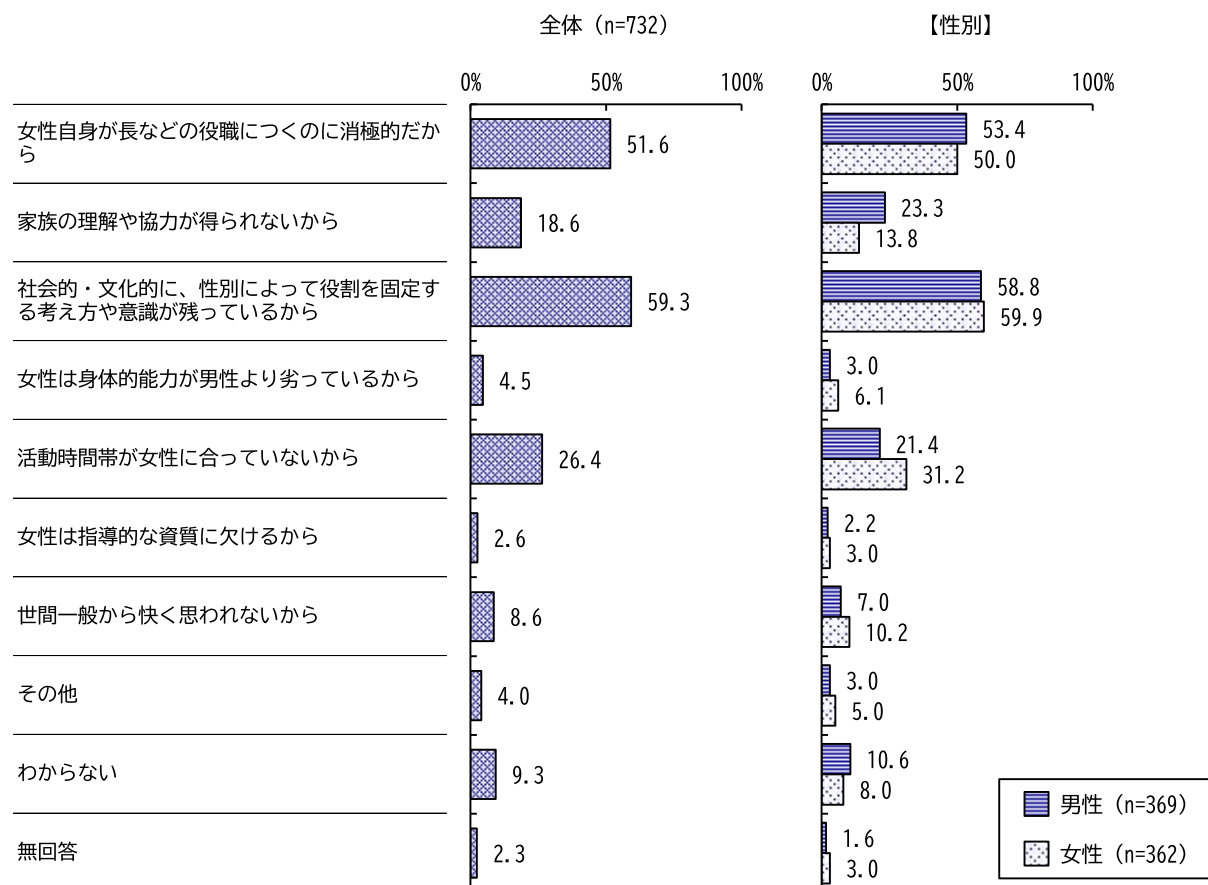
「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が 59.3%、
「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」が 51.6%。

地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ない理由についてたずねたところ、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が 59.3%と最も高く、次に「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」が 51.6%、「活動時間帯が女性に合っていないから」が 26.4%となっています。

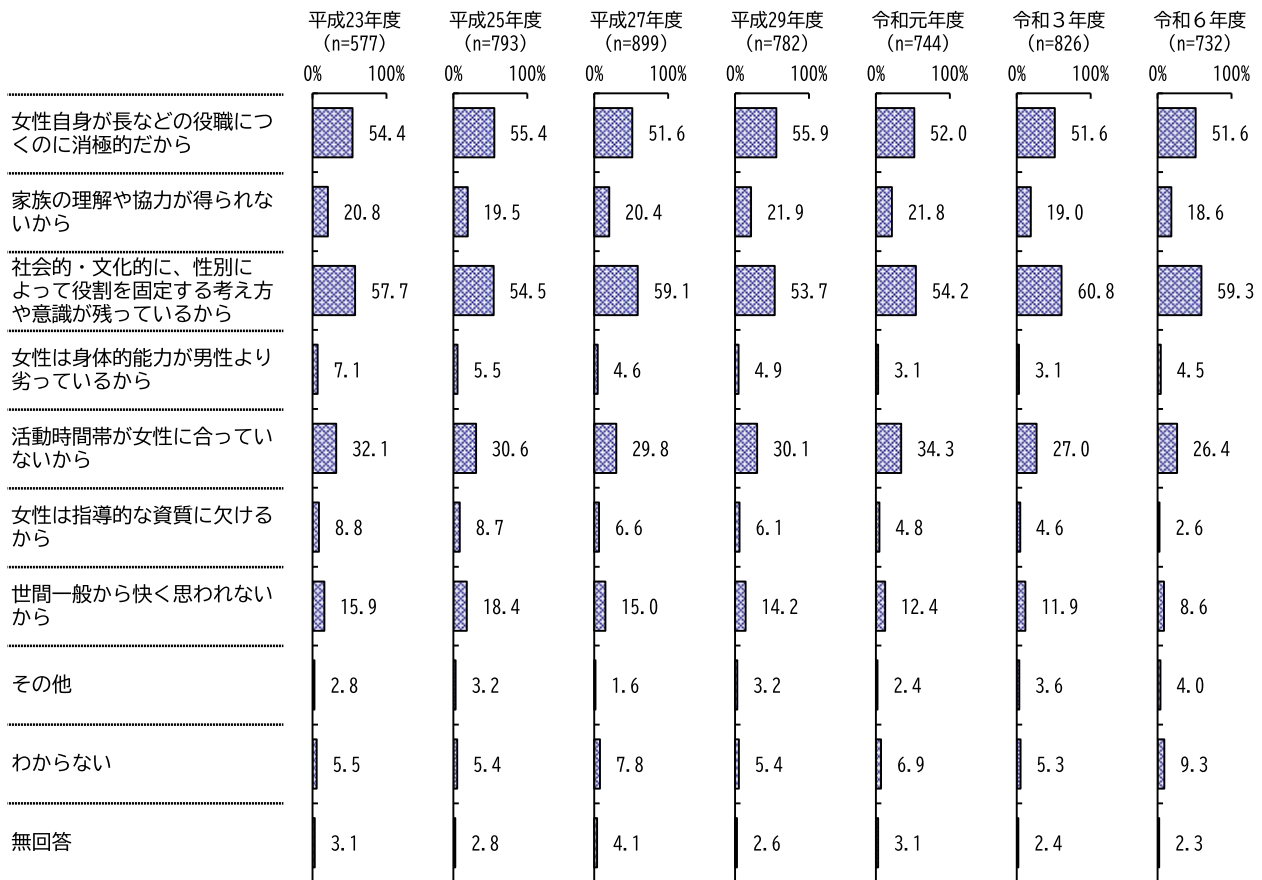
性別でみると、「家族の理解や協力が得られないから」は男性が女性より高い割合となり（9.5 ポイント差）、「活動時間帯が女性に合っていないから」は女性が男性より高い割合（9.8 ポイント差）となっています。

経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別】



【経年比較】



8 実践的な取組の推進について

1. 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用について

問 24 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」を利用したことがありますか。（1つに○）

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」については「知らない」が64.1%。

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用についてたずねたところ、「利用したことがある」が10.2%、「知っているが、利用したことはない」が23.4%、「知らない」が64.1%となっています。

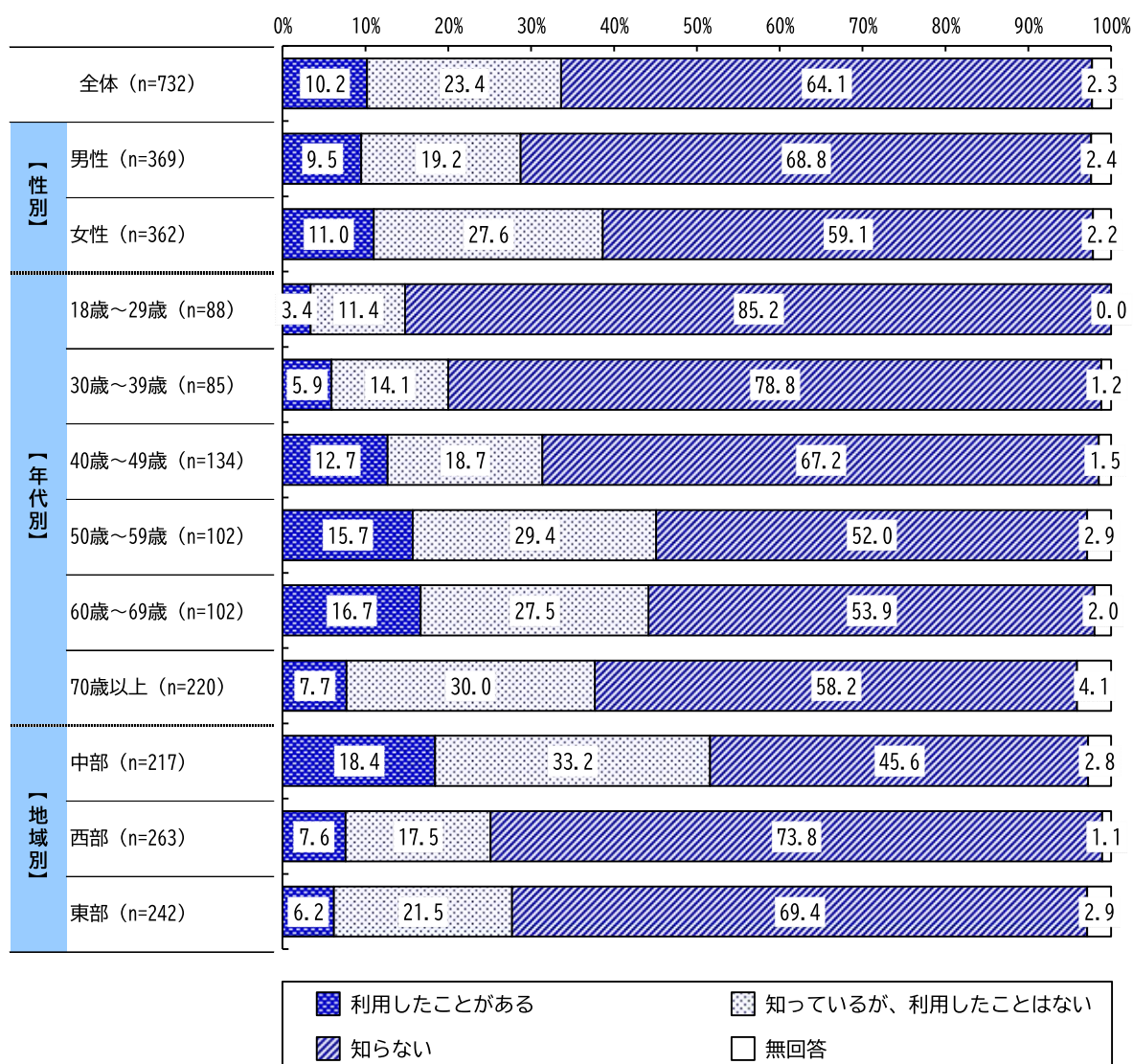
性別でみると、『知っている』（「利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」）の割合が、男性が28.7%、女性が38.6%と9.9ポイントの差があります。

年代別でみると、「知らない」が18歳～29歳で85.2%、30歳～39歳で78.8%と他の年代に比べて高くなっています。

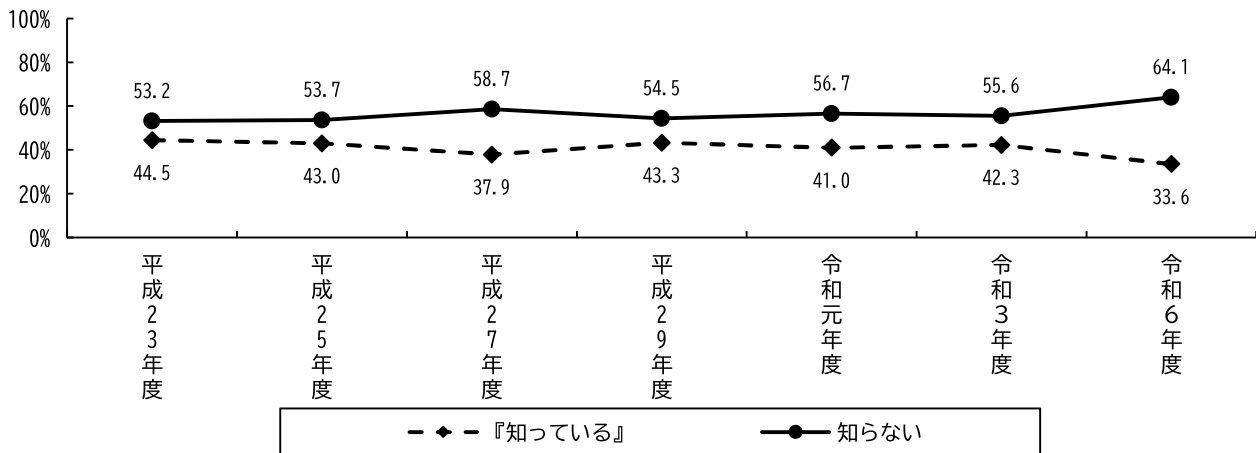
地域別でみると、『知っている』が所在地の中部では51.6%となる一方、西部、東部では「知らない」の割合がそれぞれ73.8%、69.4%となっています。

経年比較でみると、今年度調査で「知らない」の割合が6割を超え、過去最高となっています。

【全体・性別・年代別・地域別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」）

	調査数	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答
平成23年度	424	12.3%	32.2%	53.2%	2.3%
平成25年度	571	13.7%	29.3%	53.7%	3.3%
平成27年度	899	11.2%	26.7%	58.7%	3.3%
平成29年度	782	15.6%	27.7%	54.5%	2.2%
令和元年度	744	12.6%	28.4%	56.7%	2.3%
令和3年度	826	14.0%	28.3%	55.6%	2.1%
令和6年度	732	10.2%	23.4%	64.1%	2.3%

2. 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割

問 24 - 2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」について、あなたは、この施設にどのような役割を期待していますか。（あてはまるもの全てに○）

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割は
「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」。

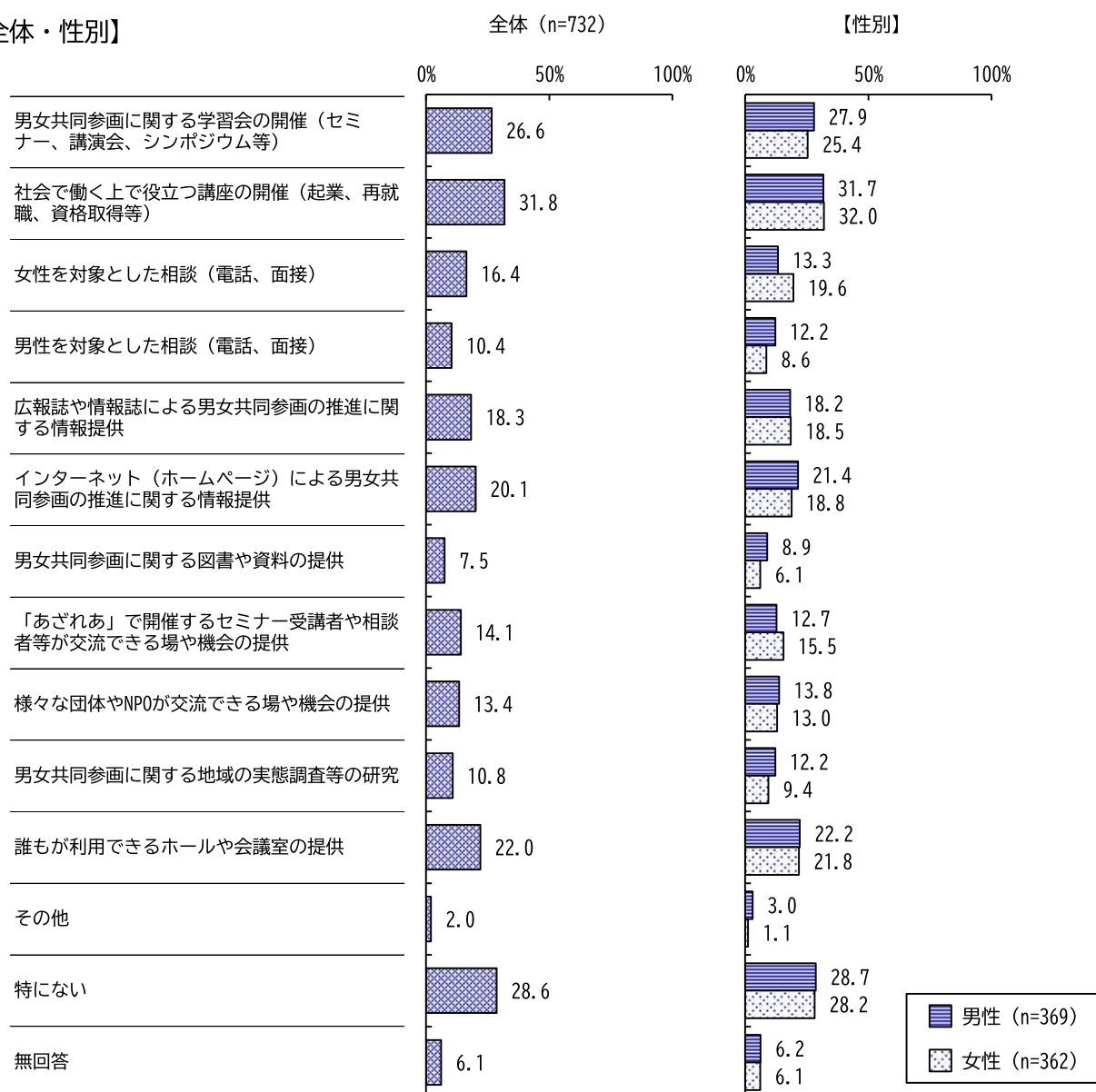
「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割についてたずねたところ、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」が31.8%と最も高く、次に「男女共同参画に関する学習会の開催（セミナー、講演会、シンポジウム等）」が26.6%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」がそれぞれ31.7%、32.0%で最も高くなっています。

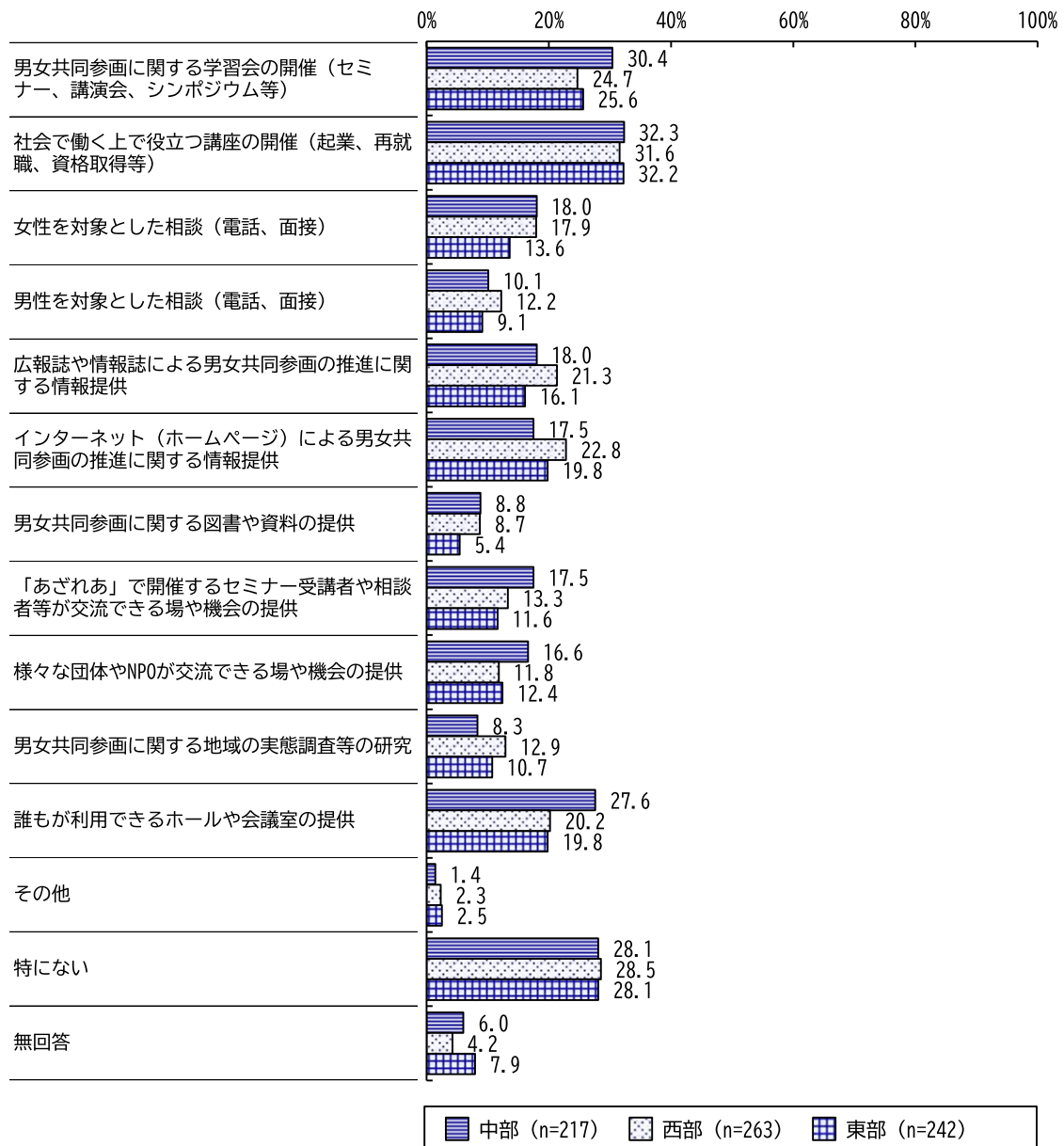
地域別でみると、すべての地域で「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」が3割以上で最も高くなっています。

経年比較でみると、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」が最も高い割合で推移しています。

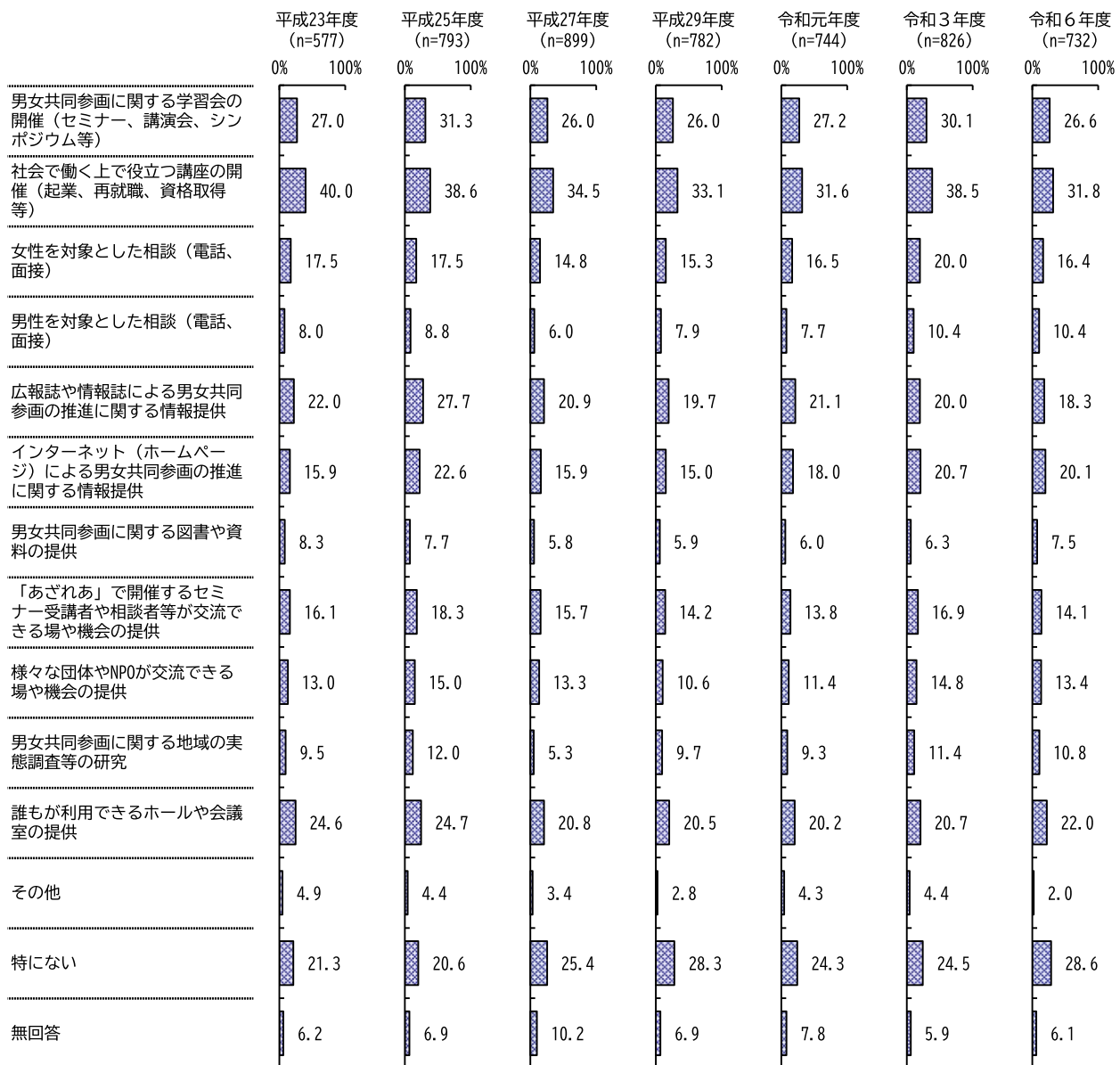
【全体・性別】



【地域別】



【経年比較】



9 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について

1. 性的マイノリティなどに関する認知

問 25 あなたは次のことがらを知っていますか。（それぞれ1つに○）

【性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）】は『知っている』が8割以上、
【性的指向】、【性自認】は『知っている』が6割以上。
【静岡県パートナーシップ宣誓制度】は「知らない」が6割。

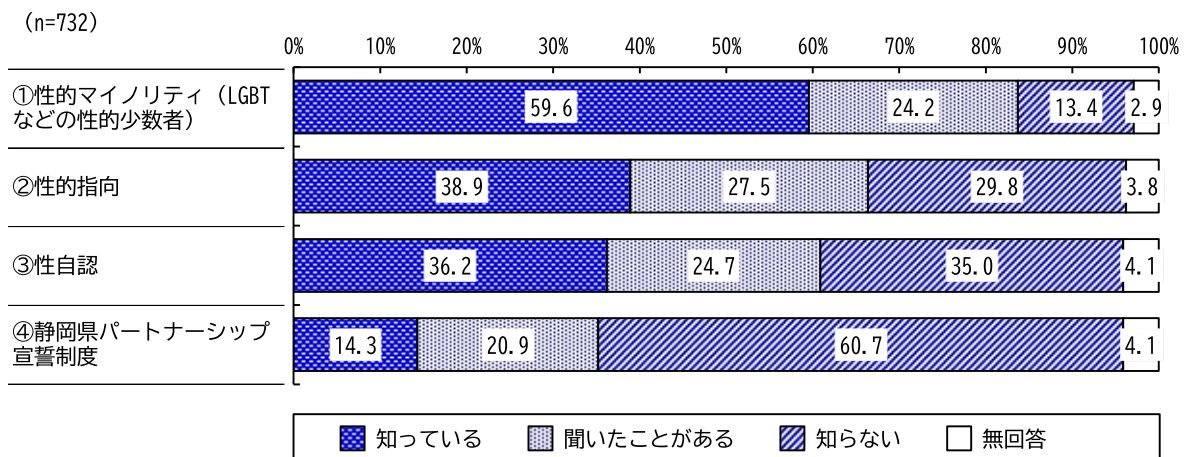
【①性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）】については、「知っている」が59.6%、「聞いたことがある」が24.2%、「知らない」が13.4%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が83.8%となっています。

【②性的指向】については、「知っている」が38.9%、「聞いたことがある」が27.5%、「知らない」が29.8%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が66.4%となっています。

【③性自認】については、「知っている」が36.2%、「聞いたことがある」が24.7%、「知らない」が35.0%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が60.9%となっています。

【④静岡県パートナーシップ宣誓制度】については、「知っている」が14.3%、「聞いたことがある」が20.9%、「知らない」が60.7%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が35.2%となっています。

【全体】



①性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）

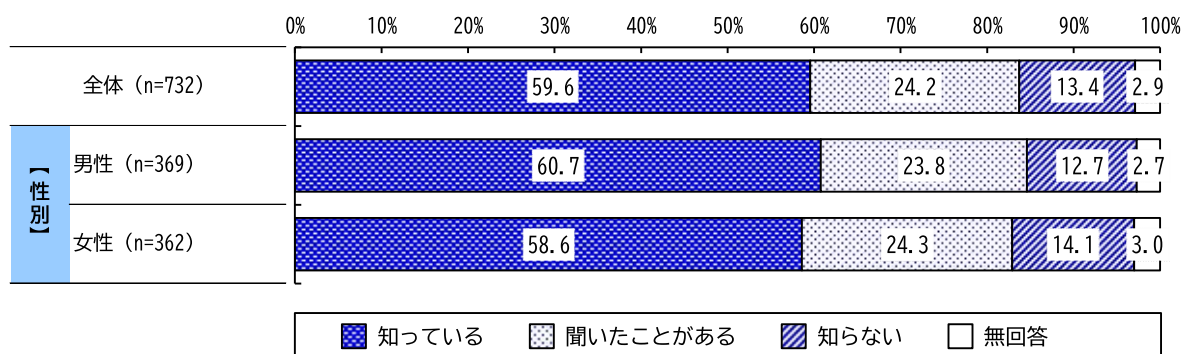
<性的マイノリティ(LGBTなどの性的少数者)>は男性、女性ともに『知っている』が8割以上。

【①性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）】について性別でみると、男性、女性ともに『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が8割以上となっています。

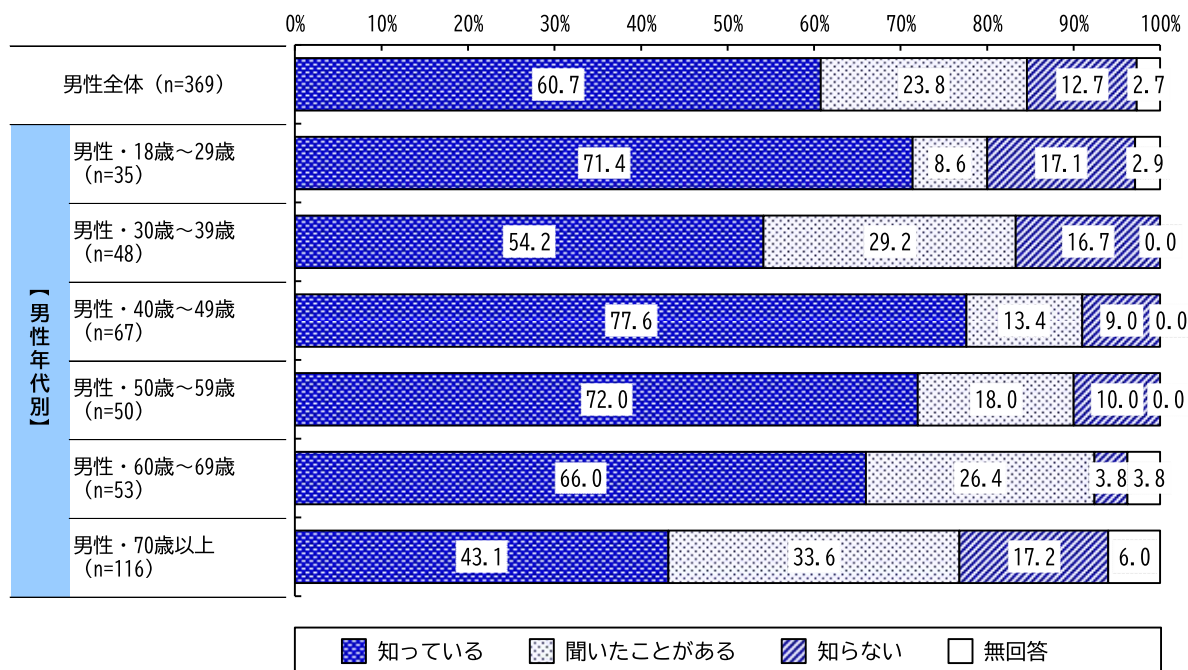
性・年代別でみると、男性、女性ともに70歳以上で「知っている」の割合が他の年代より低くなっています。

経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

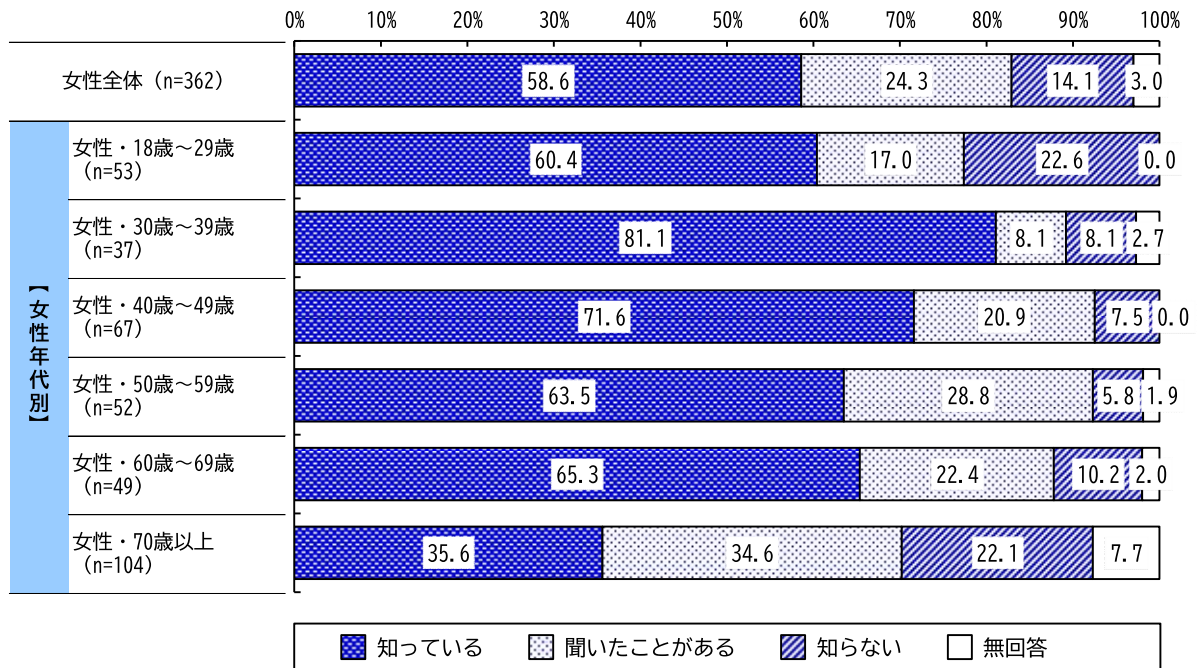
【全体・性別】



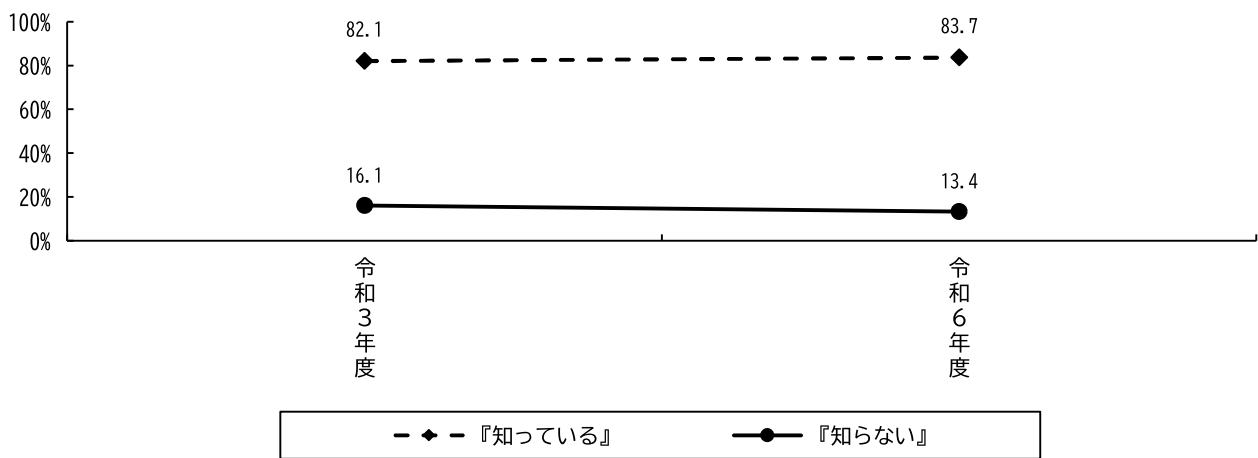
【性・年代別】



9 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和3年度	826	60.2%	21.9%	16.1%	1.8%
令和6年度	732	59.6%	24.2%	13.4%	2.9%

②性的指向

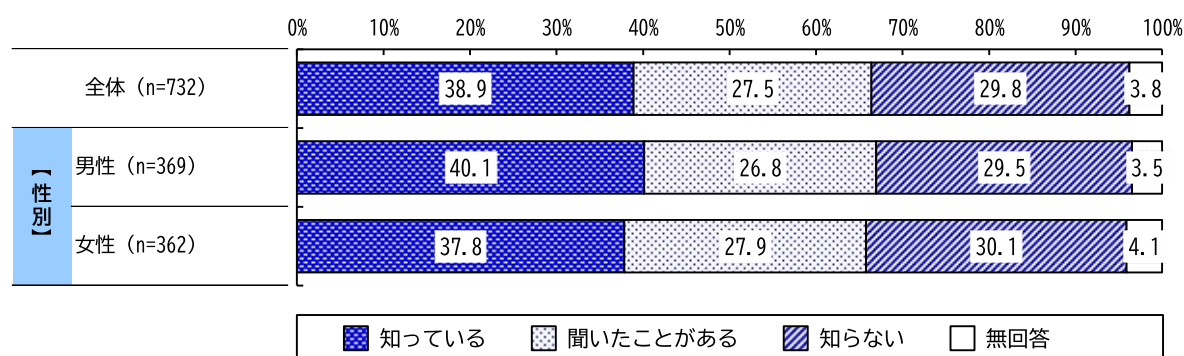
<性的指向>は男性、女性ともに『知っている』が6割以上。

【②性的指向】について性別でみると、男性、女性ともに『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が6割以上となっています。

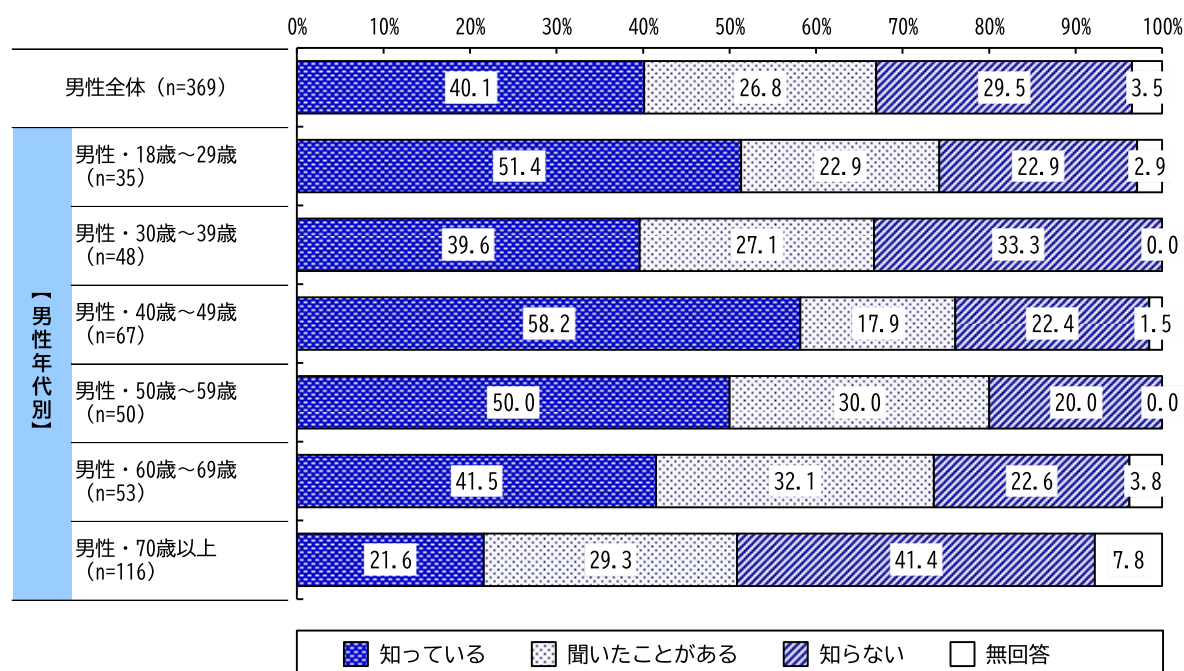
性・年代別でみると、男性、女性ともに70歳以上で「知っている」の割合が他の年代より低く、「知らない」の割合が4割以上となっています。

経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

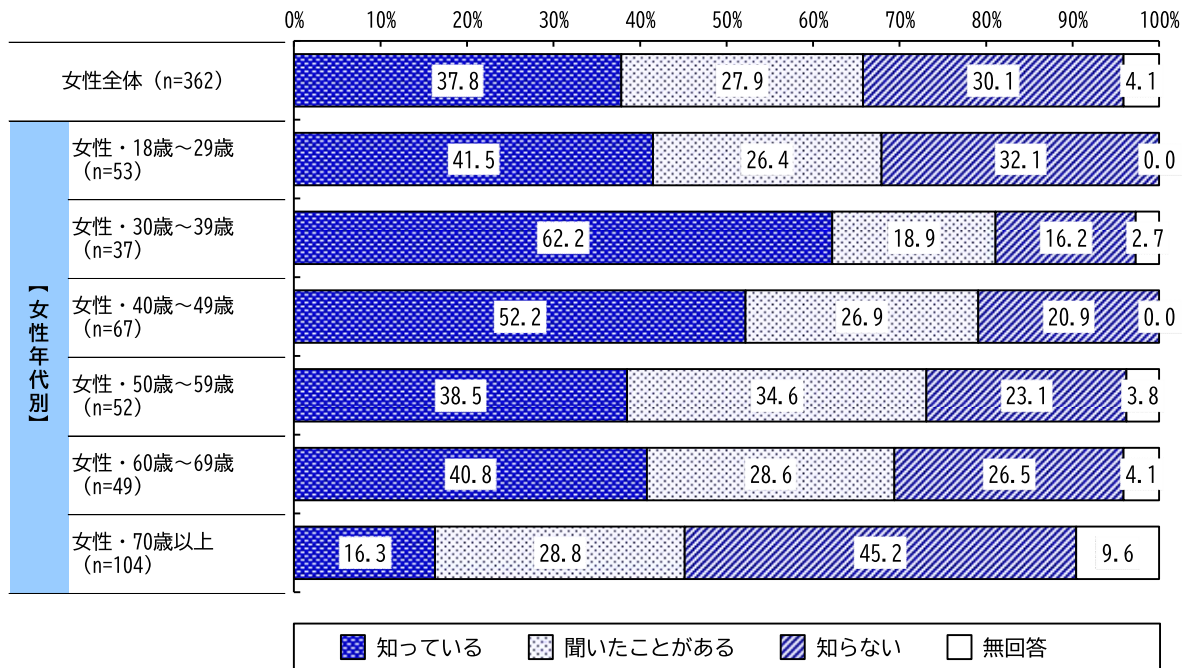
【全体・性別】



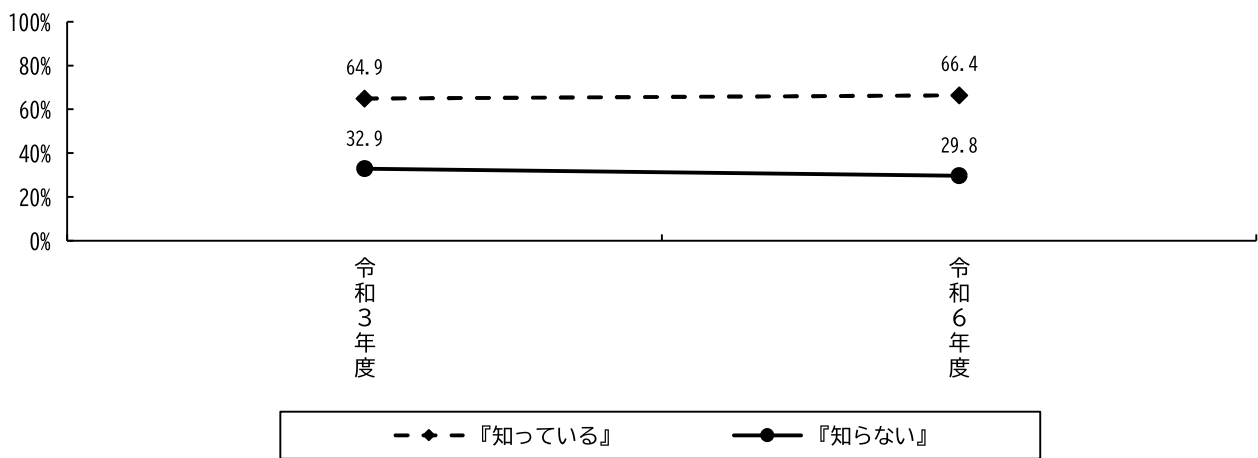
【性・年代別】



9 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和3年度	826	36.3%	28.6%	32.9%	2.2%
令和6年度	732	38.9%	27.5%	29.8%	3.8%

③性自認

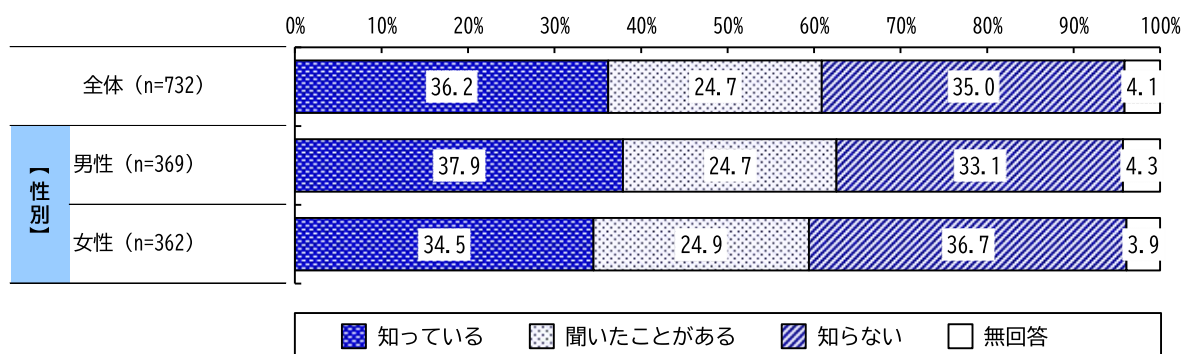
<性自認>は男性、女性ともに『知っている』が6割程度。

【③性自認】について性別でみると、男性、女性ともに『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が6割程度となっています。

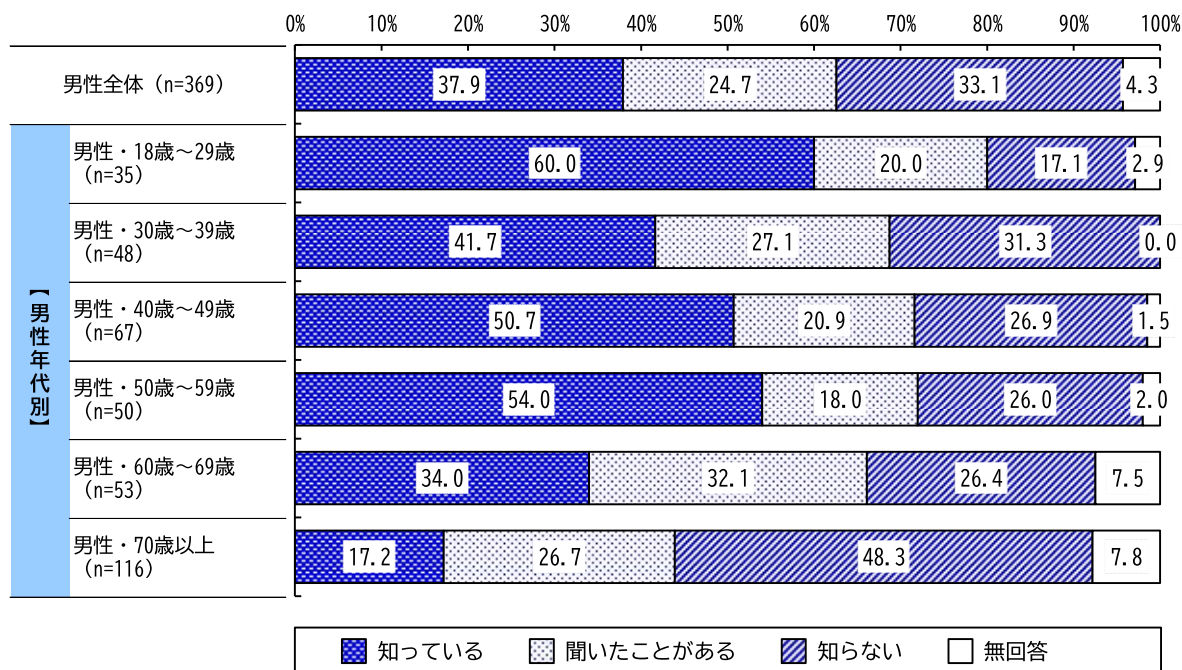
性・年代別でみると、男性、女性ともに70歳以上で「知っている」の割合が他の年代より低く、「知らない」の割合が5割程度となっています。

経年比較でみると、「知っている」が前回調査から8.2ポイント増加しています。

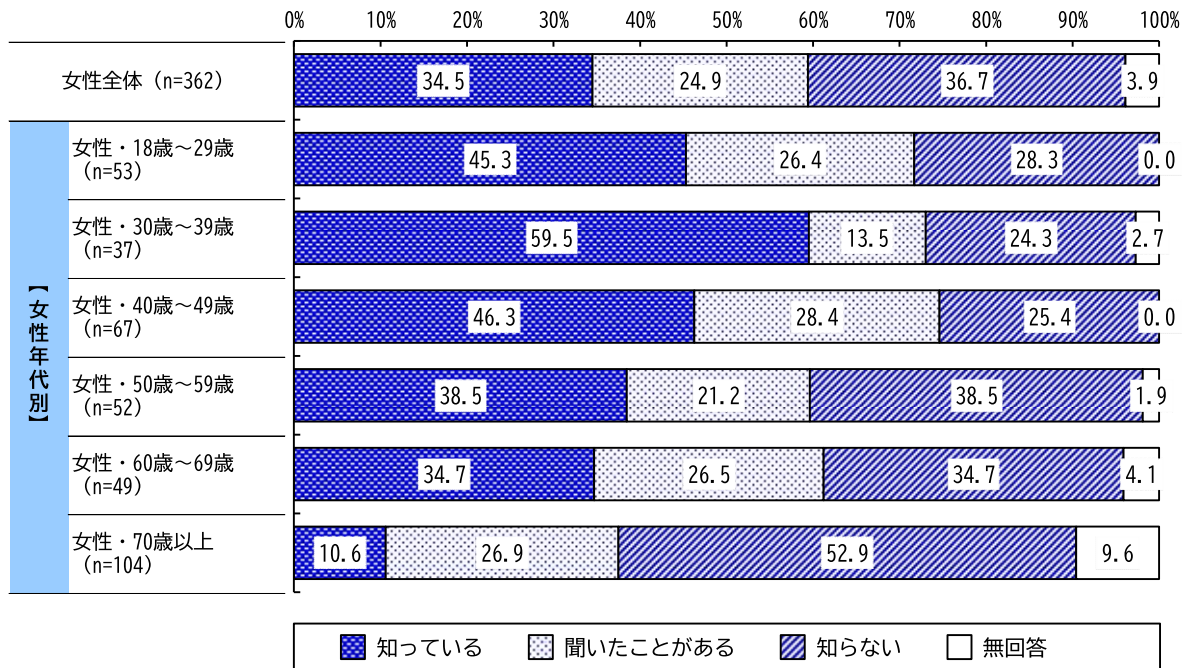
【全体・性別】



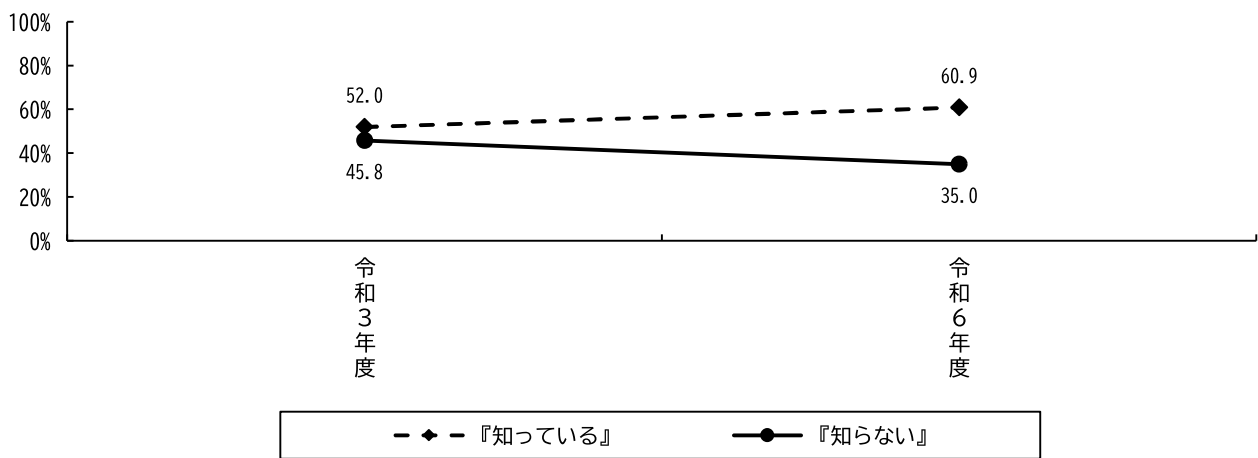
【性・年代別】



9 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和3年度	826	28.0%	24.0%	45.8%	2.3%
令和6年度	732	36.2%	24.7%	35.0%	4.1%

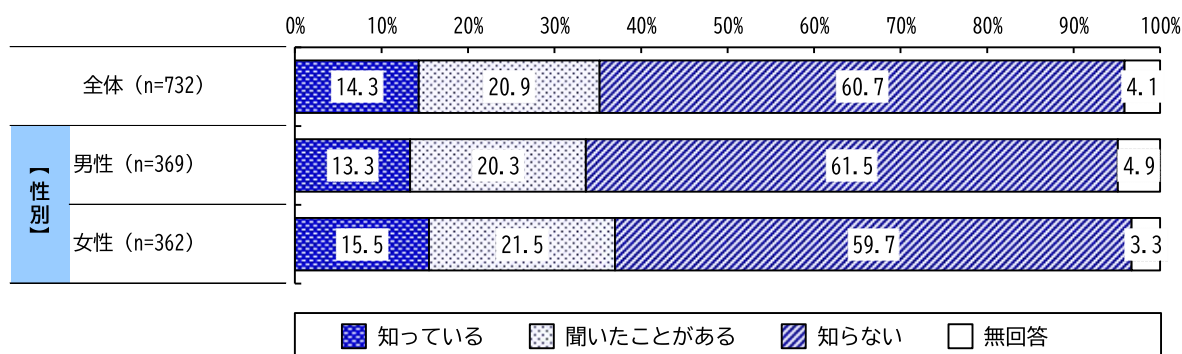
④静岡県パートナーシップ宣誓制度

＜静岡県パートナーシップ宣誓制度＞は男性、女性ともに「知らない」が6割程度。

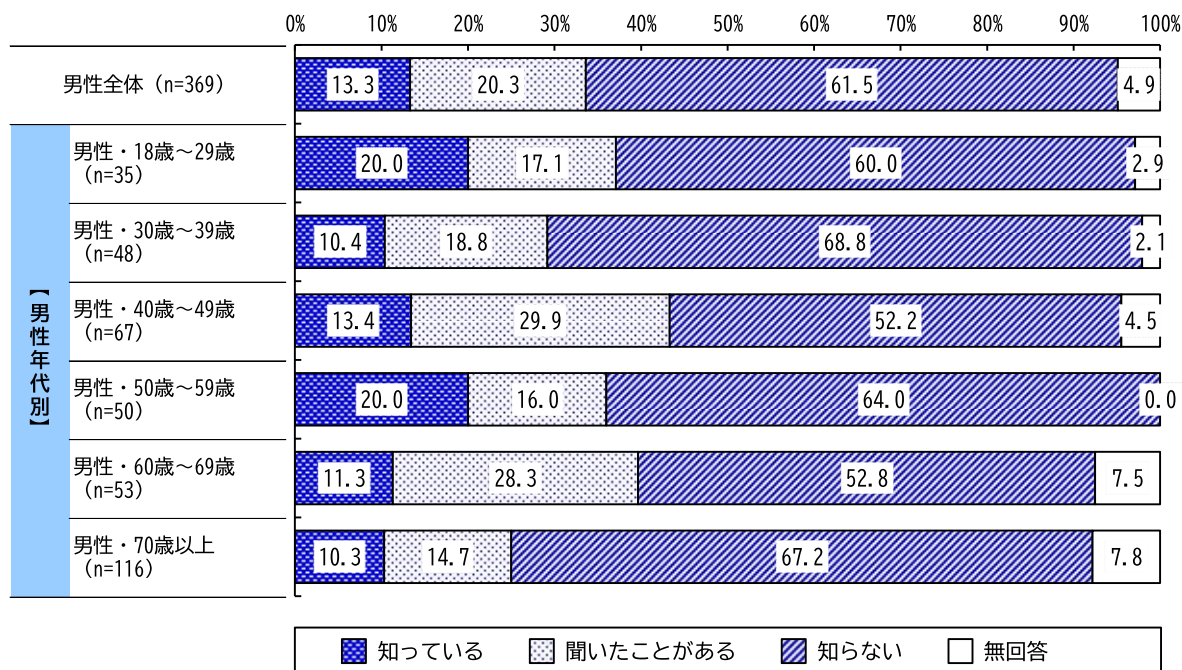
【④静岡県パートナーシップ宣誓制度】について性別でみると、男性、女性ともに「知らない」が6割程度となっています。

性・年代別でみると、女性の30歳～39歳で「知っている」が27.0%と他の年代に比べて高くなっています。また、男性の40歳～49歳、女性の50歳～59歳、60歳～69歳で「聞いたことがある」が3割程度となっています。

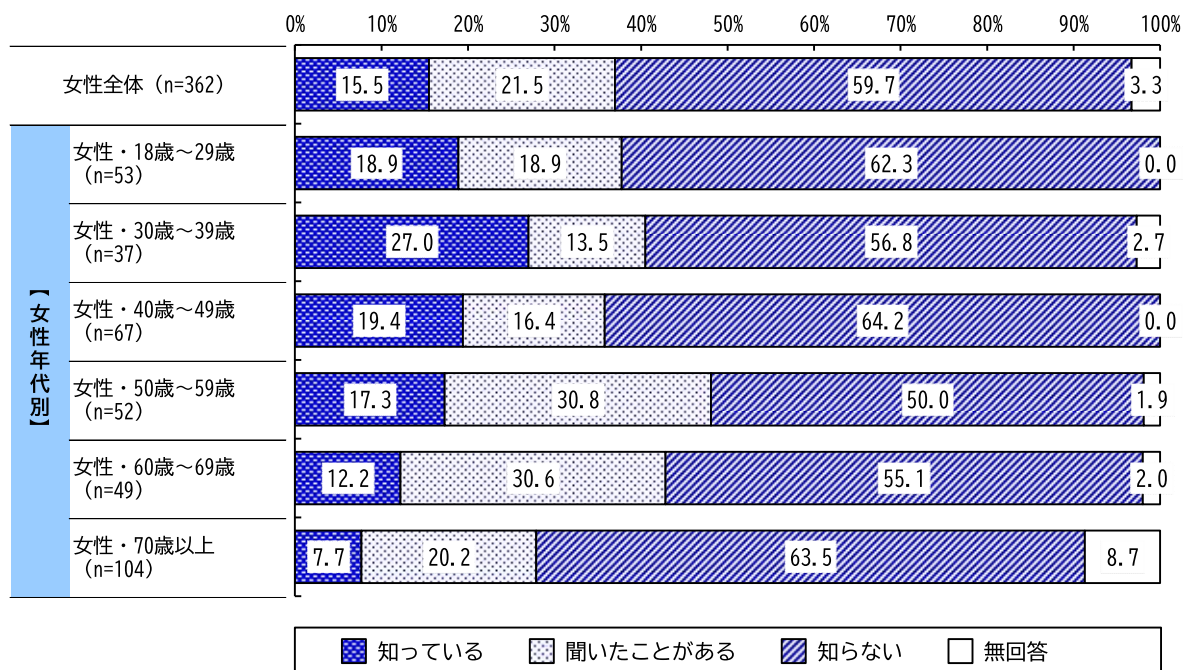
【全体・性別】



【性・年代別】



9 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について



2. 性的マイノリティの方が身近にいるか

問 26 あなたの周りに、性的マイノリティ（LGBT などの性的少数者）の方はいますか。

性的マイノリティの方は身近に「いると思う」が 18.6%。

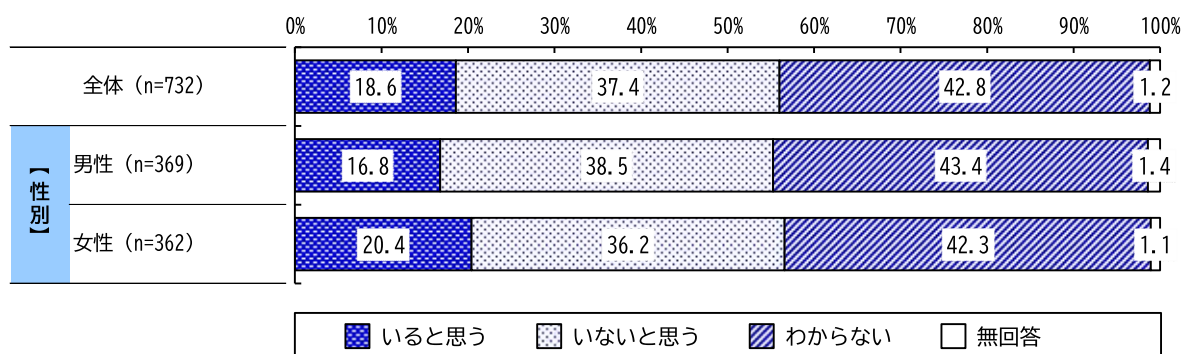
周りに、性的マイノリティ（LGBT などの性的少数者）の方がいるかについてたずねたところ、「いると思う」が 18.6%、「いないと思う」が 37.4%、「わからない」が 42.8%となっています。

性別でみると、「いると思う」は男性が 16.8%、女性が 20.4%となっています。

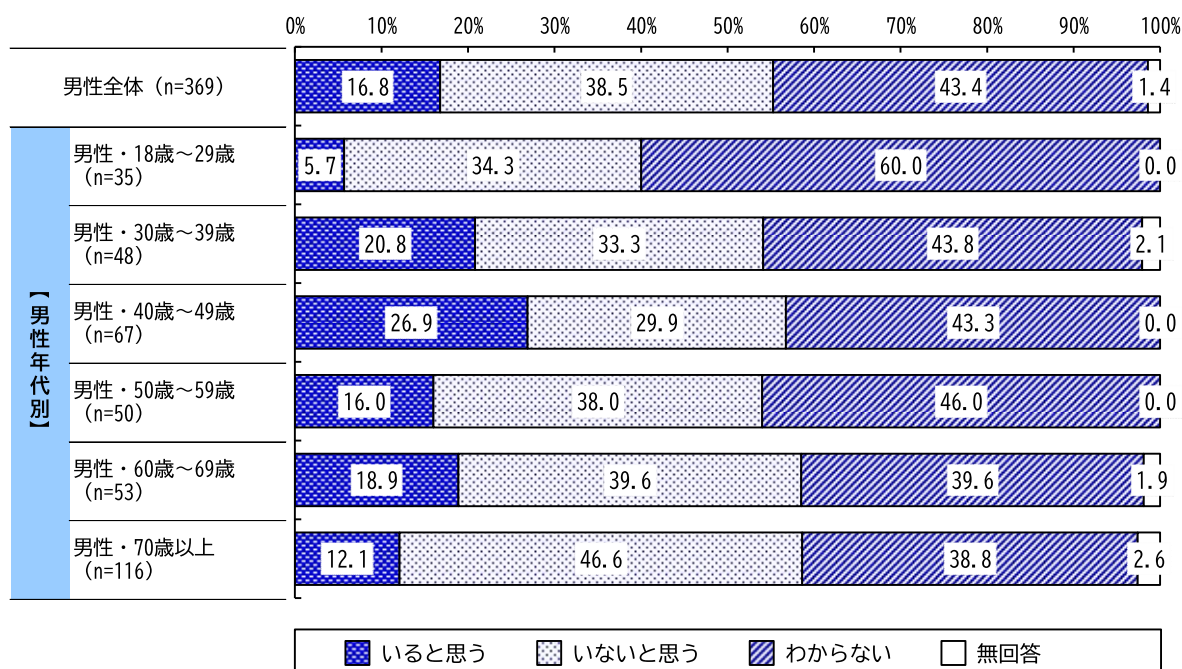
性・年代別でみると、女性の 30 歳～39 歳で「いると思う」の割合が他の年代に比べて高くなっています。

経年比較でみると、「いると思う」が前回調査（前回調査の選択肢は「いる」）よりやや高くなっています。

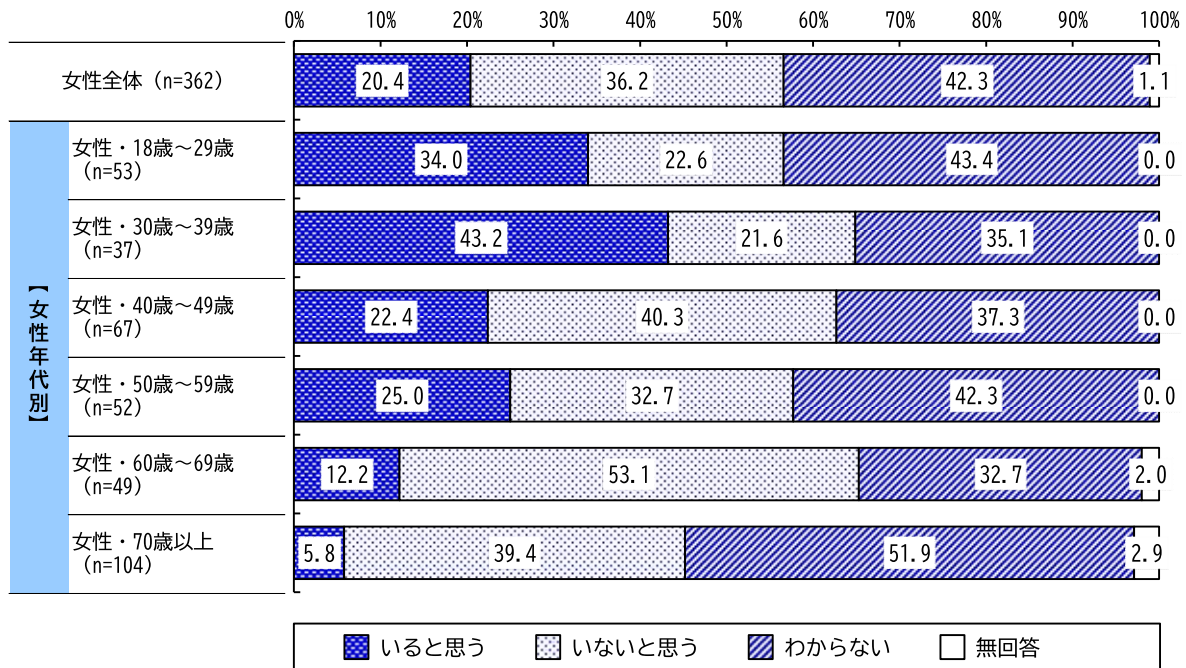
【全体・性別】



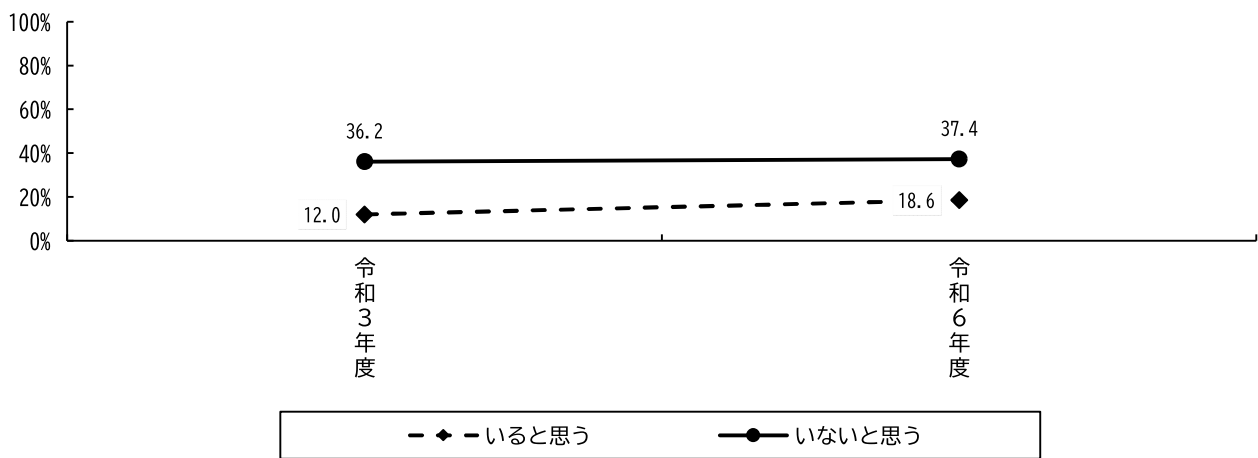
【性・年代別】



9 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※令和3年度は「いる」「いない」。

	調査数	いると思う	いないと思う	わからない	無回答
令和3年度	826	12.0%	36.2%	49.8%	2.1%
令和6年度	732	18.6%	37.4%	42.8%	1.2%

3. 性的マイノリティの方々に対する差別への対策

問 27 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。
(1つに○)

性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策は「必要だと思う」が58.5%。

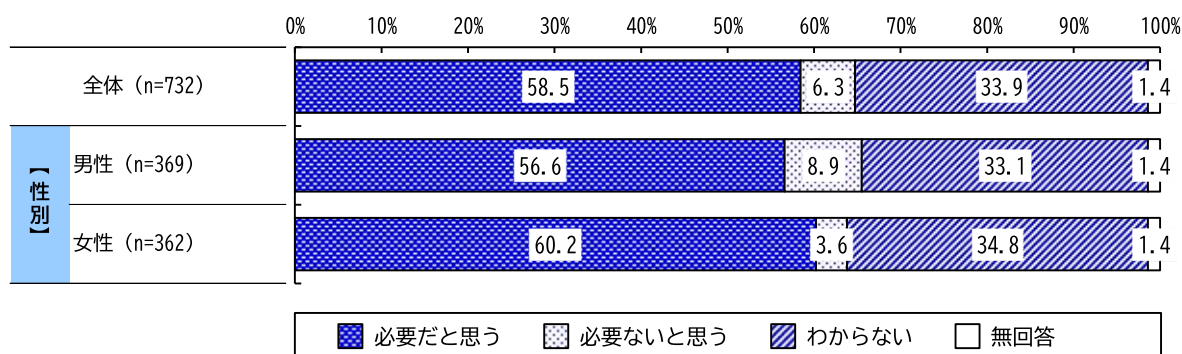
性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思うかについてたずねたところ、「必要だと思う」が58.5%、「必要ないと思う」が6.3%、「わからない」が33.9%となっています。

性別でみると、「必要だと思う」の割合が、男性は56.6%、女性は60.2%で、女性が男性より高い割合となっています。

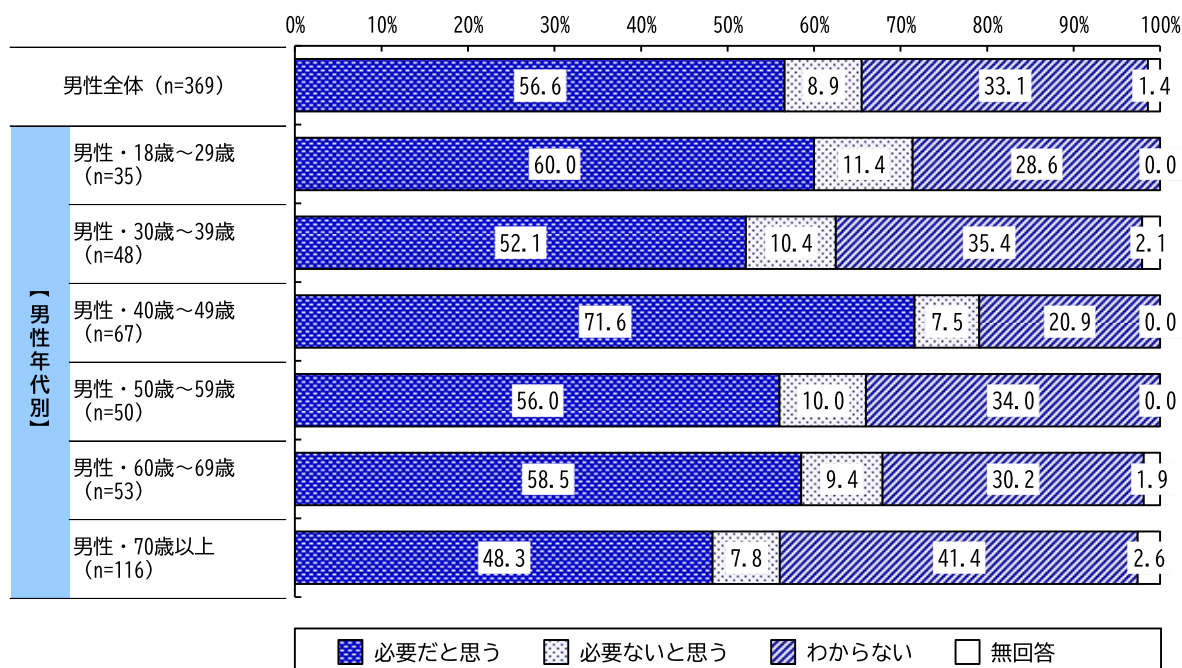
性・年代別でみると、男性の40歳～49歳、女性の40歳～49歳、50歳～59歳で「必要だと思う」の割合が7割以上となっています。

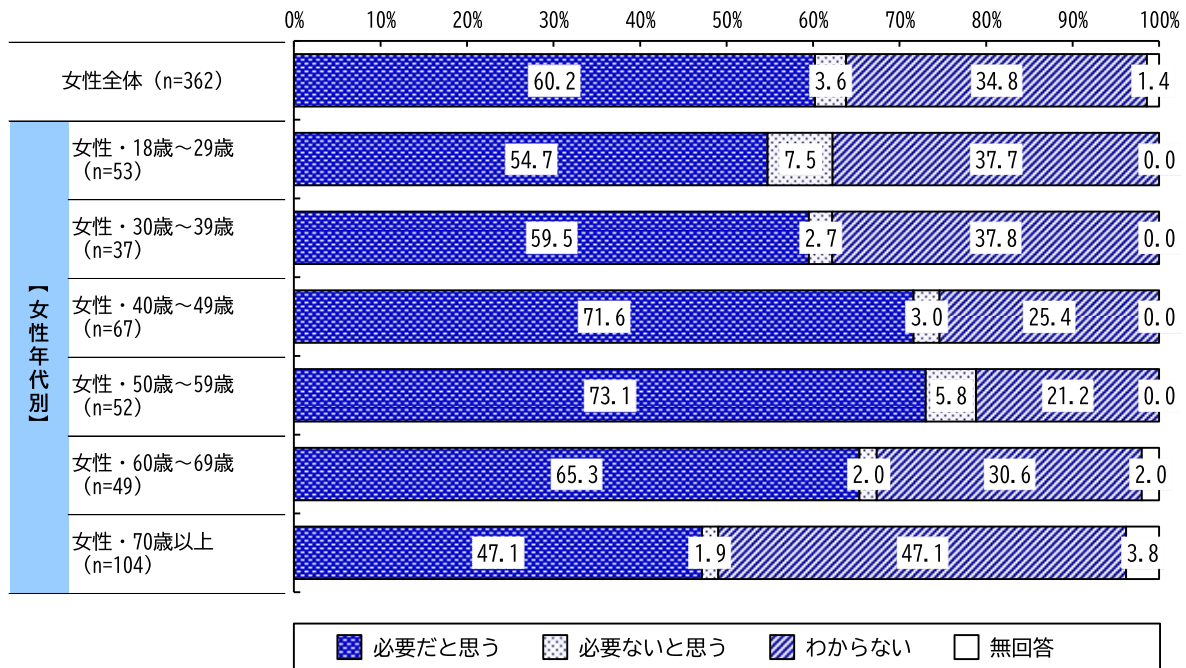
経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別】

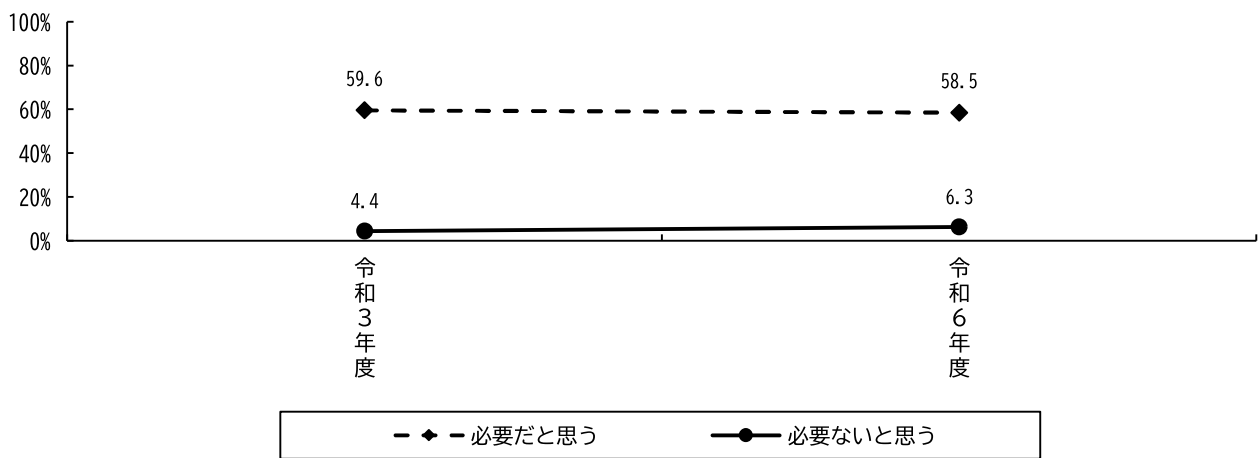


【性・年代別】





【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

	調査数	必要だと思う	必要ないと思う	わからない	無回答
令和3年度	826	59.6%	4.4%	34.3%	1.8%
令和6年度	732	58.5%	6.3%	33.9%	1.4%

4. 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別への対策

問28 (問27で「1. 必要だと思う」と答えた方に伺います。)

性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

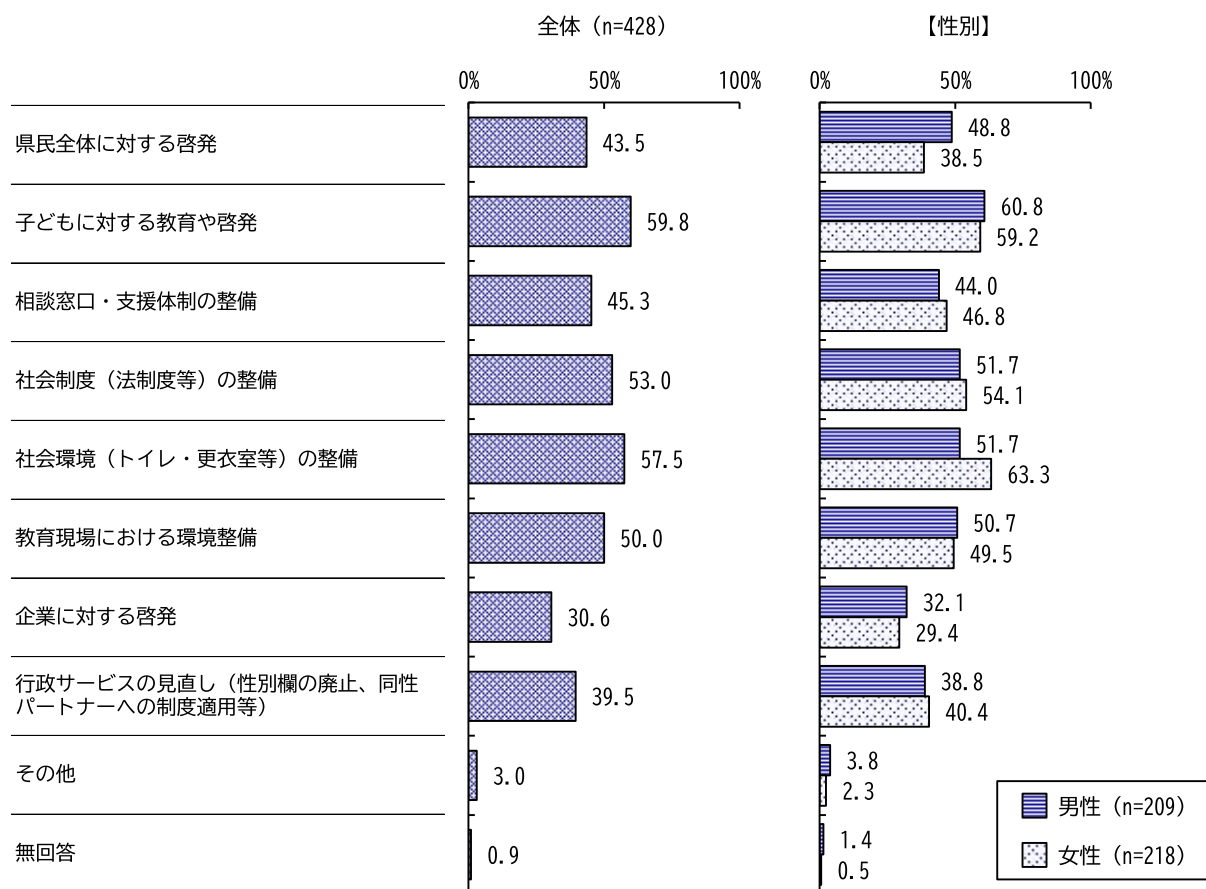
対策で必要なものは「子どもに対する教育や啓発」、「社会環境(トイレ・更衣室等)の整備」、「社会制度(法制度等)の整備」、「教育現場における環境整備」が5割以上。

性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要だと思うかについてたずねたところ、「子どもに対する教育や啓発」が59.8%と最も高く、次に「社会環境(トイレ・更衣室等)の整備」が57.5%、「社会制度(法制度等)の整備」が53.0%、「教育現場における環境整備」が50.0%となっています。

性別でみると、男性が女性より高い割合となっている項目は「県民全体に対する啓発」(10.3ポイント差)などがあり、女性が男性より高い割合となっている項目は「社会環境(トイレ・更衣室等)の整備」(11.6ポイント差)などとなっており、男女間で差がみられます。

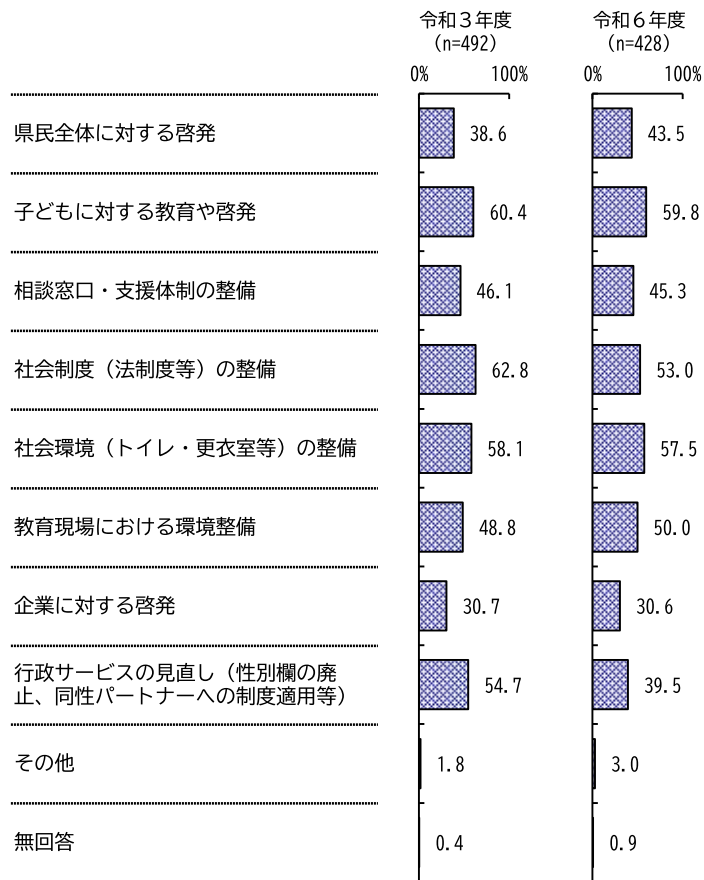
経年比較でみると、「行政サービスの見直し(性別欄の廃止、同性パートナーへの制度適用等)」、「社会制度(法制度等)の整備」が前回調査より低くなっています。

【全体・性別】



9 性的マイノリティ（LGBT などの性的少数者）について

【経年比較】



10 その他（男女共同参画関係）

1. 男女共同参画社会に関する知識

問 29 あなたは次のことがらを知っていますか。（それぞれ1つに○）

【男女共同参画社会】は7割、【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】は8割が『知っている』。
 【アンコンシャス・バイアス】は7割以上が『知らない』、
 【リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】、【フェムテック】は8割以上が『知らない』。

【①男女共同参画社会】については、「知っている」が38.7%、「聞いたことがある」が33.3%、「知らない」が24.2%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が72.0%となっています。

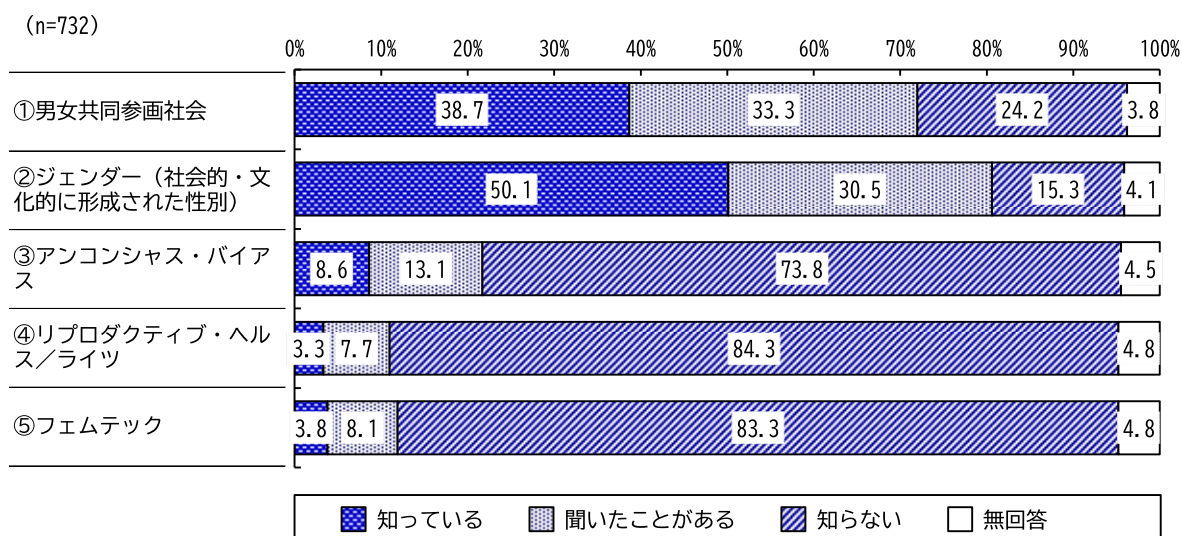
【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】については、「知っている」が50.1%、「聞いたことがある」が30.5%、「知らない」が15.3%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が80.6%となっています。

【③アンコンシャス・バイアス】については、「知っている」が8.6%、「聞いたことがある」が13.1%、「知らない」が73.8%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が21.7%となっています。

【④リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】については、「知っている」が3.3%、「聞いたことがある」が7.7%、「知らない」が84.3%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が11.0%となっています。

【⑤フェムテック】については、「知っている」が3.8%、「聞いたことがある」が8.1%、「知らない」が83.3%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が11.9%となっています。

【全体】



①男女共同参画社会

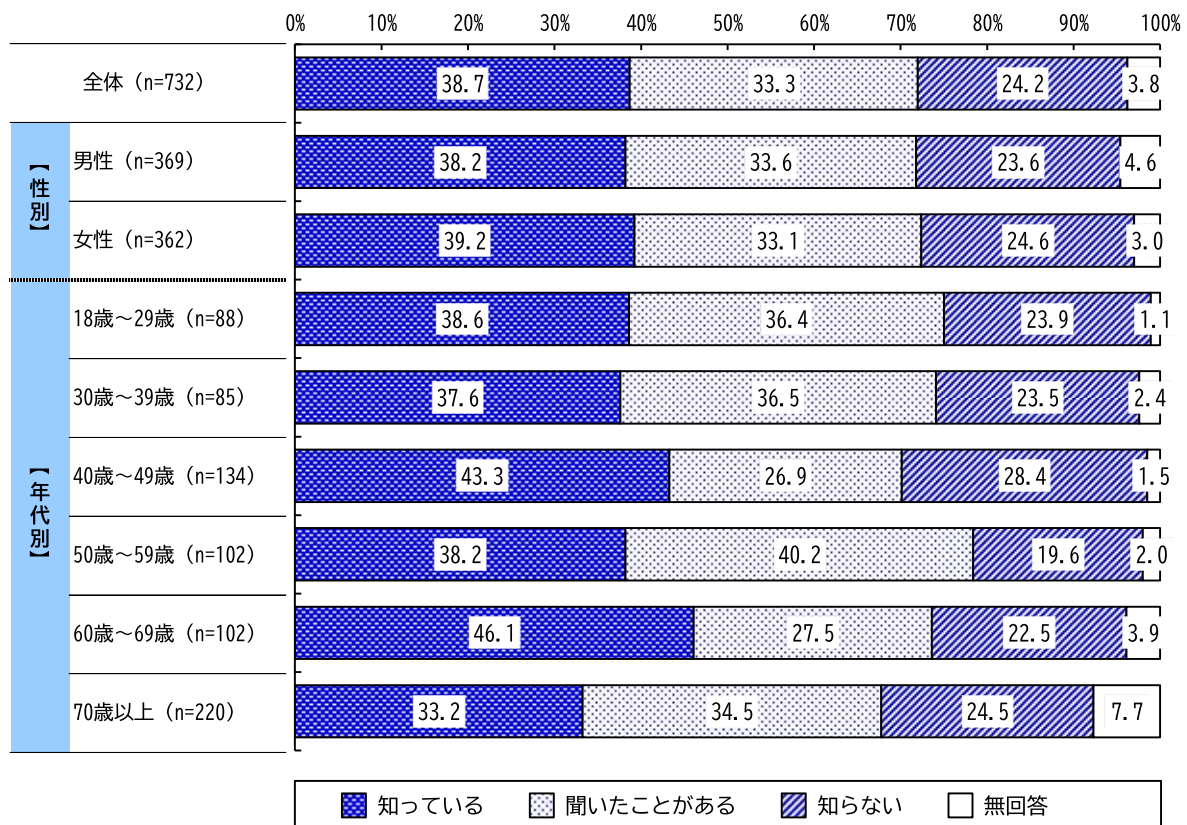
＜男女共同参画社会＞は男性、女性ともに『知っている』が7割以上。

【①男女共同参画社会】について性別でみると、男性、女性ともに『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が7割以上となっています。

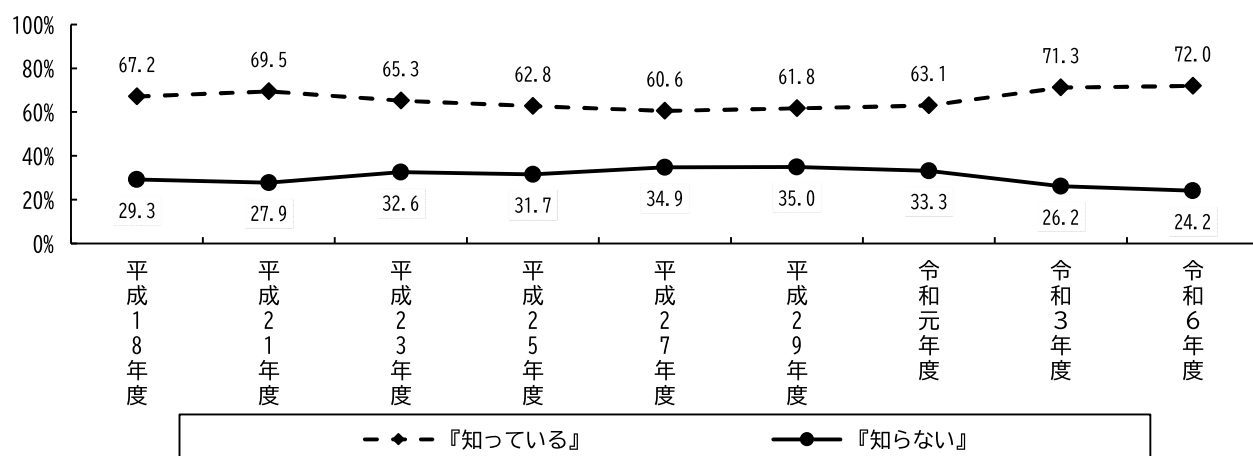
年代別でみると、『知っている』の割合が60歳～69歳以下では7割以上となっています。

経年比較でみると、今年度調査で『知っている』の割合が過去最高となっています。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
平成18年度	570	31.4%	35.8%	29.3%	3.5%
平成21年度	653	29.4%	40.1%	27.9%	2.6%
平成23年度	577	28.2%	37.1%	32.6%	2.1%
平成25年度	793	32.7%	30.1%	31.7%	5.5%
平成27年度	899	29.8%	30.8%	34.9%	4.4%
平成29年度	782	31.1%	30.7%	35.0%	3.2%
令和元年度	744	34.7%	28.4%	33.3%	3.6%
令和3年度	826	40.3%	31.0%	26.2%	2.5%
令和6年度	732	38.7%	33.3%	24.2%	3.8%

②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

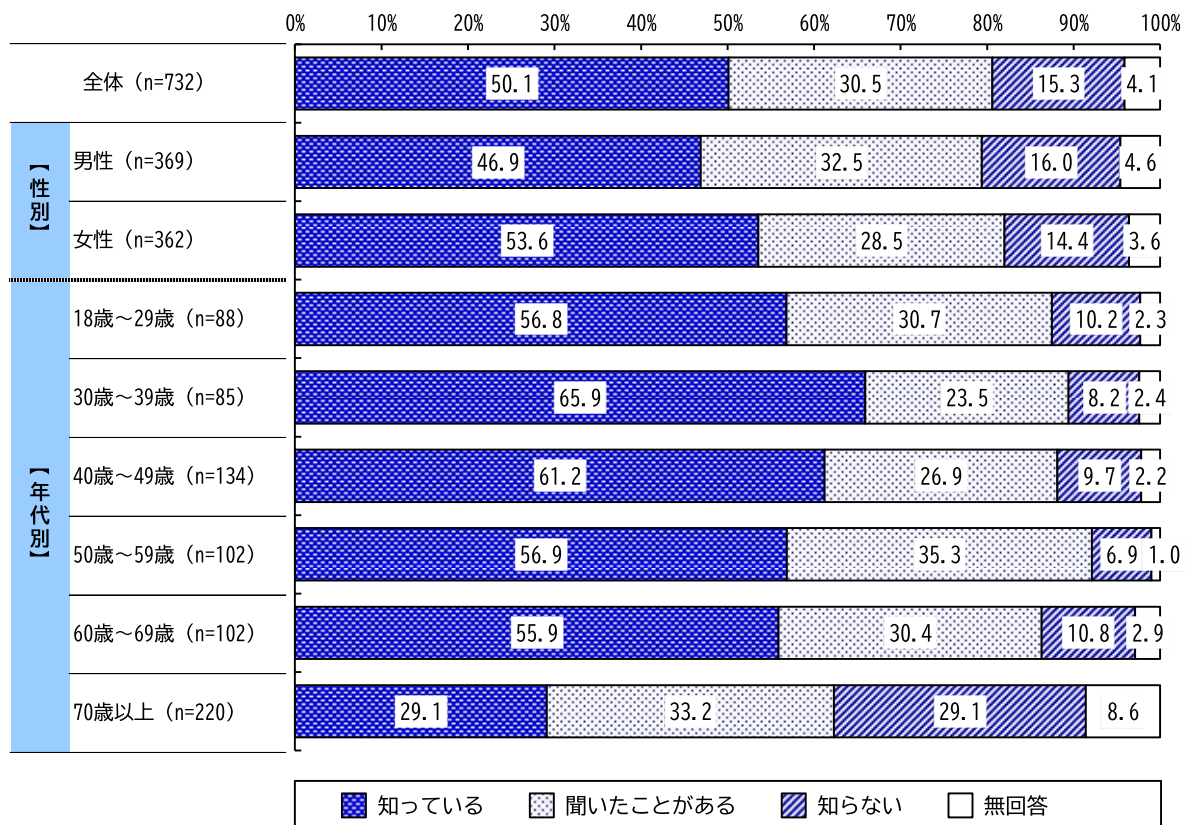
＜ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）＞は男性、女性ともに「知っている」が8割程度。

【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】について性別でみると、男性、女性ともに『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が8割程度となっています。

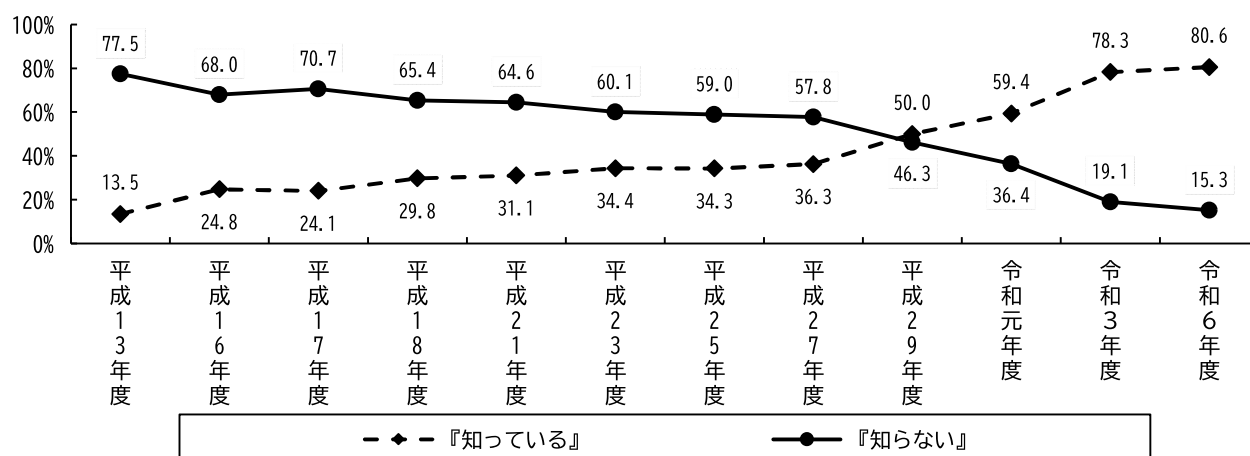
年代別でみると、70歳以上で「知っている」の割合が他の年代と比べて低くなっています。

経年比較でみると、今年度調査で『知っている』の割合が過去最高となっています。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
平成13年度	1,133	6.4%	7.1%	77.5%	9.0%
平成16年度	800	11.8%	13.0%	68.0%	7.3%
平成17年度	836	13.0%	11.1%	70.7%	5.1%
平成18年度	570	11.2%	18.6%	65.4%	4.7%
平成21年度	653	12.3%	18.8%	64.6%	4.3%
平成23年度	577	12.7%	21.7%	60.1%	5.5%
平成25年度	793	16.8%	17.5%	59.0%	6.7%
平成27年度	899	16.7%	19.6%	57.8%	5.9%
平成29年度	782	26.5%	23.5%	46.3%	3.7%
令和元年度	744	34.7%	24.7%	36.4%	4.2%
令和3年度	826	46.2%	32.1%	19.1%	2.5%
令和6年度	732	50.1%	30.5%	15.3%	4.1%

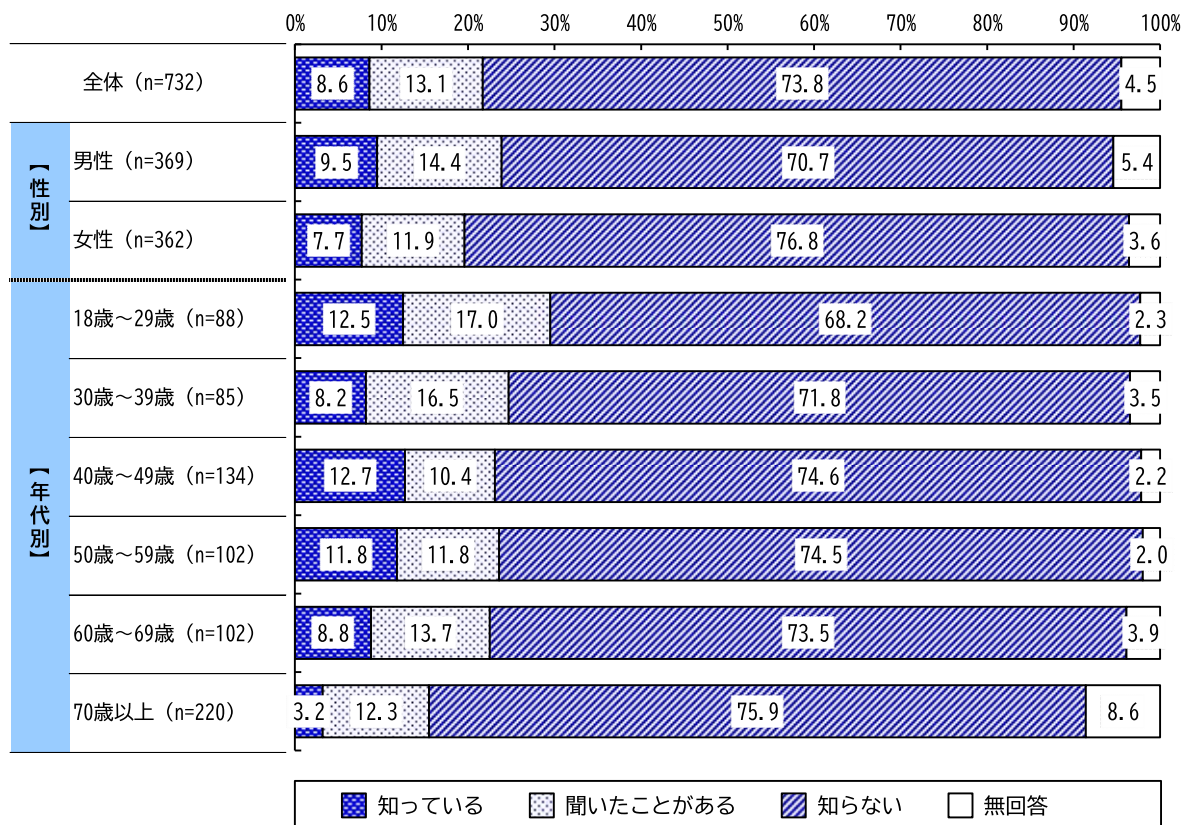
③アンコンシャス・バイアス

<アンコンシャス・バイアス>は男性、女性ともに「知らない」が7割以上。

【③アンコンシャス・バイアス】について性別でみると、男性、女性ともに「知らない」が7割以上となっています。『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）は男性で23.9%、女性で19.6%となっています。

年代別でみると、18歳～29歳で『知っている』が29.5%と他の年代よりやや高くなっています。

【全体・性別・年代別】



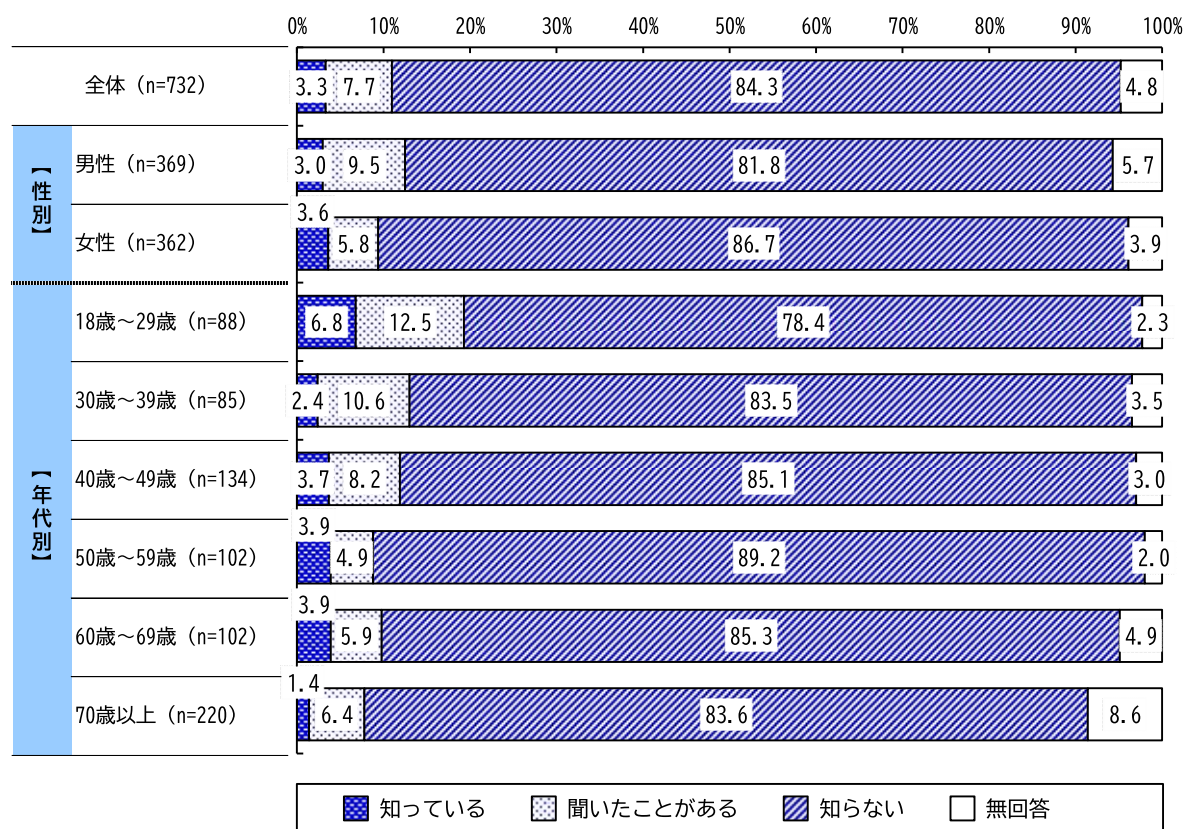
④リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

＜リプロダクティブ・ヘルス／ライツ＞は男性、女性ともに「知らない」が8割以上。

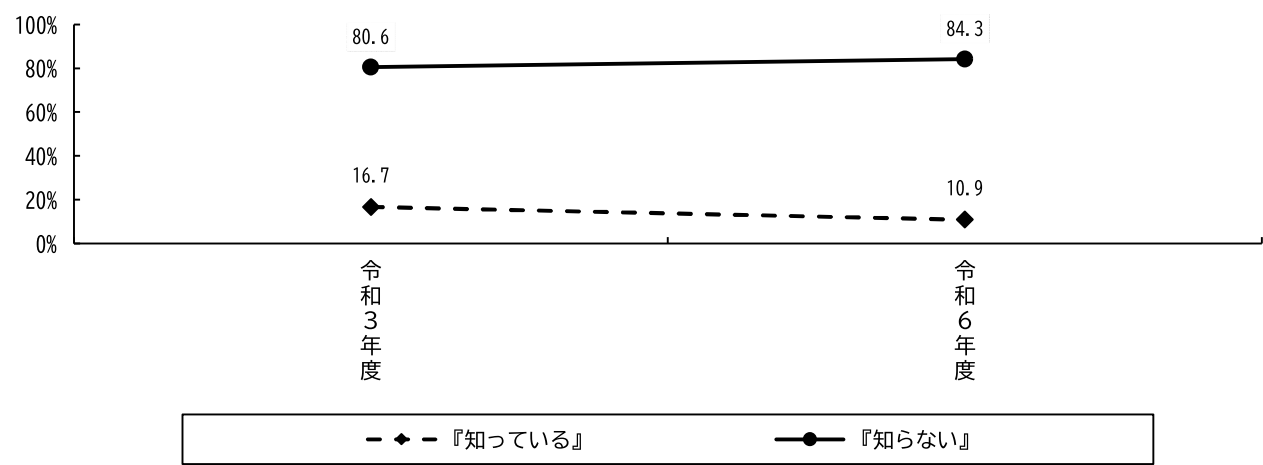
【④リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】について性別で見ると、男性、女性ともに「知らない」が8割以上となっています。『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）は男性で12.5%、女性で9.4%となっています。

年代別で見ると、『知っている』の割合が18歳～29歳では19.3%と他の年代より高くなっています。経年比較で見ると、『知っている』の割合が前回調査より低くなっています。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。
※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

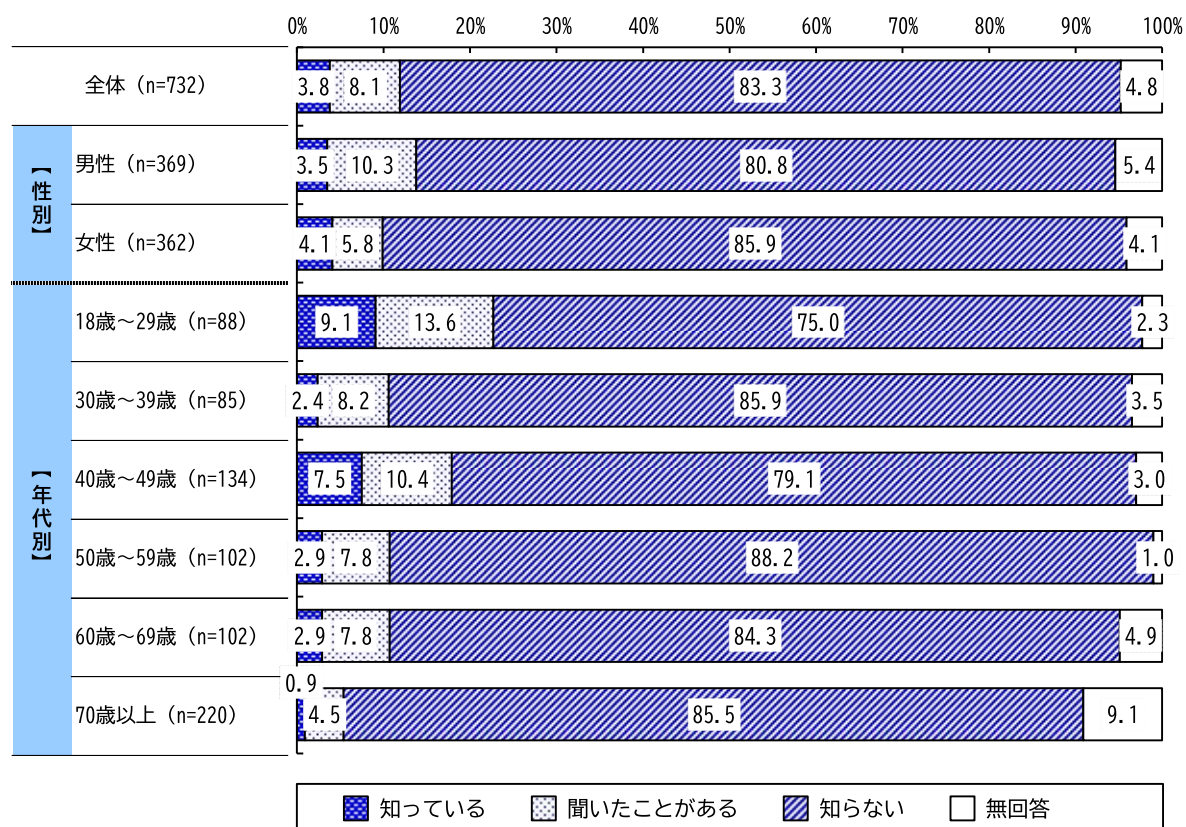
	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和3年度	826	5.4%	11.3%	80.6%	2.7%
令和6年度	732	3.3%	7.7%	84.3%	4.8%

⑤フェムテック

<フェムテック>は男性、女性ともに「知らない」が8割以上。

【⑤フェムテック】について性別でみると、男性、女性ともに「知らない」が8割以上となっています。『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）は男性で13.8%、女性で9.9%となっています。年代別でみると、『知っている』の割合が18歳～29歳で22.7%と他の年代より高くなっています。

【全体・性別・年代別】



2. 女性活躍推進法による今後の女性の活躍について

問 30 国・地方公共団体や民間企業等に数値目標等の策定・公表を義務づけた女性活躍推進法により、今後、女性の活躍が促進すると思いますか。（1つに○）

女性活躍推進法で今後の女性の活躍は『促進する』が56.1%。

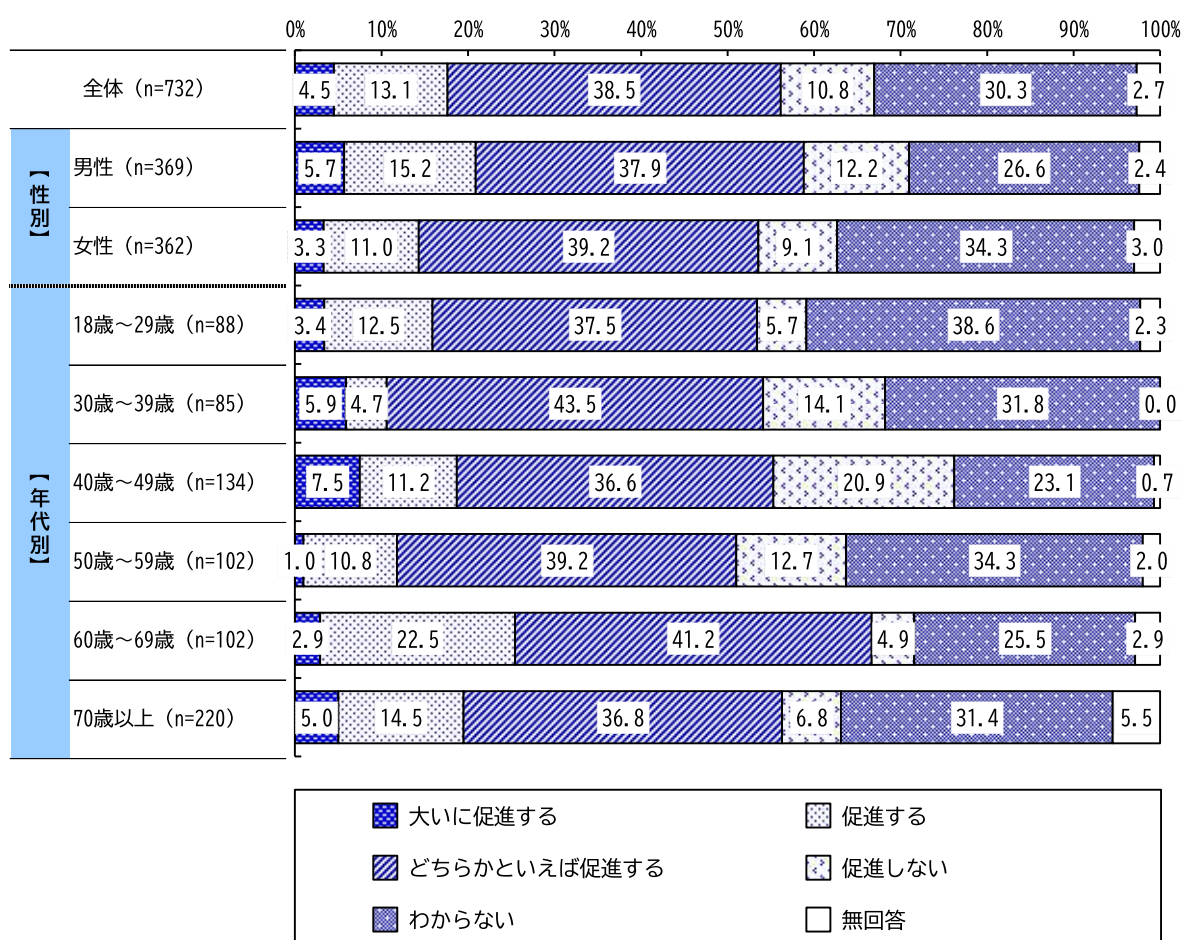
女性活躍推進法により、今後、女性の活躍が促進すると思うかたずねたところ、「大いに促進する」が4.5%、「促進する」が13.1%、「どちらかといえば促進する」が38.5%、「促進しない」が10.8%、「わからない」が30.3%となっています。『促進する』（大いに促進する）＋「促進する」＋「どちらかといえば促進する」が56.1%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに『促進する』は5割以上となっています。

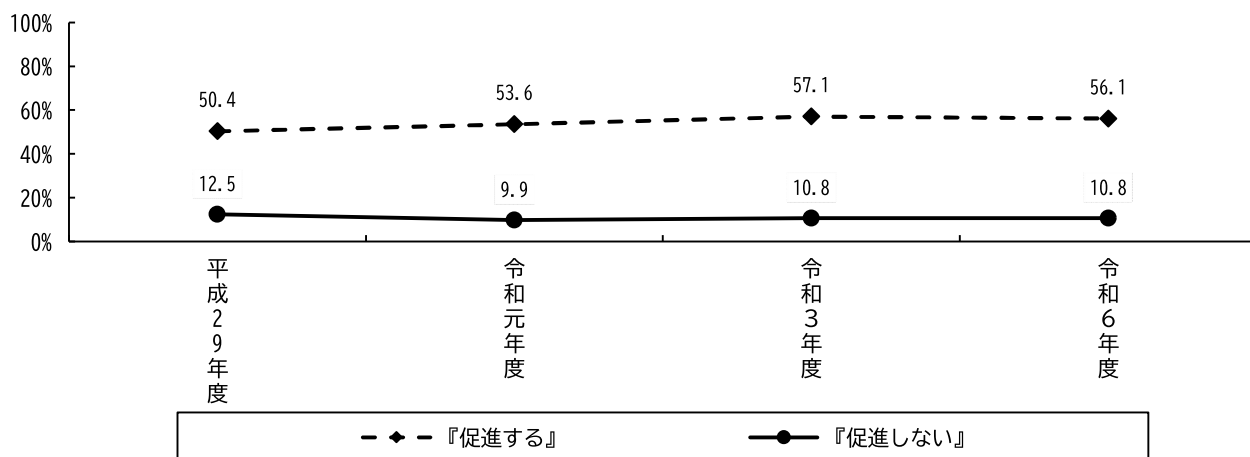
年代別でみると、60歳～69歳で「促進する」の割合が他の年代と比べて高くなっています。また、40歳～49歳で「促進しない」の割合が他の年代と比べて高くなっています。

経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『促進する』（「大いに促進する」＋「促進する」＋「どちらかといえば促進する」）

	調査数	大いに促進する	促進する	どちらかといえば促進する	促進しない	わからない	無回答
平成29年度	782	2.7%	11.6%	36.1%	12.5%	33.2%	3.8%
令和元年度	744	1.6%	12.9%	39.1%	9.9%	33.9%	2.6%
令和3年度	826	3.0%	14.0%	40.1%	10.8%	29.9%	2.2%
令和6年度	732	4.5%	13.1%	38.5%	10.8%	30.3%	2.7%

3. 男女共同参画社会の実現のために重要な取組

問 31 男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組は何でしょうか。（3つまでに○）

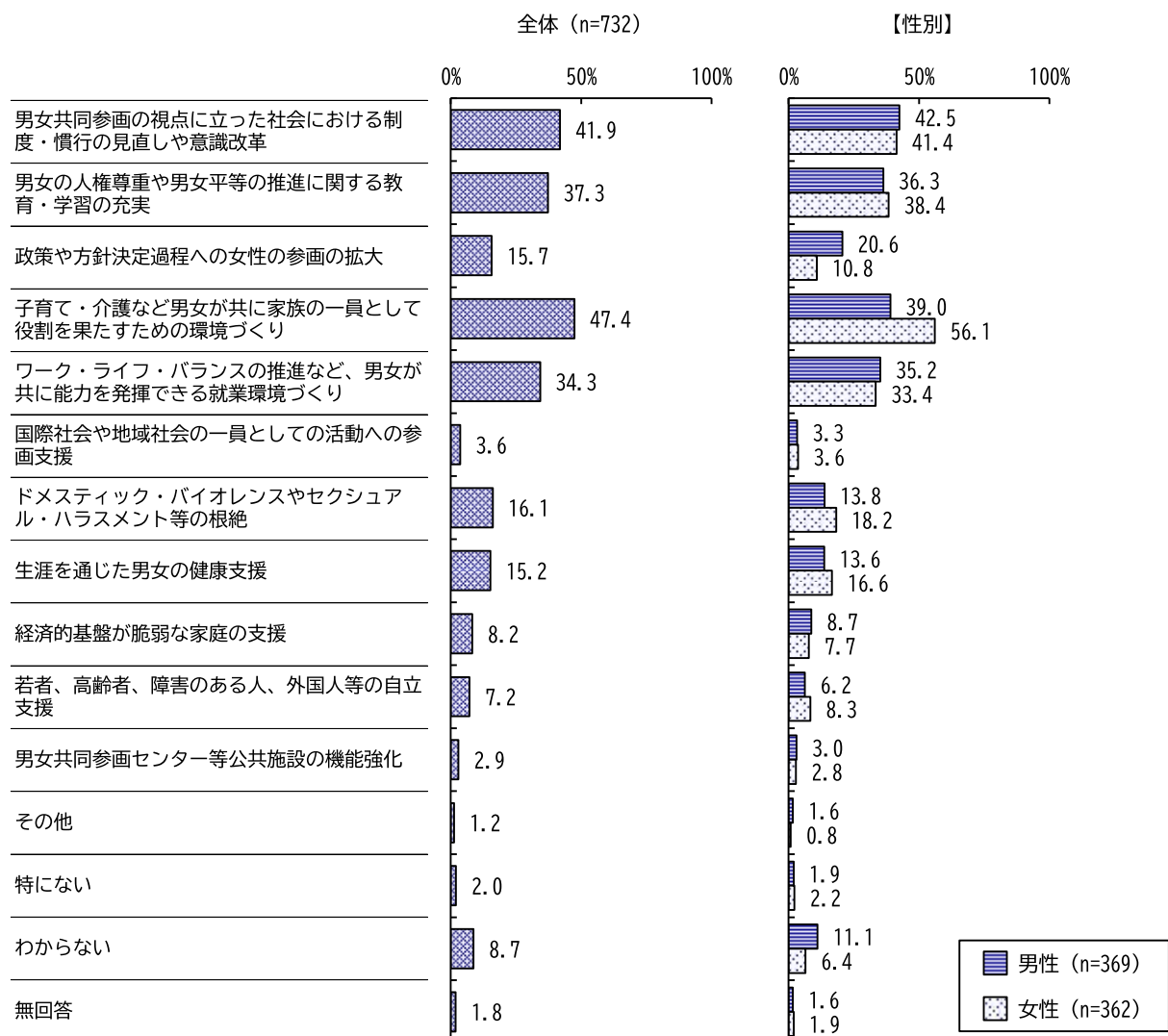
「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」や
「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」。

男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組をたずねたところ、「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」が 47.4%と最も高く、次に「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」が 41.9%、「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実」が 37.3%、「ワーク・ライフ・バランスの推進など、男女が共に能力を発揮できる就業環境づくり」が 34.3%となっています。

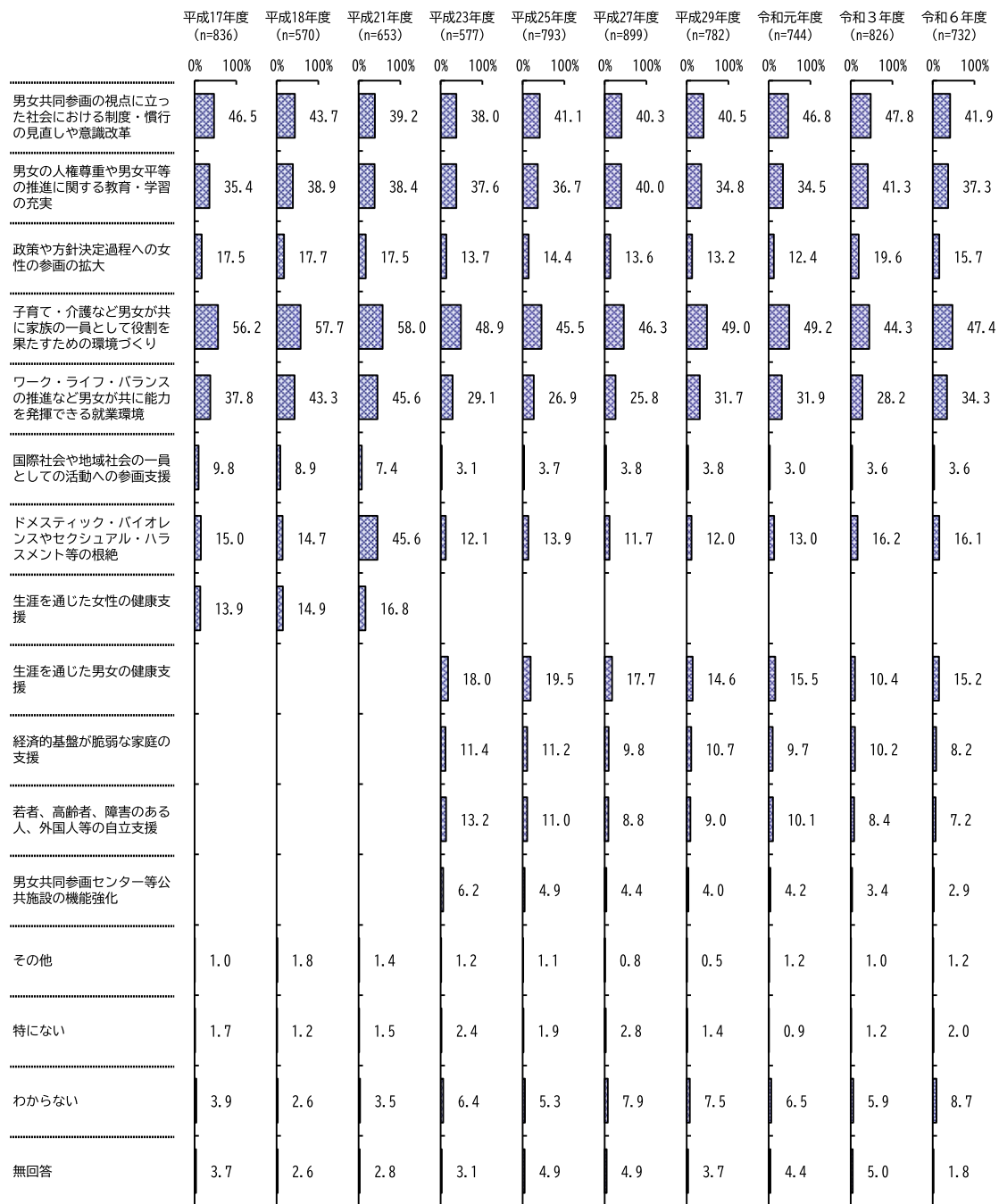
性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」（17.1 ポイント差）などとなっており、男女間で差がみられます。

経年比較でみると、「ワーク・ライフ・バランスの推進など男女が共に能力を発揮できる就業環境」、「生涯を通じた男女の健康支援」の割合が前回調査よりやや高く、「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」の割合が前回調査よりやや低くなっています。

【全体・性別】



【経年比較】



※「生涯を通じた女性の健康支援」は平成23年度より「生涯を通じた男女の健康支援」に変更

※「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「若者、高齢者、障害のある人、外国人等の自立支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加